

授 業 計 画

平成 24 年度

# *Syllabus 2012*

---

健康科学部 看護学科

# 健康科学部

## 看護学科

# 兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

## 兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



### アドミッションポリシー (AP)

#### 入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

### カリキュラムポリシー (CP)

#### 教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

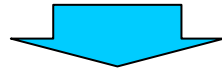
### ディプロマポリシー (DP)

#### 学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

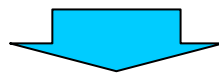


兵庫大学

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

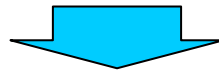


健康科学部

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)



看護学科

アドミッション  
ポリシー  
(AP)

カリキュラム  
ポリシー  
(CP)

ディプロマ  
ポリシー  
(DP)

みなさんは、

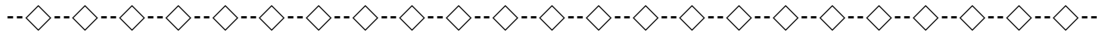
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

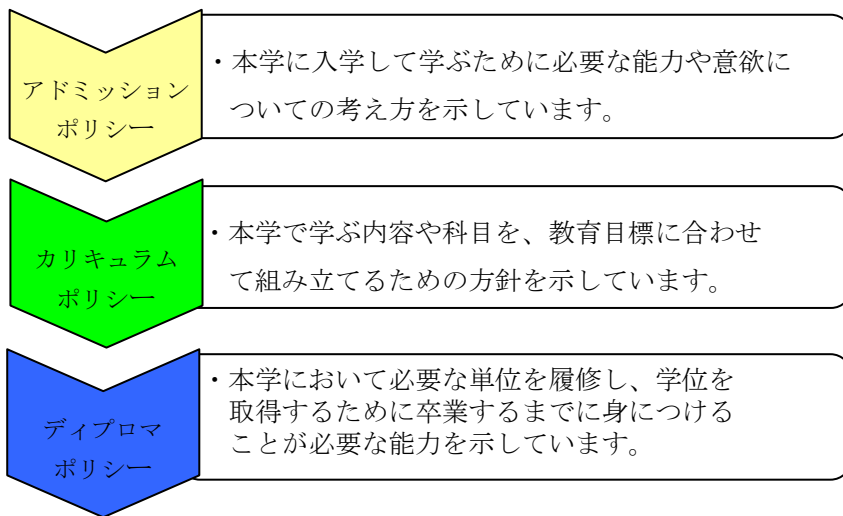
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

## 健康科学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



### 3つの方針（ポリシー）について



## 看護学科ポリシー

看護学科は、学部ポリシーに基づき、豊かな人間性と看護実践能力を備え、地域社会に貢献できる人材の育成を目指します。

### アドミッション ポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 人の命や健康に関心を持ち、看護に対して熱意のある人
2. 誠実で何事に対しても努力する姿勢のある人
3. 生涯にわたり自己を管理して学習に取り組もうとする向上心のある人

### カリキュラム ポリシー

・看護学科のディプロマポリシーに示された5つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 人間理解と人権擁護に必要な幅広い学問分野の知識や技術を習得し、高い倫理観を培うことにより、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を身につける
2. 看護に関する専門的知識と技術を習得することにより、根拠に基づいた看護を計画的に展開する実践能力を身につける
3. 人々の健康生活の保持増進や健康障害に必要な援助についての知識と技術を習得することにより、それぞれ特有の看護課題に対応する実践能力を身につける
4. 保健医療福祉チームの一員としてチーム医療における看護の役割を理解し、他職種との協働・連携を通して看護が展開できる実践能力を身につける
5. 変化する社会の中で、看護の役割・責務を自覚し看護学の発展に参加し専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につける

### ディプロマ ポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（看護学）の学位を授与します。

1. 豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力
2. 多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力
3. 成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力
4. 保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力
5. 国際的な視野を持ち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力

#### 「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活気に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○																		
		看護学科ディプロマポリシー																		
		1			2			3					4			5				
授業科目の名称	豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力			多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力			成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を实践する力					保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力			国際的な視野をもち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力					
	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3
看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	実施する看護について説明し同意を得る能力	人間や健康を総合的に捉える能力	看護の対象となる人々とコミュニケーションを開ける能力	看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力	自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	健康レベルを成長発達に応じて査定する能力	個人と家族の生活を査定する能力	看護援助技術を適切に実施する能力	健康の保持増進と疾病を予防する能力	急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	終末期にある人々を援助する能力	保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力	安全なケア環境を提供する能力	保健医療福祉における協働と連携する能力	社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	看護専門価値を発展させる能力	
基礎科目	日本語(読解と表現)				○															
	英語				○															
	コンピュータ演習				○															
	生物基礎										○									
	化学基礎										○									
教養科目	宗教と人生			○	○	○	◎							○						
	生命倫理学	◎	○	○										○						
	哲学			○		○														
	文学			○		○														
	芸術			○		○														
	色彩とデザイン			○		○														
	心理学			○	○	◎	○													
	仏教と現代社会			○	○	○	◎													
	国際理解と文化Ⅰ(キリスト教)			○	○	○	◎													
	国際理解と文化Ⅱ(イスラム教)			○	○	○	◎													
	法と社会															○				
	日本国憲法	◎	○	○											○	○				
	人権の歴史	○	○																	
	政治学																	○		
	社会学									○					○					
	経済学														○		○			
	化学										○									
	生物学										○									
	食と健康										○									
	実用英語(初級)				○								◎							
	実用英語(中級)				○								◎							
	中国語(初級)				○								◎							
	中国語(中級)				○								◎							
	韓国語(初級)				○								◎							
	韓国語(中級)				○								◎							
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)												◎							
健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)												◎								
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)												◎								
私のためのキャリア設計																			○	
専門基礎科目	I群(健康支援と社会保健)												◎	○	○	○	○			
	社会福祉論												◎	○	○	○	○			
	人間関係論(カウンセリング含む)			○	○	◎	○						○							
	家族関係論												◎	○	○	○				
	精神保健								○	○	○	○	◎							
	環境保健学											○	◎	○	○	○				
	保健医療福祉行政論											○	◎	○	○	○				
	公衆衛生学(疫学含む)											○	◎	○	○	○				
	保健統計学											○	◎	○	○	○				
	基礎生物学							○	◎	○			○	○						
	形態機能論Ⅰ							○	◎	○			○	○						
	形態機能論Ⅱ							○	◎	○			○	○						
	生化学							○	◎	○			○	○						
	栄養学(食品学を含む)							○	◎	○			○	○						
	薬理学							○	◎	○			○	○						
	免疫・微生物学							○	◎	○			○	○						
	臨床病理病態学(疾病の成立及び回復の成否)	臨床病理病態学Ⅰ(内科系)							○	◎	○			◎	○					
		臨床病理病態学Ⅱ(内科系)							○	◎	○			◎	○					
		臨床病理病態学Ⅲ(外科系)							○	◎	○			◎	○					
臨床病理病態学Ⅳ(周産期・小児科系)								○	◎	○			◎	○						
専門実践科目	IV群(基礎看護学)																			
	看護学概論	○	○	◎	○	○														
	看護理論			○	○												◎	○	○	
	ヘルスアセスメント								◎	○	○	○	○							
	看護技術論Ⅰ(生活技術援助)								○	○	○	◎	○							
	看護技術論Ⅱ(診療技術援助)								○	○	○	◎	○			○				
	看護技術論Ⅲ(看護過程)								○	○	○	◎	○							
	基礎看護学実習Ⅰ									◎	○	○	○			○				
	基礎看護学実習Ⅱ	○	◎	○						◎	○	○	○							
	看護教育学																	○	◎	○
	看護倫理	◎	○	○														○	○	○
看護管理学														○	○	○		○	◎	

業 科 目 分 区		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○																			
		看護学科ディプロマポリシー																			
		1			2			3					4			5					
		豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力			多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力			成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力					保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力			国際的な視野を持ち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力					
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3		
看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	実施する看護について説明し同意を得る能力	人間や健康を総合的に捉える能力	看護の対象となる人々とコミュニケーションを開ける能力	看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力	自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	健康レベルを成長発達に応じて査定する能力	個人と家族の生活を査定する能力	看護援助技術を適切に実施する能力	健康の保持増進と疾病を予防する能力	急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	慢性疾患及び慢性的健康課題を有する人々を援助する能力	終末期にある人々を援助する能力	保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力	安全なケア環境を提供する能力	保健医療福祉における協働と連携をする能力	社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	看護専門職として価値と専門性を発展させる能力		
専 門 教 育 科 目	V 群 (成人・老年看護学)	成人看護学概論	○	○	○						○										
		成人看護援助論Ⅰ(生命危機状態にある人)									○	○	○								
		成人看護援助論Ⅱ(常態の維持・増進が課題な人)									○	○	○								
		成人看護学実習Ⅰ	○										◎	○			○				
		成人看護学実習Ⅱ	○	○	○									◎	○						
		老年看護学概論	○									◎	○			○					
		老年看護援助論				○			○			○			◎						
		老年看護学実習Ⅰ	○			○			◎			○					○				
老年看護学実習Ⅱ	○			◎			○							○	○						
専 門 実 践 科 目	VI 群 (母性・小児看護学)	母性看護学概論	○												○		○				
		母性看護援助論									○	○	◎	○			○				
		母性看護学実習									○	○	◎			○					
		小児看護学概論	○		○						○	◎									
		小児看護援助論						○	◎	○			○	○							
		小児看護学実習						○	○	○	○		◎								
	VII 群 (精神・在宅・公衆衛生看護学)	精神看護学概論	○		○	○						◎									
		精神看護援助論									○	○	○		◎	○					
		精神看護学実習				○	○	○			○			◎							
		在宅看護概論	○			○						◎				○			○		
		在宅看護援助論	○				○				◎					○				○	
		在宅看護学実習				○		○		◎							○				
		公衆衛生看護学概論													○	◎	○	○	○		
		健康教育論											◎		○	○	○				
学校保健概論	○			○						○		◎			○						
国際看護学														○	○	◎	○	○			
災害看護学(災害保健を含む)														○	◎	○	○	○			
統 合 科 目	VIII 群 (看護の統合と実践)	基礎ゼミ				◎				○								○	○	○	
		看護研究Ⅰ(基礎編)									○								○	◎	○
		看護研究Ⅱ(応用編)									○								○	◎	○
		リスクマネジメント論	○	○												○	◎	○			
		看護の統合と実践実習	○	○												◎	○	○			
関 連 科 目	IX 群 (保健師関連)	疫学									○				◎	○	○				
		公衆衛生看護学活動展開論									○				◎	○	○				
		健康相談活動の理論と実践									○				◎	○	○				
		産業保健論									○				◎	○	○				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ									○				◎	○	○				
		公衆衛生看護学実習Ⅱ									○				◎	○	○				
	公衆衛生看護学特論									○				◎	○	○					
	X 群 (養護)	学校保健活動論	○			○					○				◎						
		学校保健演習	○			○					○				◎						
		養護概説	◎				○				○									○	



# シラバスの見方

## 「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1			2				3							
自己を認識し、他者を理解し、思いやる心と志をもって社会で生き抜く力			経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりの働きかけ、とむに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力							
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
王様明太子のコミュニケーション	プリンター				経営学初級	経営学初級	システム初級	ビジネス基礎		ソフトウェア基礎	社会の発展と	経営学の発展	経営学の発展	情報技術の発展

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

### 《シラバス例》

科目名			
担当者氏名			
授業方法	単位	選択区分	開講年次
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎	◎	
	○	○	
	○	○	
	○	○	
	○	○	
	○	○	

◎ 1-1 多様なものの見方、考え方  
○ 1-2 主体的に学び考える力  
○ 2-4 ビジネス 基礎力  
○ 3-1 キャリア 形成力  
○ 3-4 経営学の知識の応用

《授業の概要》

《テキスト》

《参考図書》

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ (全角22文字)	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。  
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

# 健康科学部看護学科

## 【卒業要件単位数】

### ■平成 24(2012)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	24 単位	24 単位	12 科目
	専門実践科目	65 単位	65 単位	37 科目
	統合科目	9 単位	9 単位	5 科目
	関連科目	—	—	—
合 計		124 単位	110 単位	60 科目

### ■平成 23～21(2011～2009)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	統合科目	6 単位	6 単位	3 科目
	関連科目	—	—	—
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 科目
合 計		124 単位	110 単位	56 科目



平成 24（2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□		2								[安井・辻本・野田]	13
	英語	演習	2		◇	□	○	2								(平本 幸治)	14
	英語	演習	2		◇	□		2								[小泉 毅]	15
	英語	演習	2		◇	□		2								[Michael. H. FOX]	16
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2								(西田 悦雄)	17
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□		2								[佐竹 邦子]	18
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□		2								(穂積 隆広)	19
	生物基礎	講義	2		◇	□		2								[池内 敢、他]	20
化学基礎	講義	2		◇	□		2								[中本 捷八朗、他]	21	
教養科目	宗教と人生	講義	2		◇	□		2								(本多 彩)	22
	生命倫理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浅沼 光樹]	23
	哲学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[三浦 摩美]	24
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[安井 重雄]	25
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[柳楽 節子]	26
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岩見 健二]	27
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(北島 律之)	28
	仏教と現代社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(本多 彩)	29
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[穂積 修司]	30
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[重親 知左子]	31
	色彩とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(浜島 成嘉)・(稲富 恭)	32
	法と社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[國友 順市]	33
	日本国憲法	講義	2		◆	■	○	②		②		②		②		[笹田 哲男]	34
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(西脇 修)	35
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(斎藤 正寿)	36
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(吉原 恵子)	37
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(石原 敬子)	38
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岡本 一彦]	39
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②	②		本多 久夫	40
	食と健康	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(亀谷 小枝)	41
	実用英語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[加藤 恭子]	42
	実用英語（中級）	演習	2		◆	■				②		②		②			
中国語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②			[佟 曉寧]	43
中国語（中級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②			[佟 曉寧]	44
韓国語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②			[李 知妍]	45
韓国語（中級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②			[李 知妍]	46
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②		②		②		②			(三宅 一郎)	47
健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	講義	2		◆	■	○	②		②		②		②			(徳田 泰伸)	48
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■		②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	49
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■		②		②		②		②			(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	50
私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②			[有働 壽恵]	51

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（12単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎科目》

科目名	日本語（読解と表現）				
担当者氏名	安井 重雄、辻本 恭子、野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

授業内容は、大学での学習、日常生活、社会生活で活用する、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などである。毎回問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、辞書を引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考文献》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字、慣用表現を適切に使用し、読解できる。主語と述語をしっかりと呼応して用いることができる。助詞を適切に使用できる。敬語を適切に使用できる。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席しなければ単位を与えない。授業時に複数回実施する小テスト（30％）と定期試験（70％）によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、必ず国語辞典を持参すること。電子辞書も可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	漢字には同じ音を持つものがたくさんあり、それらの意味による使い分けを学ぶ。
3	四字熟語	四字熟語には多くの種類があり、それらを理解する。それによって、日本文化の理解や、日常のコミュニケーションの理解に繋げる。
4	慣用表現・ことわざ	慣用表現は永く使い慣らされてきた表現。ことわざは教訓や生活の知恵を簡単に覚えることができる。
5	慣用表現・故事成語	故事成語は昔の出来事や書物を出典とする慣用表現。日常生活の知識として有効である。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
7	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の違い、「に」と「へ」の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	主語と述語、助詞の用法について復習する	主語と述語、助詞などについて復習し、発展問題を解く。
11	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	敬語についてまとめを行う。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』  
クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy Engolish〕（長崎出版）

《参考文献》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めてのの人に会う ありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
10	～しましょうか？ ～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検3級（全体）
12	～はいかがですか？と物を すすめる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検準2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ね る・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考え をいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習



《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際してのその利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

欠席回数が授業実施回数の1/3以上ある場合には単位認定ができない場合があります。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配付します。

《参考文献》

小柳・小野・平井・宮本編著  
 (教師を目指す人のための)『教育方法・技術論』学芸図書、2012  
 など。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから、配付資料を熟読し理解を深めて下さい。  
 課題作成については、授業時間内を基本としていますが、不足分は時間外学習で対応してください。

《備考》

“便利な文房具や道具として”のコンピュータの積極的な利用を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windows, 電子メール	Windowsの基礎操作と電子メールの活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法, 検索サイト
4	文書の作成(1)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用
5	文書の作成(2)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用
6	文書の作成(3)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの演習, セル, 罫線, 表組の活用
8	表計算ソフト(2)	表計算ソフトの演習, グラフ描画
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションのための基礎知識
10	プレゼンテーションソフト(2)	魅力ある資料のためのアニメーションの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表 レポート, 課題の作成のための実践
12	総合的な演習(2)	レポート, 課題の作成のための実践
13	総合的な演習(3)	レポート, 課題の作成のための実践
14	総合的な演習(4)	レポート, 課題の作成のための実践
15	総合的な演習(5) まとめ	総合的な演習とその他補足等

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。

授業は毎回実習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやネットワークが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらと良好につきあっていくための基礎的技能を身につけられる。

メールやインターネット、各種アプリケーションソフトなどの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- ・平常点（30%）
- ・提出課題（70%）

ただし、欠席回数が5回を超えた場合、欠格となる。

《テキスト》

- ・「学生のためのOffice2010&情報モラル」, noa出版

《参考文献》

- ・よくわかるMicrosoft Office Excel2007（基礎）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office Excel2007（応用）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office Word2007（基礎）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office Word2007（応用）, FOM出版
- ・よくわかるMicrosoft Office PowerPoint2007, FOM出版

《授業時間外学習》

- ・次回の授業範囲を予習すること。
- ・テキストに分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。

《備考》

- ・出席を重視する。
- ・欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。欠席分の遅れは、自ら取り戻すことを原則とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要の説明、実習室ログオンアカウントの確認、管理方法の理解、学内情報システムに関する理解、実習室環境の理解
2	Windowsの基礎、 電子メール（1）	Windowsの基礎的操作 電子メールの送受信、署名の設定、基礎知識
3	電子メール（2）	ファイルの添付、メールに関するマナー
4	インターネットによる 情報検索（1）	検索サイトの仕組み、検索サイトの活用、論理式を使った検索、情報の信頼性の検証方法
5	インターネットによる 情報検索（2）	セキュリティについて、情報モラル、著作権、個人情報の保護
6	ワープロソフトの 基礎（1）	基本的な使い方の習得
7	ワープロソフトの 基礎（2）	基本的な使い方の習得
8	表計算ソフトの 基礎（1）	基本的な使い方の習得
9	表計算ソフトの 基礎（2）	基本的な使い方の習得
10	プレゼンテーション ソフトの基礎（1）	基本的な使い方の習得
11	プレゼンテーション ソフトの基礎（2）	基本的な使い方の習得
12	レポート作成のための PC活用（1）	アウトラインの作成
13	レポート作成のための PC活用（2）	アンケート結果の集計
14	レポート作成のための PC活用（3）	アンケート結果をレポートにする
15	レポート作成のための PC活用（4）	アンケート結果をスライドにする

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	穂積 隆広				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

コンピュータを活用し、自分が調べたことや自分が考えたことなどを他者に正確に伝える報告書や発表用スライドなどを作成する技術を学びます。具体的にはMicrosoft OfficeのWord, Excel, PowerPointについて演習を行います。

《テキスト》

・教科書は使用しません。毎回プリントなどを配布します。

《参考文献》

・必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

まず、本学計算機実習室の基本的な使い方とコンピュータに関する基本的な知識を身につけます。そのうえでインターネットを使った情報収集や、その集めた情報を加工する技術、それを文書や発表用のスライドにまとめる技術などを身につけます。

《授業時間外学習》

授業の課題だけでなく普段の生活の中でもコンピュータを活用し、授業で習った内容を自分のものにするよう心がけてください。

《成績評価の方法》

・毎回の提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

・欠席回数が授業実施回数の1/3以上ある場合には単位認定ができない場合があります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要説明, 計算機実習室利用の手続きと初期設定等
2	本学のコンピュータについて	Windows の基礎, 電子メールの活用
3	インターネットの活用	インターネット上の情報の検索
4	文書作成(1)	ページレイアウトや書式設定の基礎
5	文書作成(2)	表や図形の活用
6	文書作成(3)	応用課題
7	表計算(1)	簡単なデータ処理と表の作成
8	表計算(2)	関数の活用と絶対参照
9	表計算(3)	グラフの作成
10	表計算(4)	応用課題
11	プレゼンテーション(1)	スライド作成の基礎
12	プレゼンテーション(2)	アニメーションの活用
13	プレゼンテーション(3)	応用課題
14	まとめ(1)	総合的な演習課題
15	まとめ(2)	総合的な演習課題

《基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	池内 敢、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・	開講年次・開講期	1年・ 期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点を置いて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいない呼吸もある？
5	生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
14	生態系と人間	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」  
数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分 - 管理栄養士・栄養士のために」  
五明紀春他著（技報堂出版）

「細胞の分子生物学」アルバート他著（ニュートンプレス社）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《基礎科目》

科目名	化学基礎				
担当者氏名	中本 捷八朗、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
3	化学反応式	CH <sub>4</sub> + 2O <sub>2</sub> → CO <sub>2</sub> + 2H <sub>2</sub> O の意味
4	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
5	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
6	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？
7	溶解・浸透圧	ナメクジに塩をかけると・・・
8	酸と塩基	酸味の原因
9	コロイド	豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
10	有機化学 有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学 官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学 糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学 タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「食を中心とした化学」 北原・塚本・野中・水崎著 (東京教学社)

《参考文献》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。  
「化学の基礎 化学入門コース1」 竹内敬人著 (岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約20%  
 定期テスト 約50% この3項目で評価する。  
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をええざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011  
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。



《教養科目》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。  
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。  
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がり努めてみよう。  
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》

身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から - 1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から - 2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から - 3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教
6	仏教美術 - 1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 - 2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 - 1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 - 2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 - 3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 - 4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 - 5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 - 6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 - 7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 課題レポート(100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。  
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。  
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%  
 レポート・小テストなど10%  
 受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)  
 『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。  
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって、どういふこと?(記憶)	記憶のプロセス, 記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって, 学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2~4》
8	君って, どんな人?(性格)	性格という, 分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2~3》
10	あの入って, きっとこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1~2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷。《第6章 §2》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える  
 現代仏教についての理解をめざす  
 仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす  
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約30%  
 定期テスト 約40% この3項目で評価する。  
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

\*キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

\*キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30％）、各分野の学習後に課すレポート（30％）、期末レポート（40％）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち 初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

- \*日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。
- \*配布する資料が散在しないように整理しておく。
- \*新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

\*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》

- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	冠婚葬祭におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。



《教養科目》

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

本授業は色彩とデザインの両分野について取り上げる。前者においては色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。後者においては、身の回りの様々なデザインと価値感との関連について多面的に考察する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解できるようにする。またデザイン一般に関する基礎知識を身につけるとともに、デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考文献》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)
- ・『近代椅子学事始』(ワールドフォトプレス)
- ・『北欧デザイン(1)~(3)』(プチグラフィック)
- ・『20世紀ファッションの文化史』(河出書房新社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法 シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めない。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。(担当:浜島)
2	色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
3	色の感情効果	赤、橙、黄、青など、それぞれの色相がもっている、色の感情効果について。色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。(担当:浜島)
4	色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。(担当:浜島)
5	配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それに従ってに配色を考えれば良い。メージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
6	デザインの概念	実用品、贅沢品、芸術作品という観点からデザインを理解する。(担当:稲富)
7	ギリシア・ローマ期からゴシックの様式	クラシックなデザインの系譜 について理解する。(デザインの歴史(1))(担当:稲富)
8	ルネサンスから新古典の様式	科学技術の発展を背景としたデザインの変化について理解する。(デザインの歴史(2))(担当:稲富)
9	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムの様式	社会の変化とデザインの関わりについて理解する。(デザインの歴史(3))(担当:稲富)
10	建築とインテリア	建築・椅子のデザインを通じて、材料・技術の発展について理解する。(担当:稲富)
11	ファッションデザイン	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象の関わりについて理解する。(担当:稲富)
12	和風のデザイン	懐石料理と茶室の背景を理解し、和風デザインの系譜について学ぶ。(担当:稲富)
13	映像デザイン	映画・ドラマを通じて、映像作品の構造と文法を理解する。(担当:稲富)
14	プロダクトデザイン	アメリカ・イタリア・北欧のプロダクトデザインと社会の関連について理解する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
『憲法 第3版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	「法の下での平等」原則について説明することができる。「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。  
差別を見抜く力を身につけましょう。  
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。  
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》

共生教育のすすめ 仲田 直  
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡  
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろ見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。  
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)  
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。  
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007, 有斐閣アルマ)

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

《教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。  
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方をを用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

10問程度、60分の定期試験結果で評点の90%、10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%、とを併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせ、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E.F.Neuzil著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J.E.Brady, G.E.Humiston著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」東京化学同人。（1991）J.N.Spencer, G.M.Bodner, L.H.Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山齊著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液	溶液の性質の続き。
13	化学反応	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。



《教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・ 期、 期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつけられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》

生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。全回出席が原則。

《テキスト》

使わない。 図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。  
 『細胞の分子生物学』 アルパーツ他著、  
 『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、  
 『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつけられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたら細胞は死ぬ。組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的增加（指数関数）の増加のものを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きていだけであるのに、主体性がある、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナプスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良い悪いを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的にふるまってもできてしまう関係である。

《教養科目》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他編（南江堂）
- 「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編（学文社）
- 「私たちの食と健康」 吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

"Ultimate Solution to the TOEIC Test" by Tatsuo Kimura and David Coulson. Macmillan Languagehouse

《参考文献》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の 演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1~UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業の参加（出席3分の2以上を求めるとその成果20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法  
CDを聞くこと  
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法  
CDを聞くこと  
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞 ・ 助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。  
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。  
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。  
会話 簡単な日常会話ができる。  
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法  
CDを聞くこと  
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法  
CDを聞くこと  
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

・ 授業の参加（出席3分の2以上を求めるとその成果20%）  
・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）  
・ 定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目》

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』  
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
『パスポート朝鮮語小事典』  
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
『韓国語を学ぶ』  
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音 子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音 子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1): 韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	~です・ですか(합니체)、~は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	~です・ですかの(해요체)、~が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	~ではありません(名詞文の否定)、~も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	~います・~あります又は~いません・ありません、~に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	~をします又は~で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字: 日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社、2011年  
 韓在熙・岡山善一郎 『韓国語を学ぶ』 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》

価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクス基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）  
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）  
『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）  
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》

<予習方法>  
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。  
<復習方法>  
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。



《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題

小テスト(20%)、各分野の学習後に課すレポート課題(60%)、平常点(20%)

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめたレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
7	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
8	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
9	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
10	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
11	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
12	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
13	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
14	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだ口ジュー入門』(宮下充正(大修館))

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだ口ジュー入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
<復習方法>  
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
随時テーマに対するレポート提出(20%)  
学期末にまとめたレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、(1)自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。(2)長期に亘るキャリアについて考える。(3)経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

(1) 家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。(2) ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。(3) 生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。(4) 収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 筆記試験 50%
- (2) 課題提出物 30%
- (3) 授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

(1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 (2) 矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 (3) 最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 (4) スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- (1) 次回のプリントを読んでおくこと
- (2) 「読む力」の課題をしておくこと
- (3) 新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- (1) 毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える(1)	生活経営とは何か
2	生活を考える(2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活(1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活(2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択(1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択(2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択(3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択(4)	職業の選択とライフロール(映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論(1)	職業キャリアからライフキャリアへ(スーパー)
10	キャリア発達理論(2)	組織におけるキャリア発達(シャイン)
11	キャリア発達理論(3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ(クランボルツ)
12	キャリア発達理論(4)	転機へのアプローチ(シュロスパーグ)、視点の変化(ハンセン)
13	生涯学習の必要性(1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性(1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り



平成 23～21（2011～2009）年度入学者

基礎科目・教養科目

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度(2011年度) 入学者対象  
( )は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科 目	日本語(読解と表現)	演習	2		◇	□	○	2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
人 文 系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[浅沼 光樹]	57
	生涯発達心理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[森田 義宏]	58
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[森田 義宏]	59
	哲学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三浦 摩美]	60
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[安井 重雄]	61
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[柳 栄 節子]	62
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[岩見 健二]	63
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[北島 律之]	64
	宗教と文化Ⅰ(仏教)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[本多 彩]	65
	宗教と文化Ⅱ(キリスト教)	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[穂積 修司]	66
	宗教と文化Ⅲ(イスラム教)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[重親 知左子]	67
	生活とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[稲富 恭]	68
	色彩学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浜島 成嘉]	69
	音楽表現	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[大串 和久]	70
アメリカ文学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[平本 幸治]	71	
論説と評論	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[安井 重雄]	72	
歴史学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[金子 哲]	73	
日本語表現法	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[野田 直恵]	74	
社 会 系	法と社会	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[國友 順市]	75
	日本国憲法	講義	2		◆	■	○	②		②		②		②		[笹田 哲男]	76
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[西脇 修]	77
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[斎藤 正寿]	78
	国際関係論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[斎藤 正寿]	79
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[吉原 恵子]	80
	ジェンダー論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[吉原 恵子]	81
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[石原 敬子]	82
自 然 科 系	数学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 真弓]	83
	物理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[湯瀬 晶文]	84
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岡本 一彦]	85
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②	②		[本多 久夫]	86
	食と健康	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[亀谷 小枝]	87
	コンピュータ応用演習	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[河野 稔]	88
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	89
	英語Ⅱ	演習	2		◆	■				②		②		②		[Michael. H. FOX]	90
	英語Ⅲ	演習	2		◆	■				②		②		②		[Michael. H. FOX]	91
	フランス語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[本多 雄一郎]	92
	フランス語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[本多 雄一郎]	93
	ドイツ語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[竹内 節]	94
	ドイツ語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[竹内 節]	95
	中国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟 曉寧]	96
	中国語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[佟 曉寧]	97
	韓国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[李 知妍]	98
韓国語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[李 知妍]	99	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三宅 一郎]	100
	健康・スポーツ科学Ⅰ(演習)	講義	2		◆	■	○	②		②		②		②		[徳田 泰伸]	101
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[三宅 一郎]・[徳田]・[橋本]・[矢野]	102
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[三宅 一郎]・[徳田]・[橋本]・[矢野]	103
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義	2		◆	■		②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	104
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 清美]	105
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2		◆	■				②		②		②		[山本 清美]	106
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2		◆	■					②		②		②	[山本 清美]	107

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目(14単位以上必要)

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目(14単位以上必要)

○は養護教諭免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科 目	日本語(読解と表現)	演習	2		◇	□	○	2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
人 文 系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[浅沼 光樹]	57
	生涯発達心理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[森田 義宏]	58
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[森田 義宏]	59
	哲学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三浦 摩美]	60
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[安井 重雄]	61
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[柳 栄 節子]	62
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[岩見 健二]	63
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[北島 律之]	64
	宗教と文化Ⅰ(仏教)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[本多 彩]	65
	宗教と文化Ⅱ(キリスト教)	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[穂積 修司]	66
	宗教と文化Ⅲ(イスラム教)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[重親 知左子]	67
	生活とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[稲富 恭]	68
	色彩学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浜島 成嘉]	69
	音楽表現	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[大串 和久]	70
アメリカ文学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[平本 幸治]	71	
論説と評論	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[安井 重雄]	72	
歴史学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[金子 哲]	73	
日本語表現法	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[野田 直恵]	74	
社 会 系	法と社会	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[國友 順市]	75
	日本国憲法	講義	2		◆	■	○	②		②		②		②		[笹田 哲男]	76
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[西脇 修]	77
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[斎藤 正寿]	78
	国際関係論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[斎藤 正寿]	79
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[吉原 恵子]	80
	ジェンダー論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[吉原 恵子]	81
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[石原 敬子]	82
自 然 科 系	数学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 真弓]	83
	物理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[湯瀬 晶文]	84
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岡本 一彦]	85
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②	②		[本多 久夫]	86
	食と健康	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[亀谷 小枝]	87
	コンピュータ応用演習	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[河野 稔]	88
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	89
	英語Ⅱ	演習	2		◆	■				②		②		②		[Michael. H. FOX]	90
	英語Ⅲ	演習	2		◆	■				②		②		②		[Michael. H. FOX]	91
	フランス語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[本多 雄一郎]	92
	フランス語Ⅱ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[本多 雄一郎]	93
	ドイツ語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[竹内 節]	94
	ドイツ語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[竹内 節]	95
	中国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟 曉寧]	96
	中国語Ⅱ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟 曉寧]	97
	韓国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[李 知妍]	98
韓国語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[李 知妍]	99	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三宅 一郎]	100
	健康・スポーツ科学Ⅰ(演習)	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[徳田 泰伸]	101
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	演習	2		◆	■	○	②		②		②		②		[三宅一]・[徳田]・[樽本]・[矢野]	102
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[三宅一]・[徳田]・[樽本]・[矢野]	103
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義	2		◆	■		②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	104
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 清美]	105
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2		◆	■				②		②		②		[山本 清美]	106
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2		◆	■					②		②		②	[山本 清美]	107

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目(14単位以上必要)  
□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目(14単位以上必要)  
○は養護教諭免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。



# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

業 科 目 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□	○	2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
人 文 系	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[浅沼 光樹]	57
	生涯発達心理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[森田 義宏]	58
	人間関係論（含カウンセリング）	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[森田 義宏]	59
	哲学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三浦 摩美]	60
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[安井 重雄]	61
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[柳 栄 節子]	62
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[岩見 健二]	63
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[北島 律之]	64
	宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[本多 彩]	65
	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[穂積 修司]	66
	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[重親 知左子]	67
	生活とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[稲富 恭]	68
	色彩学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浜島 成嘉]	69
	音楽表現	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[大串 和久]	70
アメリカ文学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[平本 幸治]	71	
論説と評論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[安井 重雄]	72	
歴史学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[金子 哲]	73	
日本語表現法	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[野田 直恵]	74	
社 会 系	法と社会	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[國友 順市]	75
	日本国憲法	講義	2		◆	■	○	②		②		②		②		[笹田 哲男]	76
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[西脇 修]	77
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[斎藤 正寿]	78
	国際関係論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[斎藤 正寿]	79
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[吉原 恵子]	80
	ジェンダー論	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[吉原 恵子]	81
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[石原 敬子]	82
自 然 科 系	数学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 真弓]	83
	物理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[湯瀬 晶文]	84
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岡本 一彦]	85
	生物学	講義	2		◆	■		②	②	②	②	②	②	②		[本多 久夫]	86
	食と健康	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[亀谷 小枝]	87
	コンピュータ応用演習	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[河野 稔]	88
語 学 系	英語Ⅰ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[Michael. H. FOX]	89
	英語Ⅱ	演習	2		◆	■				②		②		②		[Michael. H. FOX]	90
	英語Ⅲ	演習	2		◆	■				②		②		②		[Michael. H. FOX]	91
	フランス語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[本多 雄一郎]	92
	フランス語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[本多 雄一郎]	93
	ドイツ語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[竹内 節]	94
	ドイツ語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[竹内 節]	95
	中国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟 曉寧]	96
	中国語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[佟 曉寧]	97
	韓国語Ⅰ	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[李 知妍]	98
韓国語Ⅱ	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[李 知妍]	99	
体 育 系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三宅 一郎]	100
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[徳田 泰伸]	101
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■	○	②		②		②		②		[三宅一]・[徳田]・[樽本]・[矢野]	102
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[三宅一]・[徳田]・[樽本]・[矢野]	103
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義	2		◆	■		②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[有働 壽恵]	104
	就職基礎能力Ⅰ	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[山本 清美]	105
	就職基礎能力Ⅱ	講義	2		◆	■				②		②		②		[山本 清美]	106
	就職基礎能力Ⅲ	講義	2		◆	■					②		②		②	[山本 清美]	107

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）  
□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）  
○は養護教諭免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《教養科目 人文系》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をええざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011  
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目 人文系》

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- \* 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- \* 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- \* 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理 1	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化 愛着 基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理 1	幼児の認知 前概念思考期 直観的思考期 象徴機能 3項関係 心の理論 ことばの獲得
5	幼児期の心理 2	社会性の発達 遊びの発達 自律性/恥・疑惑 主導性/罪悪感
6	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化 勤勉性/劣等感
7	児童期の心理 2	ギャング集団 道徳性の発達 向社会的行動の発達 学校ストレス 心身症
8	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て 精神的離乳
9	青年期の心理 2	第2反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顯示
10	青年期の心理 3 成人期の心理 1	自我同一性の確立 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚 青年から成人へ 仕事と家庭
11	成人期の心理 2	一家を構える 親意識 仕事における自己拡大 仕事と家庭 親密性/孤立 愛
12	中年期の心理 1	個性化 第2の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機 子どもの成長と独立
14	老年期の心理 1	加齢と老化 統合性/絶望 英知 高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理 2 まとめ	引退の危機 健康の危機 死の危機 サクセスフルエイジング

《教養科目 人文系》

科目名	人間関係論（カウンセリングを含む）				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくれるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- \* 人間関係に関する専門用語について説明できる。
- \* 自分を取り巻く人間関係について把握できる。
- \* 自分の対人関係の在り方を理解できる。
- \* 人間関係に起因する問題に向きあい、対処できるスキルを身につける

《授業時間外学習》

身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》

試験 80% 提出物 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ヤマアラシのジレンマ 個室化・個人化 私事化
2	人間関係論の始まり	科学的管理 ホーソン研究 照明実験 能率の論理・心情の論理
3	集団とリーダーシップ1	集団の分類 集団の機能 集団決定 向社会性 リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ2	オハイオ研究 リーダーシップ行動論 状況理論 成熟理論
5	対人関係と自己理解1	ジョーハリーの窓 自己概念 自己概念の形成 公的自己意識 私的自己意識
6	対人関係と自己理解2	自己評価と他者評価 客観的自己理解 パーソナリティ 価値観 パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解3	印象形成 対人魅力 ソシオメトリー 愛他的行動
8	対人関係の類型	共感性 恋愛類型 対人類型 愛着の内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション1	コミュニケーションプロセス 文脈 ノイズ ことばの意味論 外延 内包
10	カウンセリング1	アドバイス・ガイダンス・カウンセリング・セラピー ロジャースの人間観 自己概念と現実
11	カウンセリング2	カウンセリングの過程 ラポート 受容 積極的傾聴 共感的理解 沈黙 感情の反射 問題への気づき 洞察
12	対人関係の分析1	交流分析 自我機能 自我防衛機制 構造分析 3つの心 エゴグラム
13	対人関係の分析2	交流分析 交流パターン 平行的（相補）交流 交叉的交流 仮面的交流 ゲーム分析
14	対人関係の分析3	交流分析 ストローク ストローク論 脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル	Lazarus & Folkmanモデル 対人ストレスイベント ストレスコーピング パーンアウト アクション ソーシャルスキル

《教養科目 人文系》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》

哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。  
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。  
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》

平常のレポートにて評価する。

《テキスト》

適宜資料を配付する。

《参考文献》

そのつど紹介する。

《授業時間外学習》

哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がり努めてみよう。  
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目 人文系》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《テキスト》

毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《授業時間外学習》

授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》

身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『日本美術の特質』 八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》

レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について 版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から - 1	現代の美術作家紹介 DVD
3	現在の美術の状況から - 2	現代の美術作家紹介 DVD
4	現在の美術の状況から - 3	現代の美術作家紹介 DVD
5	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教
6	仏教美術 - 1	飛鳥時代 天平時代 DVD 仏教の伝来 法隆寺 薬師寺 興福寺 東大寺の仏像
7	仏教美術 - 2	平安時代 鎌倉時代 DVD 東寺の曼陀羅と仏像、興福寺 東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術 - 1	鎌倉時代～室町時代 DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術 - 2	室町時代～桃山時代 DVD 狩野派他
10	日本の美術 - 3	桃山時代 DVD 桃山期の文化
11	日本の美術 - 4	桃山時代～江戸時代 DVD 桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術 - 5	江戸時代 DVD 琳派
13	日本の美術 - 6	江戸時代 DVD 奇想の絵師
14	日本の美術 - 7	江戸時代 DVD 浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 課題レポート(100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる



《教養科目 人文系》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。  
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。  
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%  
 レポート・小テストなど10%  
 受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)  
 『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。  
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういふこと?(記憶)	記憶のプロセス, 記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって, 学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って, どんな人?(性格)	性格という, 分かっているようで分からないものに対する心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
10	あの入って, きっとこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷。《第6章 §2》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか?(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化 (仏教)				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える  
 現代仏教についての理解をめざす  
 仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす  
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《成績評価の方法》

受講態度 約30%  
 小テスト・レポート 約30%  
 定期テスト 約40% この3項目で評価する。  
 講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

\*キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

\*キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30％）、各分野の学習後に課すレポート（30％）、期末レポート（40％）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち 初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

\*日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。  
\*配布する資料が散在しないように整理しておく。  
\*新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

\*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化 (イスラム教)				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ(例:モスクの見学)。

《備考》

- ・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	冠婚葬祭におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目 人文系》

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけでなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような価値観を配分する行為がデザインであるとの視点に立ち、身の回りのものと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

デザイン一般に関する基礎知識を身につける。  
 デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。  
 デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業レポートの提出が単位認定の必要条件になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建物のかたちと理由	住宅と家族の生活の関わり(建築デザイン)
3	携帯電話が欲しくなるわけ	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法(プロダクトデザイン)
4	なぜ椅子はこんなにたくさんの種類があるのか	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展(プロダクトデザイン)
5	H & MとGAPを比較する	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連(プロダクトデザイン)
6	ウェッジウッドが好きな人は何が好きなのか	クラシックなデザインの系譜(デザインの歴史(1):ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	機械式時計はなぜ復権したか	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(デザインの歴史(2):ルネサンスから新古典様式)
8	モダンの意味	社会の変化とデザインの関わり(デザインの歴史(3):アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	おもしろくない映画がなぜ名画に選ばれるのか	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法(映像デザイン)
10	エコカーに乗らないとだめですか	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト(インダストリアルデザイン)
11	シャネルVSユニクロ	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象(ファッションデザイン)
12	関西人が東京で迷子になってしまう原因	世界の都市における都市形態の決定要因(都市デザイン)
13	床の間は単なる無駄なスペースか	懐石料理と茶室の背景(和風デザインの系譜)
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考文献》

- ・以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
- ・『近代椅子学事始』島崎 信、ワールド・フォトプレス,2002
- ・『北欧デザイン(1)～(3)』渡部 千春、  
ブチガハブリッキング,2004
- ・『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

予習の方法：シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。復習の方法：授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。学期末レポート：「学期末レポート」の執筆を行って下さい。課題は第11週(予定)に提示します。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《教養科目 人文系》

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

『生活と色彩』(朝倉書店)

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色が注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのか考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのようにつくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

《教養科目 人文系》

科目名	音楽表現				
担当者氏名	大串 和久				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

歌唱・器楽活動を実践するとともに鑑賞まで範囲をひろげながら、楽しく音楽を表現する力を身に付けていきます。健康な心身をもって各自の可能性を最大限に活かせるよう歌唱を中心とした演習を行います。また、歌唱曲に関連する器楽曲を簡易なアレンジにて電子ピアノ（個人練習とスピーカによる全員合奏）で演習したり、リズムを打ち鳴らしながらの歌唱等、さらに鑑賞を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》

歌声を出すしくみを理解し、自分の体で実践したうえで楽曲ののびのびと歌うことができる。  
簡易なキーボードアレンジの楽曲をパート演奏を重ね楽しく合奏したり、和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。  
○自分以外の人が行う演奏活動や行動を集中して聴き見ることによって一層自分の表現の幅をひろげることができる。

《成績評価の方法》

欠席が1/3を超える者は成績評価の対象とならない。  
授業点30%（座席指定。真面目で積極的な授業参加を評価）。  
レポート・課題等の提出20%（提出期日厳守）。  
授業中に実施の小テスト50%（定期試験は実施しない）。小テストは全員の前での実技（歌唱・ピアノ・和太鼓）、筆記を含む。

《テキスト》

『4訂版 歌のミュージックランド 楽しい歌とコーラス』（教育芸術社）

《参考文献》

『The Sound of Music: Piano Duets』（WILLIAMSON MUSIC）  
『ピアノソロ サウンド・オブ・ミュージック』（ヤマハミュージックメディア）  
『21世紀の音楽入門 1～7』（教育芸術社）

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。  
毎回の授業時の実践が一番大切であり、復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問したり図書館やWebで調べる等、各自で対応すること。

《備考》

1. 遅刻・早退は20分まで出席（減点）扱い。  
2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁（発覚時は減点）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。ラップ等の芯2本と空き箱を6回までに用意。発声の基本＝呼吸（腹式・胸式）及び発声・響き等の説明と実践。簡易なアンケート調査。
2	歌う～自分の身体のメカニズムを知ろう	前回の説明内容を活かした実践＝呼吸と発声。テキストの中から歌唱。
3	歌う～のびのびと歌おう1 聴き入って見る～鑑賞1	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
4	歌う～のびのびと歌おう2 聴き入って見る～鑑賞2	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
5	歌う～のびのびと歌おう3 聴き入って見る～鑑賞3	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
6	歌う～のびのびと歌おう4 聴き入って見る～鑑賞4	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
7	歌う～のびのびと歌おう5 聴き入って見る～鑑賞5	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞。
8	歌う～のびのびと歌おう6 聴き入って見る～鑑賞6	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞。
9	歌う～のびのびと歌おう7 聴き入って見る～鑑賞7	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞・総まとめ（筆記テスト）。
10	やさしいアレンジで弾こう1 和太鼓を打ち鳴らそう1	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
11	やさしいアレンジで弾こう2 和太鼓を打ち鳴らそう2	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
12	やさしいアレンジで弾こう3 和太鼓を打ち鳴らそう3	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
13	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう1	全員の前で一人1曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
14	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう2	全員の前で一人1曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
15	総合復習とレポート提出	期の総まとめとレポート作成・提出。

《教養科目 人文系》

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期(1830-60)の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テキストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

期末レポート(50%)、授業中に実施する小テスト(50%)  
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の者には単位を与えない。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	1776年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	1800年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家 Emerson	Ralph Waldo Emerson(1803-82)の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家 Thoreau	Henry David Thoreau(1817-62)の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家 Hawthorne	Nathaniel Hawthorne(1804-64)の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter(1)	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter(2)	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家 Melville	Herman Melville(1819-91)の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick(1)	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick(2)	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。



《教養科目 人文系》

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

現代に関する、教育、社会、芸術などさまざまな文章を読み、それぞれの論者の考え方を理解し、それに対する自らの意見を述べる。文章は、新書本、雑誌、新聞などのものを用いる。ひとつのテーマについて、3～4回の授業を行う。

《テキスト》

毎回、コピーを配布する。

《参考文献》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

文章をしっかり読み、他人の多様な考え方について理解し、その上で自らの意見を述べるができる。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読して授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

授業回数（15回）の3分の2（10回）以上出席しないと単位を認定しない。その上で、授業中に行う評論についての意見文の提出（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
13	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
14	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

歴史って、嫌だよな。奇々怪々な暗記にウンザリしたよな。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよな。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからね。覚えるんじゃなくて、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》

1. 時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。2. 現代人の魂の根底に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気付き、共感することができる。3. 人間の価値感の根底にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》

なし

《参考文献》

勝俣鎮夫『戦国時代論』 学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。ノ網野善彦『増補 無縁・公界・楽』 必読教養書。危険な内容。ノ橋爪大三郎『はじめての構造主義』 「柔らかく頭」のための基本書。ノ今村仁司『排除の構造』 頭痛に襲われたいという方へ。ノ『週間朝日百科 日本の歴史』 前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場 1	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場 2	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場 3	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁 1	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁 2	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括 1	全体を振り返る
15	総括 2	全体を振り返る

《教養科目 人文系》

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。  
 状況に応じて用語を使い分けできる。  
 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。  
 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009  
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986  
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《教養科目 社会系》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

講義への参加40%および定期試験による評価60%。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目 社会系》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
『憲法 第3版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（1）	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（2）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（1）	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（2）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（1）	「法の下での平等」原則について説明することができる。「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（2）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（3）	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（4）	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（5）	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（1）	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（2）	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（3）	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目 社会系》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。  
差別を見抜く力を身につけましょう。  
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。  
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》

共生教育のすすめ 仲田 直  
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡  
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目 社会系》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目 社会系》

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。

20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [ 帝国主義～現代 ] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史 - 世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化



《教養科目 社会系》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろ見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。  
(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)  
定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。  
(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2007，有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	社会集団と秩序 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

《教養科目 社会系》

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること/男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1)ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）  
「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て/女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ	（適宜、学習内容を提示します）
7	女の時間/男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ	（適宜、学習内容を提示します）
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ	（適宜、学習内容を提示します）
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編  
（2005、有斐閣）

《参考文献》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）  
『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤英雄/牟田和恵編  
（世界思想社）  
『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）  
『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）  
『女性学・男性学』伊藤英雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《教養科目 社会系》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

「経済学」というと、「企業」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。  
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方をを用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目 自然系》

科目名	数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

毎時間始めに計算問題のトレーニングを行う。  
毎時間のように違ったトピックを取り上げ、高校までの数学とは違った角度から講義を行い、一般教養を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活にも役立つ計算力を身につける。  
数学を通じて「考える力」、「集中力」、「論理力」を身につける。

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。  
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直しておくこと。次回の復習テストに備えておくこと。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト(20%)

《備考》

毎時間遅刻せずに出席すること。  
相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	数について	自然数、整数、有理数、実数を理解する。
2	循環小数について	有理数、無理数を小数で書き表すとどのようになるかを理解する。
3	最大公約数、最小公倍数	素数、素因数分解を理解し、最大公約数、最小公倍数の計算をできるようになる。
4	計算を速く行う方法	因数分解を用いれば速く計算できる方法などを学ぶ。
5	指数計算	指数に関する定義や指数法則を知り、指数計算ができるようになる。
6	検算	検算が速くなる方法などを知る。
7	数学の雑学(1)	フィールズ賞、円周率 についてなどを知る。
8	数学の雑学(2)	地震のマグニチュードと震度の意味の違いなどについて知る。
9	数学の雑学(3)	数の単位や白地図の色分け問題などについて知る。
10	数学の雑学(4)	5次方程式の一般解の公式は、存在しない話題などを知る。
11	利子	複利計算を理解する。
12	数列	数列の定義を理解し、等比数列についてより深く学ぶ。
13	等比数列の和	まず記号 の意味を理解し、等比数列の和を計算できるようになる。
14	借金の計算	10日で1割の利子がつき、10日ごとに1万円ずつ借り続けると100日目にはいくらの借金になるかなどの計算ができるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

## 《授業の概要》

近年、自然科学分野のみならず、幅広い分野において物理学的な世界観が取り入れられ、それらの分野の理解のためにも物理学の考え方は重要となっている。

この授業では物理の考え方を知るために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容を多少変更することもある。

## 《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

## 《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み(20%)、レポート及びペーパーテスト等(80%)により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

## 《テキスト》

特に指定しない(必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う)。

## 《参考文献》

『物理学とは何だろうか(上・下)』 朝永振一郎 岩波書店  
 『おもしろい物理学(本編・続編・続続編)』 ベレリマン 社会思想社現代教養文庫  
 『研究者のための上手なサイエンス・コミュニケーション』 英国物理学会監修 東京図書  
 『物理入門コース』全10巻 岩波書店  
 『非平衡系の秩序と乱れ』 沢田康次 朝倉書店

## 《授業時間外学習》

毎回の授業の復習を行うこと、特に例題などを自分の頭で考え、計算してみることを。

機会を見つけて授業での考え方を実生活の中で実践してみることを。

## 《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみてください。

## 《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定(大切なので履修希望者は必ず出席のこと)
2	物理の考え方(1)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(1)
3	物理の考え方(2)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(2)
4	力学の初歩と基本定理(1)	サンプル実験1 静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理(2)	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理(3)	加速度と運動方程式(1)
7	力学の初歩と基本定理(4)	加速度と運動方程式(2)
8	力学の初歩と基本定理(5)	サンプル実験2 運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理(6)	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学(1)	光や波の性質について(1) 光や波の基本的性質を考える、サンプル実験3
11	電磁気学(2)	光や波の性質について(2) 身の回りの現象を考える
12	相対論	時空間4次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習(1)	問題演習と実験
15	総合演習(2)	これまでのまとめ

《教養科目 自然系》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

10問程度、60分の定期試験結果で評点の90%、10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%、とを併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせて、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E.F.Neuzil著 和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J.E.Brady, G.E.Humiston著 若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー 一般化学 上・下」東京化学同人。（1991）J.N.Spencer, G.M.Bodner, L.H.Rickard 著 渡辺 正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山齊著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液	溶液の性質の続き。
13	化学反応	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目 自然系》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・ 期、 期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつけられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》

生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。全回出席が原則。

《テキスト》

使わない。 図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。  
 『細胞の分子生物学』 アルパーツ他著、  
 『生命と地球の歴史』 丸山茂徳・磯崎行雄著、  
 『「共生」とは何か』 松田裕之著、

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつけられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたら細胞は死ぬ。組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的增加（指数関数）の増加のものを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きていだけであるのに、主体性がある、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナプスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起きている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良い悪いを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的にふるまってもできてしまう関係である。

《教養科目 自然系》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」 福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考文献》

- 「食生活論」 遠藤金次他編（南江堂）
- 「健康と食生活 改訂版」 吉田勉編（学文社）
- 「私たちの食と健康」 吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

- ・授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
- ・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。



科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を發展させ、これからの情報社会に適應できる能力である、「情報フルーエンス」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。  
各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。  
口頭発表の資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成できる。

《成績評価の方法》

課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニッツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。  
欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理(ここまで)のふり返り
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	学習のふり返り

《テキスト》

授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。  
その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》

矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。  
奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。  
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

《教養科目 語学系》

科目名	英語 I				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅲ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿・形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（どんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、1年に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1)授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令・依頼の表現	様々な状況でひとに命令・依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語 German				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベット、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編 1	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語 German				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編 2	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法 1	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法 2	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編 1	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編 2	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編 3	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編 4	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 1	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 2	動詞の人称変化。



《教養科目 語学系》

科目名	中国語				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業の参加（出席3分の2以上を求める）とその成果20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法  
CDを聞くこと  
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法  
CDを聞くこと  
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞 ・ 助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目 語学系》

科目名	中国語				
担当者氏名	トウ 暁寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考文献》

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。  
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。  
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。  
会話 簡単な日常会話ができる。  
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法  
CDを聞くこと  
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法  
CDを聞くこと  
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・ 授業の参加（出席3分の2以上を求めるとその成果20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目 語学系》

科目名	韓国語				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』  
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』  
油谷幸利 他編著 小学館、2004年  
『パスポート朝鮮語小事典』  
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年  
『韓国語を学ぶ』  
韓在熙・岡山善一郎 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音 子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音 子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1): 韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니다体)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요体)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字: 日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目 語学系》

科目名	韓国語				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考文献》

油谷幸利 他編著 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館、2004年  
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 『パスポート朝鮮語小事典』 白水社、2011年  
 韓在熙・岡山善一郎 『韓国語を学ぶ』 白帝社、2012年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2): 韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字: 日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《参考文献》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）  
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）  
『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）  
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》

<予習方法>  
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。  
<復習方法>  
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題

小テスト(20%)、各分野の学習後に課すレポート課題(60%)、平常点(20%)

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学 (演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
 ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。  
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)  
 随時テーマに対するレポート提出(20%)  
 学期末にまとめたレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
7	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
8	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
9	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
10	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
11	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
12	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
13	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
14	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館) 『からだ口ジュー入門』(宮下充正(大修館))

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
 <復習方法>  
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだ口ジュー入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。

ただし授業回数の1/3以上欠席した場合単位は与えない。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめたレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。



《教養科目 キャリア系》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、(1)自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。(2)長期に亘るキャリアについて考える。(3)経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》

(1) 家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。(2) ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。(3) 生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。(4) 収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 筆記試験 50%
- (2) 課題提出物 30%
- (3) 授業への取組姿勢 20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

(1) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社 (2) 矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房 (3) 最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社 (4) スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- (1) 次回のプリントを読んでおくこと
- (2) 「読む力」の課題をしておくこと
- (3) 新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》

- (1) 毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える(1)	生活経営とは何か
2	生活を考える(2)	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活(1)	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活(2)	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択(1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択(2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択(3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択(4)	職業の選択とライフロール(映画の場面から考える)
9	キャリア発達理論(1)	職業キャリアからライフキャリアへ(スーパー)
10	キャリア発達理論(2)	組織におけるキャリア発達(シャイン)
11	キャリア発達理論(3)	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶこと大切さ(クランボルツ)
12	キャリア発達理論(4)	転機へのアプローチ(シュロスバーグ)、視点の変化(ハンセン)
13	生涯学習の必要性(1)	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性(1)	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力 I				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。自らの行動パターンを分析を通し対人折衝能力を高めます。スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》

学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目標とします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム1単位-「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・発言を奨励：40%  
 授業中に実施するレポート及び実技試験：60%  
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》

プリント資料（講師作成）  
 テキストは使用しない

《参考文献》

ホスピタリティの教科書：林田正光 あさひ出版  
 あいさつの教科書：挨拶教育研究会 中経出版  
 あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク 草思社  
 日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力			

《授業の概要》

過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識一言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《テキスト》

最新最強のSPIクリア問題集13年版：成美堂出版  
プリント資料（講師作成）

《参考文献》

筆記試験の完全攻略  
内定ロボット 日経ナビ&就職ガイド編集部  
  
フィンランドメソッド実践ドリル  
諸葛正弥 毎日コミュニケーションズ

《授業の到達目標》

本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力一言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。  
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40%  
筆記試験：60%  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	SPI非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なSPI基礎知識を知る
2	SPI検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・SPI言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	SPI検査対策	SPI言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	SPI検査対策	SPI検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び3級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び2級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだSPI非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にSPI検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書1	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書2	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書3	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力</li> <li>○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力</li> <li>○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力</li> <li>◎ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力</li> </ul>				

《授業の概要》

社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《テキスト》

はじめてのビジネスマナー  
株式会社 同友館発行 著者 東条文千代

《参考文献》

ビジネス基本ルール120：PHP研究所  
日本語練習帳：大野晋 岩波新書

《授業の到達目標》

「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。  
同時にNPO法人日本人材教育協会認定のYESプログラム2単位「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《授業時間外学習》

新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。  
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40%  
筆記試験（記述式）：60%  
授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身に付ける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する5つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身に付けるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書1	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書2	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本—為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする



平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象  
 ( )は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成24年度の担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専門 基礎科目	I群(健康支援と社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2								竹内 一夫	112	
		人間関係論(カウンセリングを含む)	講義	2					2									
		家族関係論	講義	2					2								竹内 一夫	113
		精神保健	講義	2					2								[南川 博康]	114
		環境保健学	講義	1							1							
		保健医療福祉行政論	講義	2		◇	□				2							
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2		◇	□	○			2							
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2							
		II群(人体の構造と機能)	基礎生物学	講義	2				2								本多 久夫	115
			形態機能論I	講義	2		◇	□	○	2							[水口 龍次]	116
			形態機能論II	講義	2		◇	□	○	2							[水口 龍次]	117
			生化学	講義	2					2							[溝邊 雅一]	118
			栄養学(食品学を含む)	講義	2		◇	□	○	2							(真鍋 祐介)	119
			薬理学	講義	2		◇	□	○		2							
			免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○			2						
		III群(疾病の成立及び回復の促進)	臨床病理病態学I(内科系)	講義	2		◇	□				2						
			臨床病理病態学II(内科系)	講義	2		◇	□				2						
			臨床病理病態学III(外科系)	講義	2		◇	□				2						
			臨床病理病態学IV(周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2						
	専門 教育科目	IV群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2							道廣 睦子	120
			看護理論	講義	1		◇	□	○	1							道廣 睦子	121
			ヘルスアセスメント	演習	1		◇	□	○	1							小林・道廣・竹内・森崎	122
			看護技術論I(生活技術援助)	演習	2		◇	□	○	4							小林・道廣・森崎・竹内	123
			看護技術論II(診療技術援助)	演習	2		◇	□	○		4							
			看護技術論III(看護課程)	演習	1		◇	□				2						
			基礎看護学実習I	実習	1		◇	□	○	3							道廣・小林・森崎・竹内	124
			基礎看護学実習II	実習	2		◇	□	○			6						
			看護教育学	講義	1		◇	□						1				
		看護倫理	講義	1		◇	□							1				
		看護管理学	講義	1		◇	□					1						
専門 実践科目		V群(成人・老年看護学)	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
			成人看護援助論I(生命危機状態にある人)	講義	2		◇	□	○				2					
			成人看護援助論II(常態の維持・増進が困難な人)	講義	2		◇	□	○				2					
			成人看護学実習I	実習	3		◇	□						9				
			成人看護学実習II	実習	3		◇	□							9			
			老年看護学概論	講義	2		◇	□			2							
			老年看護援助論	演習	2		◇	□					4					
			老年看護学実習I	実習	2		◇	□						6				
			老年看護学実習II	実習	2		◇	□							6			
		VI群(母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○		2							
	母性看護援助論	演習	2		◇	□	○				4							
	母性看護学実習	実習	2		◇	□						6						
	小児看護学概論	講義	2		◇	□	○			2								
	小児看護援助論	演習	2		◇	□	○				4							
	小児看護学実習	実習	2		◇	□	○						6					

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 実 践 科 目	VII群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○				2						
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○					2					
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○							6			
		在宅看護概論	講義	2	◇	□					2						
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□						2					
		在宅看護実習	実習	2	◇	□								6			
		公衆衛生看護学概論	講義	2	◇	□					2						
		健康教育論	講義	1	◇	□						1					
		学校保健概論	講義	1	◇	□	○				1						
		国際看護学	講義	1	◇	□						1					
		災害看護学(災害保健を含む)	講義	1	◇	□								1			
	専 門 教 育 科 目	VIII群 (統合と実践)	基礎ゼミ	演習	2	◇	□		2								*1
看護研究Ⅰ(基礎編)			講義	2	◇	□					2						
看護研究Ⅱ(応用編)			演習	2	◇	□								2			
リスクマネジメント論			講義	1	◇	□						1					
看護の統合と実践実習			実習	2	◇	□								6			
関 連 科 目	IX群 (保健師関連)	疫学	講義	2		□						2					
		公衆衛生看護学活動展開論	演習	2		□						2					
		健康相談活動の理論と実践	講義	2			□	○					2				
		産業保健論	講義	1			□						1				
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	1			□							3			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	4			□								12		
		公衆衛生看護学特論	講義	1												1	
X群 (養護)	学校保健活動論	講義	2				○					2					
	学校保健演習	演習	2				○						2				
	養護概説	講義	2				○					2					

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

\*1 若井・道廣・加藤・新田・川上・齋藤・小林・杉原・島田・白神・瀧本・久井・竹内・秦・森崎・高橋・大植・  
 渋谷・東・藤本・廣田

授業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担 当 者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				○	2								[上寺 常和]	126
	教育原理	講義	2				○	2								(廣岡 義之)	127
	教育心理学	講義	2				○			2							
	教育制度論	講義	2				○	2								(廣岡 義之)	128
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	講義	2				○			2							
	教育方法・技術論	講義	2				○			2							
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2				○			2							
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2				○	2								(琴浦 志津)	129
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5				○							5			
	教職実践演習(養護教諭)	演習	2				○							2			

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、  
 日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、  
 指定の科目を修得すること。



科目名	社会福祉論				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

いま医療も福祉も利用者の自己決定権を尊重し、支援をしていくことが求められている。社会福祉は、人々がいかなる状況に置かれようとも、より良き生活が確保されることを保証していくための方法であり、そのためには彼らのニーズを全人格的にとらえることが不可欠な要素となる。社会福祉論では、医療チームの一員として人々に関わる看護師に不可欠な社会福祉の視点、支援方法について学ぶ。

《テキスト》

系統漢語学講座 専門基礎分野  
社会福祉 - 健康支援と社会福祉 - 医学書院 2011

《参考文献》

新・社会福祉士養成講座 4  
現代社会と福祉 社会福祉原論 中央法規出版 2009

《授業の到達目標》

我々を含め、利用者が持つ生活課題を多面的に分析、理解できるようにする。  
 利用者の生活を支援することと、看護がどのように関わるかが理解できるようにする。  
 対人援助専門職に不可欠な価値態度が理解でき、人の全人格的な痛みに対する共感性を養うことができる。

《授業時間外学習》

常に社会の動き、医療の動き、社会福祉の動きに関心を持つべく、新聞、専門雑誌に目を通すこと。原則シラバスと教科書に沿って授業を進めます。授業の該当箇所はあらかじめ目を通して授業に参加してください。

《成績評価の方法》

講義への出席は必須とする。成績評価は、受講態度、定期試験、課題レポート等の提出でおこない、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題レポート等20%とする。

《備考》

授業時間中の質問は大歓迎です。わかるまで聞いてください。自分だけがと思わないで、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉を学ぶ	貧困とは、社会福祉援助とは、社会福祉の必要性とは、社会福祉の今日的意味とはなど、社会福祉を学ぶ上での基本的概念について学習する。
2	社会福祉の歴史的発展と課題	社会福祉のこれまでの発展過程でみられた問題の整理をし、社会福祉が現代社会でどのような役割、どのような専門性を期待されているかを概観する。
3	現代社会の変化と社会福祉、社会保障の動向	大きく変化した現代社会で、社会福祉が求められた変化と、生活問題に対応する社会保障制度が果たすべき役割と課題について学習する。
4	生活に関わるの医療保障制度と健康保険	医療保障制度としての健康保険制度が我々の健康を守り、保険事故（疾病状況）が起こった時にはどのように対応がなされるのかを学習する。
5	生活にかかわるその他の保障制度	高齢、災害、失業など、疾病以外に我々の経済状況に大きな影響を及ぼす問題に対応する社会保障の仕組みと施策について学ぶ。
6	貧困と社会福祉	現代社会の新しい貧困の実情、セーフティーネットとしての所得補償と公的扶助の現状を学ぶことで、社会福祉支援の在り方を検討する。
7	次世代を担う子供たちの福祉	地域、家族の介護力、教育力、保育力が著しく衰退している現代社会の中で、子供たちの人権を守り、福祉を確保していくためには何が必要かを検討する。
8	超高齢社会と介護保険	人口減少に歯止めがかからないわが国での高齢社会対策がどのようになされ、介護保険がどのような役割を果たしているのかを学ぶ
9	障害を持つ人たちを支える福祉 その1	社会福祉6法に規定されている身体障害者福祉法、知的障害者福祉法での障害者支援の現実と問題点について学ぶ。
10	障害を持つ人たちを支える福祉 その2	精神障害者福祉法、発達障害者支援法という後発の障害者支援の法律での支援の現状、課題について学ぶ。
11	社会福祉援助の方法 その1 個別援助技術	個人や家族を対象とした社会福祉援助技術であるケースワーク、カウンセリングについて、特に近年要求される、エビデンスに基づいた支援の在り方について学ぶ。
12	社会福祉援助の方法 その2 集団援助技術	当事者グループや子供たちのグループ支援をはじめとして、集団過程を通じての支援が有効な人々を対象とした援助技術であるグループワークについて学ぶ。
13	社会福祉援助の方法 その3 ケアマネジメント	介護保険でのサービス提供の方法としてわが国では知名度を得たが、本来重複し重層した問題をもった利用者支援に優れた方法であるケアマネジメントの支援の仕組みを学ぶ
14	社会福祉援助の方法 その4 その他の援助技術	専門職がその能力を發揮できるようにスーパービジョンが、また自分の支援の効果を評価するために調査があげられるが、ここではその内容について学ぶ。
15	社会福祉・看護実践でのチームアプローチと連携	人を支援する仕事の現在のキーワードは、チームケア、連携、協働という言葉で表せます。ここでは医療現場、福祉現場、地域での連携について学ぶ。

科目名	家族関係論				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

現代家族は、少子・超高齢社会の中で、伝統的に培ってきた様々な機能が果たせなくなるとともに、DV、非行、虐待、介護問題、離婚率の増加など、様々な問題を抱えてきた。ここでは家族の機能、構造を考えるとともに、現代家族の抱える問題についても検討を加え、看護師として必要な家族ケアの視点を養うとともに、家族支援の在り方、個々のアプローチ方法について検討を加える。

《授業の到達目標》

現代家族の直面している問題を理解できるようになる。  
 地域社会や社会構造の変化と関連だてて、家族が直面している問題を理解できるようになる。  
 家族内での人間関係（夫婦、親子）の形成と、維持について理解できるようになり、解決課題へ取り組む家族の保持力を、家族の発達段階に合わせて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

この授業での評価は、受講態度、定期試験、課題達成の3項目で行う。  
 その関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%とし、その合計で、評価点とする。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎分野  
 「家族論・家族関係論」医学書院 2011

《参考文献》

千田有紀「日本型近代家族 どこからきてどこに行くのか」  
 勁草書房 2011

《授業時間外学習》

報道などに常に興味を払い、家族に関わる問題が提起されている場合に必ず目を通しておくこと。また各自の地域の中で地域社会と家族の関わりあいが見られる行事などが存在するかどうか、またそれへの参加状況に注目しておくこと。授業はシラバスに準じて行われるので、教科書には目を通して出席すること。

《備考》

授業への積極的関与を歓迎する。質問は授業中でも歓迎する。理解できるまで質問すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族を考える	家族をめぐる諸概念の検討と、現代家族の直面している問題を概観する。
2	家族の発生 パートナー選択と結婚	家族発生の出発点である配偶者の選択がどうなされ、夫婦関係がどのように形成されて行くのかを検討する。
3	夫の役割、妻の役割	伝統的な家族から現代家族まで、その役割は社会の変化とともに変化してきている。今家族はどこに向かって進もうとしているのかを検討する。
4	父なること、母になること	DINKとDEWK、子育てでの夫婦の役割、地域の役割、祖父母の役割について考える。
5	子供の成長と父母の役割	夫と妻から、父親と母親へ、そして祖父と祖母へ、夫婦の成長の過程と老いの過程、そこでの対処課題について検討する。
6	夫婦での看取りと、両親の看取り	必然のこととして、家族というシステムも老いの過程を経て、看取りの過程に直面し、消滅していく。現代社会における看取りの過程での問題点、についても検討を加える。
7	伝統的な家族機能と現代家族	伝統的な家族機能から現代家族までの家族機能とそこでの人間関係の特徴を検討する。
8	社会の変化と都市型家族の問題点	地域機能が衰退化してきている現代都市社会において、縮小した家族機能で生活問題に対処を迫られている現代家族の問題点と地域の福祉社会化について検討する。
9	家族員が病んだ時	患者家族としては、どのような精神的、肉体的問題に直面するのか、患者との人間関係、家族間の人間関係にどのような変化が起こるのかを概観する。
10	在宅ケアでのストレスマネジメント	患者へのケアの質を高めるとともに、家族の生活の質を高める家族のストレスマネジメントと課題への対処力の保持について検討する。
11	家族支援者に必要な専門職としての態度	バイスティックの7原則を基本として、対人援助の専門職に必要な価値、態度を学ぶ。
12	家族支援の方法 システム理論からのアプローチ	家族療法の中でシステム理論を用いたシステムズアプローチの概要、アセスメントの方法を学ぶ。
13	家族支援の方法 家族の発達段階と危機の理解	家族問題を理解するために必要な、家族の発達段階および各段階で遭遇する可能性の高い危機状況についての理解、それへの対処方法を学ぶ。
14	家族支援の方法 教育的アプローチ	家族の課題への対処能力がある程度認められる場合に、プログラム化された訓練としてそれらの能力を強化していく教育的プログラムについて概観する。
15	家族支援の方法 心理学的アプローチ	家族援助の心理的諸技法について概観し、援助方法による関わり方の差異、評価方法の特徴を学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	精神保健				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

成長発達段階や各人の健康レベルに応じた心理状態を、その人だけでなく周りの生活を含めた幅広い視点から捉え、看護に必要な援助的人間関係について理解を深める。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」 吉松和哉他編  
ヌーヴェルヒロカワ

《参考文献》

《授業の到達目標》

さまざまな視点から心の健康を理解し、健康の保持・増進についての確かな指示ができる。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70% 平常評価30%(レポート、受講態度など)

《備考》

将来メンタルヘルスに関わらなくても、看護という特殊な専門職を志す人々には病者を全人的に見ていこうとする上で、是非とも修得して頂きたい学問であろう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：アルコールおよび薬物依存、虐待やDV、自殺の増加、PTSDなど。
2	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：離婚、モンスターペアレント、移住、宗教体験など。精神医学的問題と社会的要因。 精神
3	現在の精神保健	精神保健とは。心の健康とは。精神力動的な考え方。
4	現在の精神保健	脳の機能とその障害。
5	現在の精神保健	ストレス。リスクマネジメント。
6	ライフサイクルと精神保健	胎生期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期。
7	ライフサイクルと精神保健	成人期、中年期、老年期。
8	生活の場と精神保健	家族、家庭の精神保健。学校における精神保健。
9	生活の場と精神保健	職場における精神保健。地域保健活動と精神保健。
10	心の健康と不健康	病むという体験。病気になることによるストレス。支える家族の心の健康。
11	心の健康と不健康	さまざまな状態における心の健康。看護師のメンタルヘルス。
12	リエゾン精神医学・精神看護	リエゾンとは。
13	集団力動論、地域精神保健活動	チームワークとリーダーシップ。地域精神保健活動の目標や今後の課題。
14	精神保健の歴史と倫理的問題	精神医療の歴史や関連事件。倫理基準とインフォームドコンセント。
15	総括	精神保健の総括

科目名	基礎生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

身体の構造はとても複雑なのだが、全体は袋でできていることを頭に入れると明解に把握できるようになる。また、袋を含めすべてのものは細胞からできている。身体を細胞にもとづいて理解する道筋を述べる。これにより成長、発達、老化、疾病、治癒など身体で起こるすべての理解が容易になる。

《授業の到達目標》

職場では技術の進歩が激しくて、大学で学んだことだけでは十分でない。身体はすべて細胞の働きで成り立つという基本を身につけると、自分でこの進歩に対応できるようになる。細胞に基づいて癌や免疫、脳の理解を行い、将来に役立つような体験をする。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト(8/10)およびレポート提出(2/10)による。全回出席が原則。

《テキスト》

使わない。図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》

授業には以下の書籍等を参考にした。いずれも図書館に備えている。  
 『形の生物学』本多久夫著 NHKブックス、  
 『細胞の分子生物学』アルバート他著 ニュートンプレス。

《授業時間外学習》

ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことや板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜いて貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》

いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体全体	身体は閉じた袋からできている。袋は身体の外と内を仕切っているが、仕切は体内にも入り込んでいる。
2	袋は上皮組織である	胚から身体が形成されるのは、胚の袋が拡大して変形することである。これは組織を構成している細胞の増殖などのふるまいによる。
3	袋どうしの接近	血管系はもう一つの袋である。肺や腎臓は、身体全体の袋と血管系の袋、二つの袋どうしが接近して分子が通過するところである。
4	細胞	細胞は細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れが生じると細胞は死ぬ。
5	細胞のふるまい	細胞分裂や細胞死、細胞からの分泌、細胞への取り込みなどは細胞のふるまいである。これらのふるまいには、細胞膜どうしのが融合が起きている。
6	細胞のはたらき	細胞は外からの信号を受けて、分裂したり、ホルモンや消化酵素を分泌するなどはたらきを行う。
7	組織（細胞の集合）	先に述べた「袋」は上皮組織でできている。これはもうひとつの組織である結合組織を取り巻いている。
8	筋肉・軟骨・骨	いずれも細胞からできている。骨は、分泌によりそこに鉱物（リン酸カルシウム）をつくる細胞を含んでいる。
9	細胞間の通信	身体内の離れた細胞間をホルモンなどが行き来して通信が行われている。この通信で細胞の働きの調節が行われるが、ここで重要な調節はフィードバック調節である。。
10	脳	神経はとても細長い細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
11	神経系	神経細胞間の連結部はシナプスとよばれ、ここで神経伝達物質の分泌による連絡が行われている。シナプスには多くの薬物や神経毒が働く。
12	同じ病気にかからない	免疫関連の細胞たちが互いに通信しながら連携プレーを行い、異物（病原体など）を殺したり異物の働きをブロックする。。
13	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していないような異物の侵入にも備えている。この不思議な現象が解明された。
14	癌	癌の始まりは細胞が、自分勝手に増殖する細胞へ変化することである。こんな事が死につながるのだがその理由を学ぶ。
15	補遺	身体を構成している物質は酵素によって合成される。どのような酵素をつくるかの設計図がDNAである。DNAから酵素が作られる過程を学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論				
担当者氏名	水口 龍次				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

形態機能論は人間の体のつくりとしくみ、体の中で起こっている現象を学ぶ学問です。人体の正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われます。聞いたことのない難解な用語や概念が出てきますが、「人体のしくみ」に触れ「そうなのか」「なるほど」と実感し、人体の巧みさ、自分自身の体に関する身近な学問であるので興味を持って学習すること。

《授業の到達目標》

1. 人体・細胞の生命は栄養素を分解して得られたエネルギーによって維持されているが、そのための栄養素はどのように確保されているか理解できる。
2. 栄養素の分解に必要な酸素はどのように確保され、分配されるのか理解できる。
3. 内部環境の恒常性(ホメオスターシス)について理解できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 100%

《テキスト》

系統看護学講座、人体の構造と機能、解剖生理学、医学書院

《参考文献》

みるみる解剖生理 第3版：松村譲児。医学評論社  
 「好きになる解剖学 (Part2)」竹内修二  
 「説いて覚える看護学生のための解剖生理学ドリル」安谷屋均

《授業時間外学習》

- ・上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む。時間があるときは17号館の資料室の人体の模型に親しむ。
- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。
- ・教科書のゼミナール復習と課題をノートに整理すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論：解剖生理学を学ぶための基礎知識	人体の素材としての細胞・組織：細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、組織、
2	総論：解剖生理学を学ぶための基礎知識	構造と機能から見た人体：内部構造から見た人体の区分、人体内部の腔所と膜、人体の形状、
3	栄養の消化と吸収 1	口・咽頭・食道の構造と機能
4	栄養の消化と吸収 1	腹部消化管の構造と機能：胃の構造、小腸の構造、大腸の構造
5	栄養の消化と吸収 2	腹部消化管の構造と機能：胃における消化、小腸における消化、栄養素の消化と吸収、大腸の機能
6	栄養の消化と吸収 2	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能：膵臓の構造、肝臓と胆嚢の構造、肝臓の機能、腹膜
7	呼吸と循環 1	呼吸器の構造：上気道、下気道と肺、胸膜・縦隔、呼吸：内呼吸、外呼吸、呼吸器と呼吸運動、
8	呼吸と循環 1	気道の機能、肺胞の機能、呼吸のメカニズム、呼吸筋肉、呼吸器量、ガス交換とガスの運搬、
9	呼吸と血液	血液：血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液の凝固と線維素溶解、血液型
10	呼吸と循環 2	循環器系の構成、心臓の構造、心臓壁、心臓の血管と神経、心臓の拍出機能：心臓の興奮とその伝達、心電図
11	呼吸と循環 2	抹消循環器系の構造：血管の構造、肺循環の血管、全身の動脈、全身の静脈、血液の循環の調節：血圧、血液の循環、リンパとリンパ管
12	体液の調節と尿の生成 1	腎臓の構造と機能、腎臓の機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能、
13	体液の調節と尿の生成 1	傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過値、
14	体液の調節と尿の生成 2	排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿、体液の調節、脱水、酸塩基の平衡、アシドーシス、アルカローシス
15	まとめ	試験に備えてのまとめと復習

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論				
担当者氏名	水口 龍次				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

形態機能論は人間の体のつくりとしくみ、体の中で起こっている現象を学ぶ学問です。人体の正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われます。聞いたことのない難解な用語や概念が出てきますが、「人体のしくみ」に触れ「そうなのか」「なるほど」と実感し、人体の巧みさ、自分自身の体に関する身近な学問であるので興味を持って学習すること。

《授業の到達目標》

1. さまざまな植物機能が生命を維持するためにどのように調節されているか理解できる。
2. 骨格と筋は全身にどのように配置され、どのように運動を行うのか理解できる。
3. 細胞膜の興奮とはどのような現象であり、他の細胞にどのように伝えられるか。中枢神経に集まった情報がどのように処理され、末梢神経を通してどこに伝えられるか理解できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト 100%

《テキスト》

系統看護学講座、人体の構造と機能、解剖生理学、医学書院

《参考文献》

みるみる解剖生理 第3版：松村譲児。医学評論社  
 「好きになる解剖学 (Part2)」竹内修二  
 「説いて覚える看護学生のための解剖生理学ドリル」安谷屋均

《授業時間外学習》

- ・上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読む。時間があるときは17号館の資料室の人体の模型に親しむ。
- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。
- ・教科書のゼミナール復習と課題をノートに整理すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内臓機能の調節 1	自律神経による調節：自律神経の機能、自律神経の特徴、交換神経と副交感神経、自律神経の構造、
2	内臓機能の調節 1	自律神経の構造、：好感神経の構造、副交感神経の構造、
3	内臓機能の調節 2	自律神経の神経伝達神経と受容体、カテコールアミン受容体、アセチルコリン受容体、内分泌系による調節：内分泌とホルモン、ホルモンの化学構造と作用機序、
4	内臓機能の調節 2	全身の内分泌腺と内分泌細胞、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際
5	身体の支持と運動 1	人体の骨格、骨の形態と構造、骨の組織と組成、骨の連結
6	身体の支持と運動 1	骨格筋の構造、骨格筋の作用、体幹の骨格と筋：脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋
7	身体の支持と運動 2	上肢の骨格と筋：上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、下肢帯の筋群、大腿も筋群、下肢の筋、足の筋、下肢の運動、
8	身体の支持と運動 2	頭頸部の骨格と筋：神経頭蓋、内臓頭蓋、頭部の筋、頸部の筋、筋の収縮：骨格筋の収縮機構、
9	情報の受容と処理 1	神経系の構造と機能：神経細胞と支持細胞、ニューロンでの興奮の伝導、シナプスでの興奮の伝達、神経系の構造
10	情報の受容と処理 1	脊髄の構造と機能：脊髄の構造、脊髄の機能、脳の構造と機能：脳幹・小脳、間脳、大脳皮質
11	情報の受容と処理 2	脊髄神経と脳神経：脳神経の構造と機能、脳の高次機能：脳波と睡眠、記憶、本能行動と情動行動、内臓調節機能、中枢神経系の障害、ジャパン・コーマ・スケール、
12	情報の受容と処理 2	運動機能と下行伝導路：運動ニューロン、感覚機能と上行伝導路、眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚・嗅覚、疼痛
13	外部環境からの防御	皮膚の構造と機能、生体の防御機構、生体防御の関連臓器
14	性殖と発生	男性生殖器、女性生殖器、受精と胎児の発生
15	まとめ	試験に備えてのまとめと復習

科目名	生化学				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

生体は多くの化学物質により構成されている。各々の成分は必要に応じて生成され、不要になれば代謝、排泄されるなど、相互に調和をもってはたらくている。こうした調節機能が破綻したとき、病気が引き起こされ、老化が進む。本授業では、生体成分の化学構造、種類、役割、はたらきとともに、生命活動における反応や調節機構などを学習し、病気の原因や治療法を理解するための生化学の基礎知識を習得する。

《授業の到達目標》

細胞構成成分や糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質などの重要な生体成分を系統的に分類し、その働きなどが概説できる。  
 酵素、ホルモン、免疫機構などはたらきを理解し、健康維持や疾病との関連性を概説できる。  
 栄養学や薬理学などと関連付けて、看護実践への関わりを主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）  
 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上になったものには単位を与えません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造	細胞の構成成分の種類、役割、はたらきなど
2	生体成分	構成成分の化学構造、代謝や異化・同化など
3	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の構造と分類、タンパク質の種類とはたらきなど
4	タンパク質の代謝	タンパク質の代謝、尿素回路、先天性代謝異常など
5	酵素の働き	酵素の役割・分類、反応のしかた、診断への応用など
6	糖質の性質	糖の定義・構造、種類・分類、役割など
7	糖質の代謝	解糖系とクエン酸回路、エネルギーの生成、血糖の調節など
8	脂質の性質	脂質の化学構造、種類・分類、役割など
9	脂質の代謝	脂肪酸の代謝、コレステロールの生成と代謝、脂質異常症など
10	核酸と遺伝	核酸の構造、遺伝のしくみ、遺伝性疾患、遺伝子操作など
11	血液と体液	血液・体液成分の種類とはたらきなど
12	ホルモンの種類	ホルモンの構造と分類、作用機序、受容体など
13	ホルモンのはたらき	ホルモンの種類・はたらき、内分泌臓器、内分泌疾患など
14	ビタミン	ビタミンの化学構造・種類・役割、欠損疾患など
15	免疫	免疫のしくみ、抗体のはたらき、免疫疾患など

《テキスト》

『わかりやすい生化学 - 疾病と代謝・栄養の理解のために』  
 石黒伊三雄 監修（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考文献》

『系統看護学講座 生化学』三輪一智、中恵一著（医学書院）  
 『ナースング・グラフィカ2 臨床生化学』三井和浩 編（メディカ出版）  
 『シンプル生化学』林典夫 編（南江堂）  
 『イラストでまなぶ生化学』前場良太 著（医学書院）

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実にし、講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》

能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	栄養学（食品学を含む）				
担当者氏名	真鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

より豊かな人生にとって健康は重要な要素であり、その健康を維持・増進あるいは逆に悪化させるのは栄養である。したがって、栄養を知ることが、健康あるいは疾患時のケアを行う上で必要不可欠である。そこで本講義では、栄養の基本から学習を進め、人のライフステージごとの栄養、さらに疾患時の栄養管理の基本について学び、看護における栄養の重要性への関心を高め、食事への感性や問題意識を育むことを目的とする。

《授業の到達目標》

(1) 栄養と栄養素の関係について説明できる。(2) 健康の維持・増進と栄養の関わりについて、基本的事項を説明できる。(3) 食事摂取基準や運動基準について、その意義を説明できる。(4) 種々の評価指標から対象者の栄養状態を推測できる。(5) 各ライフステージごとにその生理的特徴と栄養管理について、要点を簡潔に説明できる。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験の結果により成績評価を行います。  
 (なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する)  
 (2) 授業回数のうち、1/3以上欠席した者は、成績評価対象外とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養とは何か	栄養とはどのような状態を指すのかという定義、さらには栄養を支える栄養素について簡単に説明できる。
2	日常生活と栄養	より豊かな人生に必要な健康の維持・増進と栄養の関係を日常生活の中から話題を取り上げて説明できる。
3	栄養素とその働き(1)	糖質・たんぱく質・脂質の種類と働きについて、基本となる知識を学び、生体内でのエネルギー源としての役割を理解する。
4	栄養素とその働き(2)	ビタミン・ミネラルの種類及び食物繊維とその働きの基本的事項を学び、これら栄養素が体内で果たす役割について理解する。
5	食品群と食事バランスガイド	食品群という概念と日常での活用法を学び、その展開として食事バランスガイドの考え方と活用法を理解する。
6	食事摂取基準と運動指針	「日本人の食事摂取基準」と「健康づくりのための運動指針」を健康の維持・増進にどのように活用することができるかを理解する。
7	ライフステージと栄養(1)	妊娠期の栄養の意義と特徴について母体と胎児の両面から学び、妊娠期の栄養の重要性について説明できる。
8	ライフステージと栄養(2)	授乳期及び乳児期の母子の栄養について基本事項を中心に学び、授乳婦の母体管理及び乳児の栄養管理の重要性を理解する。
9	ライフステージと栄養(3)	発育期の栄養が成人期以降の身体状況にどのような関わりを持ち、かつ影響を及ぼすかについて説明できる。
10	ライフステージと栄養(4)	成人期における栄養上の問題点とその栄養管理について学び、生活習慣病等と栄養の関わりについて理解する。
11	ライフステージと栄養(5)	高齢期の栄養素代謝の特徴と栄養管理の必要性を学び、高齢者の食事と調理のポイントについて理解する。
12	栄養補給と治療食	栄養状態の評価法、栄養補給のための治療食の種類と内容、さらに補給法の種類と特徴について学び、ベッドサイドでの活用をすすめる。
13	治療食の実際(1)	胃腸疾患、肝疾患、膵疾患等の消化器系疾患治療で利用される治療食の基本的事項を学び、各疾患と栄養素の関わりを理解する。
14	治療食の実際(2)	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症等の代謝疾患治療で用いられる治療食の基本的事項を学び、これら疾患に栄養が深く関わっていることを理解する。
15	治療食の実際(3)	循環器疾患、腎疾患等で用いられる治療食の基本的事項を学び、将来の実習に活用できる。

《テキスト》

『コンパクト栄養学 改訂第3版』脊山洋右、廣野治子編  
 南江堂、2011

《参考文献》

『保健・医療・福祉のための栄養学』渡辺早苗、寺本房子、丸山千寿子、藤尾ミツ子編、医歯薬出版、2011

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。(2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。  
 忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

日常の食生活で栄養・食品の情報に触れて下さい。  
 開始30分までを「遅刻」、30分以上は「欠席」、「遅刻」3回で「欠席」1回とします。



《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護学概論				
担当者氏名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

看護の基本的概念(人間、健康、環境、看護)の理解を踏まえ、看護学の知識体系(理論)の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間(対象)について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体として側面から考察し、ニーズの充足と自立と、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。生命倫理上の諸問題について考察する。

《授業の到達目標》

社会の中で健康問題を持って生活する人間について、全人的な存在であることを説明できる。人間の欲求行動を看護学的視点で理解し、生活支援としての看護の重要性について説明することができる。科学的思考に基づいた看護の重要性を具体的に述べるができる。生命・人間の尊厳や人権についての知識を修得し、看護と倫理的・法的問題について説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション10%、学術的なレポートの提出20%

《テキスト》

川村佐和子編ナースングラフィカ16看護学概論/メディカ出版 F.ナイチンゲール,薄井坦子訳:看護覚え書/現代社 V.ヘンダソン:看護の基本となるもの/日本看護協会出版会

《参考文献》

・Mメイヤロフ著:田村真・向野宣之訳:ケアの本質ー生きることの意味ーゆるみ出版2006  
 ・日本看護協会:看護白書、日本看護協会出版会2011

《授業時間外学習》

・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し、理解しておくこと。  
 ・授業終了後、課題を出すので、次回提出すること。

《備考》

・配布資料は必ずファイルしておくこと。  
 ・講義中の携帯電話、メールを禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護って何だろう	看護という言葉の意味、ケアとキュアの考え方、ケア/ケアリングの概念
2	専門的看護の発展	近代看護の歴史的変遷、わが国の看護改革と看護の専門職化
3	専門的看護の役割	ヘルスケア提供システム、看護の場、看護の役割・責任、実践の科学としての看護、看護技術の科学的検証、エビデンスに基づく看護、
4	社会の変化と看護の役割拡大	わが国の保健・医療・福祉の状況、看護実践のための教育、専門職としての看護組織、日本における専門看護師、認定看護師他、
5	看護における法的責任	看護実践の職業的及び法的規則、医療事故における法的責任、看護実践に影響を及ぼす法律
6	看護の対象	統合体としての人間、人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローのニーズの階層、健康障害を持つ対象の理解、
7	看護の対象	ストレスと適応、ストレスコーピング、危機状態と介入、リラクゼーション
8	看護の対象	グループワークとプレゼンテーション
9	健康、病気とウェルネスの促進	健康、病気、ウェルネス(安寧)の意味、健康と病気、健康と病気に影響する要因、健康信念モデル、ヘルスプロモーション
10	看護活動	保健、医療、福祉の概念、保健・医療・福祉サービス提供の場のタイプ、保健医療福祉チーム
11	看護活動	看護過程
12	看護活動	看護過程
13	患者の権利をめぐる歴史的変遷	ニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、日本における患者の権利、
14	看護における倫理と価値	看護における倫理の必要性、価値、看護倫理、道徳的ジレンマと倫理的課題、倫理的課題への対応、倫理原則、患者の権利
15	看護における倫理と価値	グループワーク:事例にみる倫理的意思決定の例

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護理論				
担当者氏名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

本授業は看護理論家が看護をどのようにみているかを知ることと看護の質を向上させることがねらいです。看護理論を分かりやすく学ぶための枠組みに沿って授業を進めます。例えば、「看護理論家は理論を書くとき何を材料にしたのだろうか」「看護の中心的な概念、人間・環境・健康・看護をどのように捉えているのか」などを考えます。看護過程の中で看護理論がどのように活用されているかを考察します。

《授業の到達目標》

- ・看護実践を支える看護理論の重要性が説明できる。
- ・実践、理論、研究の関係を説明できる。
- ・看護に用いる主要な看護理論を述べ、各理論家の理論の特徴を類別できる。
- ・看護理論を看護過程に応用できる。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション20%、筆記試験70%、レポートの提出10%

《テキスト》

教材は授業で配布する。

《参考文献》

- ・ E J オーランド、稲田八重子訳：看護の探求
- ・ パトリシアベナー、伊部俊子監訳：ベナー看護論
- ・ シスターCロイ、松木光子訳：ロイ適応看護論入門
- ・ トラベルビー、長谷川浩訳：人間対人間の看護
- ・ 野川道子著：看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド者

《授業時間外学習》

参考図書に上げている看護理論を読むこと

《備考》

配布資料は必ずファイルしておくこと。講義中の携帯電話、メールを禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護理論の開発の歴史	看護の理論化、看護の科学化、医学モデル、看護モデル、
2	看護理論の範囲	大理論、中範囲理論、小範囲理論
3	看護理論の共通要素	人間、環境（社会）、健康、看護
4	看護理論と実践	看護実践について、理論との関係、実践の中での看護理論の応用例、看護理論の有効性と限界
5	看護理論を分かりやすく読むための枠組み	演習オリエンテーション
6	看護の諸理論	演習
7	看護の諸理論	プレゼンテーション
8	看護理論と看護過程	看護過程の概観と看護理論の適用方法、看護理論と看護研究
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	ヘルスアセスメント				
担当者氏名	小林 廣美・道廣 睦子・竹内 美樹・森崎 由佳				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

「看護の対象となる人の健康状態を理解する」をねらいとして、「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を修得することができる。

《テキスト》

小野田千枝子 フィジカルアセスメント 金原出版

《参考文献》

《授業の到達目標》

1.ヘルスアセスメントの概念がわかる。2.看護の対象の健康状態を把握するために必要な、アセスメント技術としての健康歴の聴取方法がわかる。3.身体診査の基本技術の実施ができる。

《授業時間外学習》

1.各単元に関連する形態機能論の事前学習を課す。2.演習の復習をすること。3.演習事後課題の提出を課す。

《成績評価の方法》

筆記試験60% 課題やレポート20% 演習態度20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ヘルスアセスメントの概念(講義)	1.ヘルスアセスメントの意義 2.ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 3.ヘルスアセスメントの基本技術
2	ヘルスアセスメントの方法(講義)	1.健康歴の聴取の方法がわかる。2.問診・インタビューの方法 3.発達課題について理解できる。
3	健康歴の聴取(演習)	1.系統的レビュー 2.精神的・社会的データ 3.全体像(情報の統合)
4	前頸部、目、耳のアセスメント(講義)	1.感覚器系のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。2.感覚器系のフィジカルアセスメントの主観的情報と客観的情報がわかる。
5	感覚器系のアセスメント(演習)	フィジカルアセスメントの体験をする。1.頭部・顔面・頸部 2.視聴覚系(眼) 3.視聴覚系(耳) 4.鼻・口・咽頭
6	呼吸器のアセスメント(講義)	1.呼吸器のアセスメントに必要な解剖学的構造をイメージしながら、視診・触診・打診・聴診に必要な基礎的知識がわかり実践につなげることができる。
7	呼吸器のアセスメント(演習)	1.呼吸器のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。2.呼吸器の視診・触診・打診・聴診を体験できる。
8	腹部のアセスメント(講義)	1.腹部のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。2.腹部の視診・触診・打診・聴診の基礎的知識がわかる。
9	腹部のアセスメント(演習)	腹部のアセスメントに必要な解剖学的構造をイメージしながら、視診・触診・打診・聴診ができる。
10	血管系のアセスメント(講義と演習)	1.心臓の機能と構造がわかる。2.心臓・血管系の査定が実施できる。3.大動脈弁、肺動脈弁、三尖弁領域の聴診が実施できる。
11	筋・骨格のアセスメント(講義)	1.筋・骨格系の形態機能の基礎知識が説明できる。2.アセスメントの視点がわかる。
12	筋・骨格のアセスメント(演習)	1.筋・骨格構造をイメージしながら、全身の左右対称性、姿勢、歩行、骨格筋・関節の機能や可動性を査定できる。2.アセスメント所見を記録できる。
13	神経系のアセスメント(講義)	脳・神経系の形態機能の基礎知識が説明できる。2.アセスメントの視点がわかる。
14	神経系のアセスメント(演習)	脳・神経系の形態機能の基礎知識をイメージしながら、深部腱反射の査定が実施できる。2.小脳機能の査定が実施できる。
15	事例演習	既習した身体診査の方法を活用して、事例に基づいた演習が実施し、アセスメントできる。

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論（生活技術援助）				
担当者氏名	小林 廣美・道廣 睦子・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

看護の対象者に看護を提供するために必要な看護援助技術と健康的な日常生活を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。看護実践に必要な基本的看護技術、特に生活援助について学習していきます。

《テキスト》

系統的看護学基礎講座 基礎看護学2・3「基礎看護技術」有田清子「基礎看護技術」藤崎郁

《参考文献》

必要時その都度提示する

《授業の到達目標》

1. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な知識がわかる。
2. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な技術が実施できる。
3. 看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

《授業時間外学習》

1. 授業計画にそって教科書を読み、提示図書による事前学習をする。
2. 授業終了後、必ず復習をして理解を深める。
3. 演習後は練習を繰り返し技術の習得に努める。

《成績評価の方法》

講義や演習への出席、グループにおける討議の参加の程度や、試験、レポートなどによって総合的に評価する。試験80%、レポート10%、演習への能動的態度10%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境 ポディメカニクス	環境の概念を理解することができる。ポディメカニクスの目的を理解することができる。
2	ベットメイキング（講義・演習）	クローズドベッド、オープンベッド技術の習得ができる。
3	バイタルサイン（講義）	バイタルサインのメカニズムから理解することができる。
4	バイタルサイン（講義・演習）	バイタルサインの測定方法を原理や根拠から理解することができる。
5	バイタルサイン（演習）	体温・脈拍・血圧・呼吸を正確に測定することができる。
6	安全を守る技術（講義・演習）	感染防止、手洗い、ガウンテクニックの目的・方法を説明することができる。
7	安全を守る技術（講義・演習）	無菌操作についての原理・方法を理解することができる。
8	中間まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。
9	身体の移動に関する援助技術（講義・演習）	体位変換・車椅子への移乗や移送の目的・方法を理解し実施することができる。
10	栄養や食事に関する援助技術（講義・演習）	食事の意義がわかる。基本的な食事の援助方法を実施することができる。
11	身体の清潔と衣生活援助技術（講義）	身体を清潔に保つことの意義・目的を理解することができる。
12	身体の清潔と衣生活援助技術（講義・演習）	全身清拭・足浴の目的を理解して実施することができる。
13	身体の清潔と衣生活援助技術（講義・演習）	洗髪・口腔ケアの目的を理解して実施することができる。
14	排泄に関する援助技術（講義・演習）	尿器・便器を使用して、排泄援助をすることができる。
15	援助技術総まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習				
担当者氏名	道廣 睦子・小林 廣美・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

医療施設に入院している対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して、対象理解を深める。また、対象者の健康上のニーズにあった日常生活援助の方法を見学や実施を通して学ぶ。

《テキスト》

看護学概論で指定されている図書

《参考文献》

《授業の到達目標》

1.看護の視点をもち対象者に接近することができる。2.対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して対象理解を深め対象者の看護上のニーズを理解し日常生活援助が実施できる。3.看護活動が理解できる。

《授業時間外学習》

事前のオリエンテーションを受けて、事前学習を充分行うこと。

《成績評価の方法》

実習要綱の実習評価表に基づいて行う。実習終了後の発表、記録、出席、実習態度等総合的に評価する。  
評価表80%、グループ発表とレポート10%、個人記録10%

《備考》

事前に看護学概論で学習した内容を復習し、自分が観る視点をもって、積極的にかつ効果的な実習を行うことを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内容の詳細は実習要綱で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	若井・道廣・加藤・新田・川上・齋藤・小林・杉原・島田・白神・瀧本・久井・竹内・秦・森崎・高橋・大植・渋谷・東・藤本・廣田				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護学科における学士力を養うために、コミュニケーションスキル、クリティカルシンキング、スタディスキル、問題解決能力、ソーシャルスキル等の基本的学習技術を習得することを目的とする。

《テキスト》

講義の際、資料を配布する。

《参考文献》

講義の中で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

1. ノートテイキング、文献検索、レポートの書き方等の実際を活用して小論文を記述することができる。
2. コミュニケーションスキルを活かしたグループワークを実践し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる。

《授業時間外学習》

講義と演習の組み合わせになっている内容が多いため、時間外での学習時間を確保し、計画的な学習作業を進めていくこと。

《成績評価の方法》

- 1・2週（各3%）、3～14週（各15%）、15週（4%）計100%とし、100点満点で採点する。  
欠席が3分の1以上の場合、認定しない。

《備考》

講義と演習の組み合わせにより授業を進めていくため、欠席をすると学習内容習得に影響する。欠席しないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ガイダンス、看護学科ポリシーについて、大学生活について
2	学習の方法	行動変容に関する理論、学習方法
3	ノートテイキング	ノートを取る意味・ノートの取り方・作り方、講義の受け方
4	ノートテイキング	ノートを取る意味・ノートの取り方・作り方、講義の受け方（演習）
5	文献検索	文献検索方法・文献カード作成方法
6	文献検索	兵庫大学図書館所蔵文献検索・その他の文献検索の実際（演習）
7	レポートの書き方	大学で求められるレポートの書き方
8	レポートの書き方	レポート作成（演習）
9	コミュニケーション	コミュニケーションとは・コミュニケーションスキル
10	コミュニケーション	グループ単位でのコミュニケーション（演習）
11	グループワークの方法	グループワークとは・看護カンファレンスとは・グループワークの方法
12	グループワークの方法	グループワークの実際（演習）
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションとは・スライド作成の方法・プレゼンテーションの方法
14	プレゼンテーション	グループ単位でのプレゼンテーション準備（演習）
15	グループ発表、講評	グループ別プレゼンテーション・講評

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを拒否することまではいかないが迷っている人、教員になりたい人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業の本質である。過去の歴史の問題点を回顧しつつ、その時々々に教育という営みがいかに大きな精神的影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための質的経験を蓄積する授業である。

《授業の到達目標》

教員になるという決意をするために、古典を読む力の要請が必要である。それとともに、その力を応用することができる資質の要請が求められている。そのためには独創性と子どもたちや子どもたちの保護者への教育的サービスを実施することができる能力を養成しなければならない。教員の資質能力としてコミュニケーションを身につける必要がある。これらのことを認識する必要がある。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加(討論、グループ学習の営み、ディベートなどへの参加)40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』  
関西学院大学出版会 2008年

《参考文献》

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。また、多くの教育関係古典書に接する必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	教職概論の全体像を把握するために、読破しなければならない書籍を紹介し、その読み方、整理の仕方などを紹介し、それらを整理体系化する力の養成に取り掛かる。
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解できる能力を、体験的に養成する。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を明確に理解する能力を身につける。
4	進路指導の意義と課題	教員組織を善く理解し、教員同士の協力とは一体何なのか、キャリア教育の指導とは一体何なのか、そこに求められる教師力とは一体何なのか理解する。
5	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは一体何なのか吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
6	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究することで、教員養成の課題をみつける。教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
7	教員像について	聖職か、労働者か、専門性をもつ専門家と見なすのか、考察することで教師のアイデンティティを探究する。教師像の自ら探究する力を自ら養成する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導、生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考え、教師評価を考察する。
9	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
10	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が公務分掌の中に位置づけられている。副校長に始まり、道徳指導教諭、主幹などが設けられている。分析と解明をする。
11	教師の職場環境	教師の勤務実態、職務上の義務と未分譲の義務、安全管理などについて考察し、課題を明確にする力を養う。
12	教師と地域社会と保護者	モンスターペアレンツの登場により教育現場の混乱はいっそう深刻になっていることを理解し、教師・地域社会・保護者の関係のありようを考察する。
13	各種審議会と教員の資質・能力の向上について	多くの審議会で、教員の資質向上が展開されてきた。それらの中で、特徴がある答申を取り上げて教員の資質・能力の向上について整理し、発展の方向性を考察する。
14	教員免許更新制について	10年ごとの教員免許更新制について、問題点と本来の目的との関わりを評価することを心がけることにする。
15	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の課題は、教員養成の資質・能力の向上が常に主張されるが、改革の留まることは考えられない。今後取り組むべき課題について、自ら見つけ出す力を養成する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ボルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《テキスト》

1. 『ボルノー教育学入門』 広岡 義之著（風間書房）2012年

《参考文献》

必要があれば講義の際に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。  
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講すべきかを理解する。
2	教育の目的と目標 1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標 2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考えることができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてボルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあつて、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。



《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《テキスト》

1. 『教育の制度と歴史』 広岡義之編著（ミネルヴァ書房）2007年

《参考文献》

（仮題）『教育用語付教育法規』 広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2012年。

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。  
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが開いたのか？ この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由平等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革 1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革 2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられるが、このような問題に対して、日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか？悩む人々と治療者の関係という実践の中から生み出された臨床心理学の理論は、人と人との関係が希薄だといわれる現代人にとって新鮮であるかもしれない。このような臨床心理学理論を学び自分なりの気づきや視点をもてるように学ぶ。

《授業の到達目標》

カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになる。自分自身のこころに焦点をあてそこに耳を傾けられるようになること。子どもたちを取りまく様々な問題のサインを見逃さず、自分なりの視点を持てるようになること。

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト等20% 授業内容の理解50%

《テキスト》

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

《参考文献》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』  
滝口俊子・田中慶江編 創元社1400円＋税  
『特別支援教育のための100冊』  
特別支援プロジェクトチーム 創元社1800円

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。リストの中から自分の最も興味ある1冊を選んで手書き・用紙問わず5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ひとの話を聴くということ、その心得について
2	カウンセリングの基礎理論	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について
3	カウンセリングの基礎技術	DVD 「初回面接での信頼関係の確立」から学ぶ
4	カウンセリングの実習	簡単なロールプレイを経験して、日常の自分自身の話を聞く態度などをふりかえってみる
5	こころの世界を取り扱うには	相談に来た人が、自由に思いついたことがいえる雰囲気をつくるにはどのようなことに留意すべきか
6	自分のこころをみつめる	「フォーカシング」の理論
7	自分のこころをみつめる	「フォーカシング」の体験
8	こころの発達理論	関係性の発達を知り、思春期以降の子どものこころの問題を理解しやすくする
9	子どもたちが育つ環境の問題	大人たちが子どもの成長を妨げている事例について考える
10	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題	軽度発達障害についての理解を深める
11	箱庭療法の理論	箱庭療法が生まれた背景と理論について理解を深める
12	箱庭療法から心の治療過程を知る	DVDに表現された子どもの箱庭療法の事例をみることによって、心の治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師にできることとできないことは何か、専門機関にリファーするにあたって教師にできることは何か
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりに考える
15	まとめ	この授業で学んだことをふり返し、今後活かすべきことは何か考える



平成 23（2011）年度入学者

専門教育科目



# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ			
								1年		2年		3年		4年						
								I	II	I	II	I	II	I	II					
専門 教育	VII群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○				2						加藤 知可子・[南川 博康]	151		
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○						2							
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○							6						
		在宅看護概論	講義	2	◇	□					2							新田 幸子	152	
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□						2								
		在宅看護実習	実習	2	◇	□								6						
		地域看護学概論	講義	2	◇	□					2							杉原 トヨ子	153	
		地域看護活動論	講義	2	◇	□						2								
		産業保健論	講義	1	◇	□						1								
		学校保健概論	講義	1	◇	□	○				1							杉原 トヨ子	154	
		国際看護学	講義	1	◇	□									1					
		災害看護学	講義	1	◇	□									1					
		地域看護学実習	実習	3	◇	□									9					
		専門 科目	VIII群 (統合と実践の看護)	看護研究Ⅰ(基礎編)	演習	2	◇	□					2							
				看護研究Ⅱ(応用編)	演習	2	◇	□							2					
リスクマネジメント論	講義			1								1								
看護の統合と実践実習	実習			2	◇	□							6							
専門 科目	IX群 (関連)	学校保健活動論	講義	2			○					2								
		学校保健演習	演習	2			○					2								
		養護概説	講義	2			○				2						杉原 トヨ子	155		
		健康相談活動の理論と実践	講義	2			○						2							
基礎 科目	X群 (基礎)	基礎ゼミ	演習	2			○	2												

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ	
								1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
教職に 関する 科目	教職概論	講義	2				○	2										
	教育原理	講義	2				○	2										
	教育心理学	講義	2				○		2							(大平 曜子)	156	
	教育制度論	講義	2				○	2										
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	講義	2				○		2							[上寺 常和]	157	
	教育方法・技術論	講義	2				○		2							(河野 稔)	158	
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2				○		2							[上寺 常和]	159	
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2				○	2										
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5				○						5					
	教職実践演習(養護教諭)	演習	2				○							2				

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

科目名	家族関係論				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

現代家族は、少子・超高齢社会の中で、伝統的に培ってきた様々な機能が果たせなくなるとともに、DV、非行、虐待、介護問題、離婚率の増加など、様々な問題を抱えてきた。ここでは家族の機能、構造を考えるとともに、現代家族の抱える問題についても検討を加え、看護師として必要な家族ケアの視点を養うとともに、家族支援の在り方、個々のアプローチ方法について検討を加える。

《授業の到達目標》

現代家族の直面している問題を理解できるようになる。  
 地域社会や社会構造の変化と関連だてて、家族が直面している問題を理解できるようになる。  
 家族内での人間関係（夫婦、親子）の形成と、維持について理解できるようになり、解決課題へ取り組む家族の保持力を、家族の発達段階に合わせて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

この授業での評価は、受講態度、定期試験、課題達成の3項目で行う。  
 その関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%とし、その合計で、評価点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族を考える	家族をめぐる諸概念の検討と、現代家族の直面している問題を概観する。
2	家族の発生 パートナー選択と結婚	家族発生の出発点である配偶者の選択がどうなされ、夫婦関係がどのように形成されて行くのかを検討する。
3	夫の役割、妻の役割	伝統的な家族から現代家族まで、その役割は社会の変化とともに変化してきている。今家族はどこに向かって進もうとしているのかを検討する。
4	父なること、母になること	DINKとDEWK、子育てでの夫婦の役割、地域の役割、祖父母の役割について考える。
5	子供の成長と父母の役割	夫と妻から、父親と母親へ、そして祖父と祖母へ、夫婦の成長の過程と老いの過程、そこでの対処課題について検討する。
6	夫婦での看取りと、両親の看取り	必然のこととして、家族というシステムも老いの過程を経て、看取りの過程に直面し、消滅していく。現代社会における看取りの過程での問題点、についても検討を加える。
7	伝統的な家族機能と現代家族	伝統的な家族機能から現代家族までの家族機能とそこでの人間関係の特徴を検討する。
8	社会の変化と都市型家族の問題点	地域機能が衰退化してきている現代都市社会において、縮小した家族機能で生活問題に対処を迫られている現代家族の問題点と地域の福祉社会化について検討する。
9	家族員が病んだ時	患者家族としては、どのような精神的、肉体的問題に直面するのか、患者との人間関係、家族間の人間関係にどのような変化が起こるのかを概観する。
10	在宅ケアでのストレスマネジメント	患者へのケアの質を高めるとともに、家族の生活の質を高める家族のストレスマネジメントと課題への対処力の保持について検討する。
11	家族支援者に必要な専門職としての態度	バイスティックの7原則を基本として、対人援助の専門職に必要な価値、態度を学ぶ。
12	家族支援の方法 システム理論からのアプローチ	家族療法の中でシステム理論を用いたシステムズアプローチの概要、アセスメントの方法を学ぶ。
13	家族支援の方法 家族の発達段階と危機の理解	家族問題を理解するために必要な、家族の発達段階および各段階で遭遇する可能性の高い危機状況についての理解、それへの対処方法を学ぶ。
14	家族支援の方法 教育的アプローチ	家族の課題への対処能力がある程度認められる場合に、プログラム化された訓練としてそれらの能力を強化していく教育的プログラムについて概観する。
15	家族支援の方法 心理学的アプローチ	家族援助の心理的諸技法について概観し、援助方法による関わり方の差異、評価方法の特徴を学ぶ。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎分野  
 「家族論・家族関係論」医学書院 2011

《参考文献》

千田有紀「日本型近代家族 どこからきてどこに行くのか」  
 勁草書房 2011

《授業時間外学習》

報道などに常に興味を払い、家族に関わる問題が提起されている場合に必ず目を通しておくこと。また各自の地域の中で地域社会と家族の関わり合いがみられる行事などが存在するかどうか、またそれへの参加状況に注目しておくこと。授業はシラバスに準じて行われるので、教科書には目を通して出席すること。

《備考》

授業への積極的関与を歓迎する。質問は授業中でも歓迎する。理解できるまで質問すること。

科目名	保健福祉行政論				
担当者氏名	河野 真、久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力				

《授業の概要》

保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに、保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深めることを目的とする。地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を学習する。  
 看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」と、保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。

《授業の到達目標》

社会保障の役割、理念、機能、制度の体系について理解できる。  
 保健医療福祉行政の要点について知識を深めることができる。  
 国・都道府県・市町村等、行政のしくみとその役割を理解できる。  
 地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験85%、授業への参加とその成果15%

《テキスト》

『保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）』医学書院、および授業中に配布するプリント。標準保健師講座1『地域看護学概論』編著/奥山則子他 医学書院

《参考文献》

国民衛生の動向 厚生統計協会  
 その他講義時に紹介する予定

《授業時間外学習》

本教科は看護師・保健師国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。  
 講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療福祉行政のめざすもの	保健医療福祉行政の目的について理解する
2	保健医療福祉制度の変遷	保健医療福祉制度の変遷について理解する
3	保健医療制度と医療資源	保健医療制度の概要と医療資源について理解することができる
4	公衆衛生看護活動に関する法規	公衆衛生看護活動と関連する法規について理解することができる
5	国・都道府県・市町村等、行政のしくみ	地方自治、行政のしくみの概要について理解することができる
6	地域保健行政と保健師活動	地域保健行政における保健師活動の位置づけについて理解することができる
7	保健医療福祉の計画と評価	保健医療福祉計画および評価の目的と実施について理解することができる
8	社会保障の理念・日本の保健医療福祉活動の基本	社会保障の定義、目的、範囲、体系等について学ぶ
9	社会保険制度（1）社会保険の変遷・医療保険制度	医療費の動向、医療供給システムについて学ぶ
10	社会保険制度（2）社会保険の変遷・医療保険制度	医療保険制度、医療制度改革について学ぶ
11	社会保険制度（3）介護保険制度	介護保険の目的、仕組み、制度改革について学ぶ
12	社会保険制度（4）年金制度・その他の社会保険制	年金保険制度と労働保険制度（労働者災害補償保険・雇用保険）について学ぶ
13	社会福祉諸法の理念と施策（1）	社会福祉の法制度、動向、実施体制、社会福祉制度形成史について学ぶ
14	社会福祉諸法の理念と施策（2）	社会福祉施策（子福祉、老人福祉、生活保護、児童福祉、障害者福祉）について学ぶ
15	保健医療福祉行政論の要点整理	保健師国家試験対策講座



《専門教育科目 専門基礎科目 群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	公衆衛生学（疫学含）				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。

《テキスト》

「標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学」 医学書院  
 「シンプル衛生・公衆衛生学2011」 鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）  
 各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる
- 3 疫学的な思考や手法を理解する
- 4 主要な生活習慣病の疫学や危険因子を説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《成績評価の方法》

定期試験90%、小テスト10%の割合で評価する  
 遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数  
 の1/3以上の場合）は定期試験の受験資格を失う  
 私語、途中退出等、他人の迷惑や授業の風紀を損なう行為を  
 行った者は欠席もしくは減点とする

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生の概念・定義、歴史	公衆衛生学の概念、公衆衛生学がカバーする領域、公衆衛生の発展の歴史について理解する。
2	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について説明できる。
3	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について説明できる。
4	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて説明できる。
5	疫学の方法・疫学の指標	各疫学的研究法（記述疫学、コホート調査、症例対照研究、介入研究等）の手法、特徴、利点欠点を説明でき、オッズ比や相対危険度を求めることができる。
6	感染症	感染症の感染経路、免疫、アウトブレイクの種類や疫学的調査、院内感染について説明できる。
7	感染症	感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法の変遷、感染症拡大防止対策として、新感染症及び学校安全衛生法に基づく感染者の隔離について説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	予防・健康増進・生活習慣病対策	疾病予防の段階（一次～三次予防）、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標（感度、特異度、カットオフ値）、健康づくりの変遷について説明できる。
10	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について説明できる。
11	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について説明できる。
12	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法について説明できる。
13	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法について説明できる。
14	主要疾患の疫学と予防対策（その他）	メタボリックシンドローム、小児疾患、精神疾患、歯科疾患等の発生状況やリスク要因について説明できる。
15	医療制度、保険の種類、医療施設	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、社会保障、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療保険給付制度について説明できる。

科目名	保健統計学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

統計学あるいは統計的視点は、非常に広範な領域で不可欠のものとなっており、当然看護・保健分野もその例外ではない。

統計学は、大きく「記述統計学」と「推測統計学」の2つに分けることができる。この授業ではそれぞれのごく基礎の部分、とりわけ記述統計学の基礎に重点を置き、講義だけでなくコンピュータを用いた演習も併用する。なお、受講生の状態により、内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業は、保健分野におけるデータの基本的な分析で利用される初歩的な統計的手法や考え方について学ぶ。そのことを通して、

- (1) 記述統計学の基礎的な内容に基づき、データの特徴を要約統計量で記述できるようになる
- (2) 推測統計学の基礎的な内容に基づき、標本データから母集団全体の簡単な特徴を推測できるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポート（70%）および筆記試験（30%）を主として評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用、授業に不必要な作業など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。

《参考文献》

必要に応じて、適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの内容を十分に理解し、課題を完成させていることを前提に行われる。

万一授業を欠席する場合は、次回授業までに授業内容を十分確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

ひとこと：統計もコンピュータもすぐに理解できなくても、粘り強くせめて卒業するまで使い続けてください。そうするうちに慣れも手伝って次第に使えるようになってくるはずですよ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と評価方法の決定（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	表計算ソフトの基礎（1）	表計算ソフトの簡単な復習（1）
3	表計算ソフトの基礎（2）	表計算ソフトの簡単な復習（2）
4	統計データについて	統計データの種類と体系、統計データの見方
5	データの可視化（1）	データの分布の分析（度数分布表）
6	データの可視化（2）	データの分布の分析（ヒストグラム、集中や不均衡）
7	データの要約（1）	代表値とは 代表値を用いて要約する
8	データの要約（2）	いくつかの代表値とその特性（統計データの種類と代表値）
9	データの要約（3）	いくつかの散布度とその特性
10	確率と分布	確率とは 確率分布とは
11	正規分布（1）	正規分布の重要性と中心極限定理
12	正規分布（2）	正規分布を用いた推定
13	正規分布（3）	正規分布を用いた検定（2つの仮説と統計的検定）
14	2次元データ	データ間の関係を可視化と分析（2次元データの可視化）
15	まとめ	実際に用いられるいくつかの統計 これまでの成果確認

科目名	薬理学				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

多くの疾患の治療に対し薬物治療は中心的な役割を担っている。臨床の場での患者のケアや健康指導に際しては、医薬品の薬理学的知識は必要不可欠となる。本講義では、薬理作用、副作用、薬物動態などを総論的に理解したのち、感染症や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に用いられる薬物について、作用のしくみ、特徴、注意すべき点などを各論的に学習し、看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的知識の習得する。

《授業の到達目標》

医薬品の適用方法や剤形などに関連付けて薬物の体内動態や医薬品の有効性と安全性の考え方などが概説できる。

各種疾患に用いられる薬物を系統的に種別できるとともに、主な薬物の名称と薬効機序などが概説できる。

薬物の副作用、使用方法、使用上の注意などを理解し、患者への対応を主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）

授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上になったものには単位を与えません。

《テキスト》

『薬理学 - 疾病のなりたちと回復の促進 2』 大鹿 英世、吉岡 充弘著、医学書院

《参考文献》

『薬理学』 鈴木正彦著/医学芸術社  
 『やさしい薬理のメカニズム - 薬のはたらきを知る』 中原 保裕著/学習研究社  
 『クスリのしくみ事典』野口實、岡島重孝 著/日本実業出版社  
 『くすりの地図帳』伊賀立二、小瀧一、澤田康文 監修/講談社

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実にし講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》

能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬物の作用と薬物治療	薬物治療の目的、薬物の作用・副作用のしくみ、薬物の投与経路など
2	薬物の体内動態と効果	薬物の体内動態、薬物耐性、薬物依存、薬効に対する影響因子など
3	有害作用と薬物の管理	薬物のもつ有益性と有害性、薬物管理の方法、新薬開発における薬効評価法など
4	感染症治療薬	感染症治療における基礎事項、抗菌薬各論、感染症治療の問題点など
5	抗がん薬	がん治療における問題点、抗がん薬の種類と作用のしくみなど
6	免疫治療薬	免疫反応のしくみ、免疫抑制薬、免疫増強薬、予防接種薬など
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬など
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2）	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
9	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬など
10	中枢神経に作用する薬（1）	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬など
11	中枢神経に作用する薬（2）	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮痛薬など
12	物質代謝に作用する薬	ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン剤など
13	心臓・血管に作用する薬（1）	抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など
14	心臓・血管に作用する薬（2）	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物など
15	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去たん薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学 5(内科系)				
担当者氏名	オムニバス				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

ある疾病を持った患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にとってどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。病態生理を学ぶことで、損なわれた機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り治療や援助にどうつなげるか考える根拠を知ることができる。

《授業の到達目標》

1. 解剖・生理学で学んだ正常な体が異常をきたした状態について理解できる。
2. このときに、どのような症状・所見が現れるのか、それはどのような仕組みで起こるのか理解できる。
3. さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として習得できる。
4. 患者へ援助を行う際の根拠とすることができる。

《成績評価の方法》

レポートあるいは筆記試験で成績評価を行う。

《テキスト》

系統看護学講座：成人看護学（4.血液・造血器、6：内分泌・代謝、11:アレルギー膠原病・感染症、）医学書院

《参考文献》

コアテキスト2-4 疾病の成り立ちと回復の促進 総論、疾病各論1.2 医学書院  
 病態生理1、症候編 臨床看護セレクション01、金井弘一編、へるす出版  
 内科学 コメディカルのための専門基礎テキスト、北村論編、中外医学社

《授業時間外学習》

テキストの予習を行い、さまざまな疾患について理解しておくこと、レポートを作成し、期限内に提出すること。

《備考》

1期の授業はオムニバス形式で行う。お茶と水の摂取のみ許可する。区別に許可した場合を除き、講義中の飲食（ガム、飴を含む）並びに携帯電話の使用を禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内科学総論(1)	
2	内科学総論(2)	
3	腎・尿路疾患(透析含む) 1	総論：腎臓病の概要、腎臓の位置、腎エコー、腎の構造、ネフロン、腎臓の働き、林蔵病の症状
4	腎・尿路疾患(透析含む) 2	腎臓が腎臓病の原因に腎臓を治療液検査の見つけ方、血圧と腎機能低下速度の関係、
5	腎・尿路疾患(透析含む) 3	各論：末期腎不全の治療、血液透析、腹膜透析、腹膜透析の食事療法、腎移植、腎移植後の生着率、末期腎不全治療法の比較、ライフスタイルにあわせた治療選択
6	膠原病・リウマチ性疾患1	自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、検査治療、疾患の理解
7	膠原病・リウマチ性疾患2	自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、検査治療、疾患の理解
8	内分泌疾患1	内分泌・代謝器官の構造と機能、内分泌・代謝のしくみとその異常、検査、疾患の理解
9	内分泌疾患2	内分泌疾患：視床下部・下垂体前葉系疾患、視床下部・下垂体後葉疾患、恒常性疾患
10	内分泌疾患3	代謝疾患：糖尿病、脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム
11	感染性疾患	感染症とは、感染が成立する条件、感染症の病態生理、症状
12	感染性疾患	感染症の診断、感染症の治療、疾患理解
13	血液・造血器疾患	血液の生理と造血のしくみ、血液の働きとその異常、検査と症候
14	血液・造血器疾患	疾患と治療の理解：赤血球の異常、白血球の異常、造血器腫瘍、出血性疾患
15	アレルギー疾患	免疫による防御の正常性を確保するしくみ、免疫による防御の正常性の破綻、免疫による防御が強すぎる場合

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学 6(内科系)				
担当者氏名	オムニバス				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

ある疾病を持った患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にとってどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。病態生理を学ぶことで、損なわれた機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り治療や援助にどうつなげるか考える根拠を知ることができる。

《授業の到達目標》

1. 解剖・生理学で学んだ正常な体が異常をきたした状態について理解できる。
2. このときに、どのような症状・所見が現れるのか、それはどのような仕組みで起こるのか理解できる。
3. さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として習得できる。
4. 患者へ援助を行う際の根拠とすることができる。

《成績評価の方法》

レポートあるいは筆記試験で成績評価を行う。  
系統別に授業終了時、テストがあります。

《テキスト》

系統看護学講座：成人看護学（2：呼吸器、3：循環器、5：消化器、7：脳・神経、）医学書院

《参考文献》

コアテキスト2-4 疾病の成り立ちと回復の促進 総論、疾病各論1.2 医学書院  
病態生理1、症候編 臨床看護セレクション01、金井弘一編、へるす出版  
内科学 コメディカルのための専門基礎テキスト、北村諭編、中外医学社

《授業時間外学習》

テキストの予習を行い、さまざまな疾患について理解しておくこと、レポートを作成し、期限内に提出すること。  
指定されたテキストを授業中持参すること。

《備考》

1期の授業はオムニバス形式で行う。お茶と水の摂取のみ許可する。区別に許可した場合を除き、講義中の飲食（ガム、飴を含む）並びに携帯電話の使用を禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	病理総論	正常と病気の状態、循環障害、変性、炎症、感染症
2	病理総論	腫瘍、先天異常と遺伝子異常、変形と・圧迫による障害、老化と死
3	呼吸器	呼吸器系の構造と機能、呼吸のしくみとその異常（病態生理）、
4	呼吸器	検査・診断と治療・処置、疾患の理解（気管支肺炎、間質性肺炎）
5	呼吸器	疾患の理解（肺がん、自然気胸、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患（COPD）
6	循環器	循環器の構造と機能、循環のしくみとその異常（病態生理）
7	循環器	検査と治療・処置
8	循環器	疾患の理解（狭心症・心筋梗塞、不整脈、心不全、ショック）
9	消化器（食道・胃・腸）	消化器の構造と機能、消化・吸収のしくみとその異常（病態生理）、検査・治療と診断、
10	消化器（食道・胃・腸）	疾患の理解（食道静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、腸閉塞、クローン病）
11	消化器（肝臓・膵臓）	消化器の構造と機能、消化・吸収のしくみとその異常（病態生理）、
12	消化器（肝臓・膵臓）	疾患の理解（肝炎、肝硬変、肝不全、肝がん、胆石症、膵炎、
13	脳神経	脳神経系の構造と機能、脳・神経の働きとその異常（病態生理）、
14	脳神経	検査・診断治療・処置、疾患の理解（脳腫瘍、東部外傷）
15	脳神経	疾患の理解（脳血管障害＜くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作）

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学（外科系）				
担当者氏名	横山 伸二・織戸 行				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

ある疾病を持った患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の体にどのような異常が生じているのか、その異常が患者にどのような苦痛や障害を起こしているのか理解しなければならない。臨床病理病態学を学ぶことで、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいか知り、治療や援助にどうつなげるのかを考える根拠を知ることができる。

《授業の到達目標》

1. 外科的治療を行う各疾患に必要な基礎知識、病態、検査、診断、治療についてポイントを述べるができる。
2. 整形外科疾患については、器官の機能上の特徴と疾患によって生じる機能障害、運動障害について述べるができる。
3. リハビリテーションの基礎的知識について述べるができる。

《成績評価の方法》

筆記試験：中間試験と最終テスト2回実施100%評価

《テキスト》

系統看護学講座：臨床外科看護総論、医学書院  
 系統看護学講座：臨床外科看護各論、医学書院  
 系統看護学講座：運動器 成人看護学10 医学書院

《参考文献》

臨床病理病態学 メディカ出版

《授業時間外学習》

上記テキストの学習予定ページを前日までに予め読むこと

《備考》

最も大切なことは授業中の集中力です。講義室でのルールを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	外科患者の病態の基礎	手術信州と生体反応、炎症、感染症、腫瘍、外傷とショック
2	外科的治療を支える分野	麻酔法、呼吸管理、体液・栄養管理、輸血管理
3	肺および胸部	肺がん、自然気胸、（基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療）
4	肺および胸部	乳がん（基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療）
5	消化器及び腹部	胃癌（基礎知識、疫学病態、検査、診断、治療）
6	腸・腹膜疾患	虫垂炎、大腸がん、急性腹症（基礎知識、外科領域の検査、診断、治療）
7	腸・腹膜疾患	イレウス、直腸肛門疾患、（基礎知識、外科領域の検査、診断、治療）
8	肝・肝外胆道系	肝がん、胆石（基礎知識、外科領域の検査、診断、治療）
9	肝・肝外胆道系	膵臓がん（基礎知識、外科領域の検査、診断、治療）
10	まとめ	まとめ・中間試験
11	運動器の構造と機能	症状と病態生理、診断、検査。治療・処置
12	疾患理解	骨折（基礎知識、疫学病態、検査、診断、治療含む）
13	疾患理解	間接リウマチ、変形性膝関節症（基礎知識、疫学病態、検査、診断、治療含む）
14	疾患理解	脊椎疾患（脊柱側彎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症（基礎的知識、検査、診断、治療）
15	リハビリテーション医学	定義、リハビリテーション医の役割、リハビリテーション看護師の専門性、チーム他

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学（周産期・小児科系）				
担当者氏名	米谷 昌彦・若井 和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

この領域では、小児における成長発達の生理的特徴を十分に理解したうえで、疾病の病理病態について学ぶことが求められる。出生から成人に至るまでのさまざまな発達段階における主要な疾患の病態と治療やケアについて学び、小児看護の実践に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。  
妊娠・分娩・産褥各期の母体の生理的变化と胎児の発育状態を学び、正常からの逸脱（異常）やリスクについて考える。

《授業の到達目標》

1. 小児の成長・発達について理解できる。
2. 主要な小児疾患の病態生理を理解し、それらの治療やケアについて説明できる。
3. 正常な妊娠・分娩・産褥経過および胎児の発育状態について説明することができる。
4. ハイリスク妊娠、分娩時の異常、産褥の異常について学び、予防するための看護を考えることができる。

《成績評価の方法》

学期末の筆記試験（小児科系）80%  
レポート課題などの提出物や小テスト 20%  
・筆記試験（周産期：50%）で評価する。  
・各担当者が実施する講義回数の3分の1を欠席した場合は、単位認定しない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊娠の成立	生殖器系の形態機能、不妊治療と看護、妊娠の成立
2	胎児の発育と妊娠期における母体の生理	胎児の発育と胎盤・羊水の生理、母体の生理的变化
3	ハイリスク妊娠と検査および治療	ハイリスク妊娠とは、妊娠期の感染症、妊娠中の合併症、多胎妊娠、子宮外妊娠、胎児胎盤機能検査、NST
4	分娩経過	分娩の3要素、分娩経過、分娩機転、胎児心拍モニタリング
5	分娩の異常と産科処置と手術	産道・娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常、分娩時損傷、分娩時異常出血、産科的処置、吸引分娩、帝王切開術、麻酔方法
6	産褥経過（正常・異常	産褥期の身体的変化、産褥の異常（子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓症、精神障害）
7	まとめ	妊娠・分娩・産褥経過の要点整理
8	新生児の生理と疾患	新生児の出生後の生理的適応とその障害について学ぶ。
9	先天異常とそのケア	主な染色体異常症とその他の先天異常症についての概略を学ぶ。
10	免疫疾患・アレルギー疾患	気管支喘息、食物アレルギーなどの小児によく見られるアレルギー疾患と免疫疾患について学ぶ。
11	感染症	小児感染症の特徴と代表的疾患について症状・治療・予防について学ぶ。
12	呼吸器・循環器疾患	小児期によく見られる呼吸器疾患と心疾患、川崎病について学ぶ。
13	血液・腎・泌尿器疾患	貧血、出血性疾患、ネフローゼ症候群や腎炎など腎疾患について学ぶ。
14	神経筋疾患・発達障害	てんかんをはじめとするけいれん性疾患、脳性麻痺、筋ジストロフィーなどの神経筋疾患、小児に特有の発達障害などについて学ぶ。
15	小児の事故・救急疾患	小児の事故・救急疾患について、それらの特徴や対応の仕方について学ぶ。

《テキスト》

- 『系統看護学講座 専門分野II 小児看護学2 第12版』2011
- 『系統看護学講座 専門分野 母性看護各論』  
注)以下、参考図書欄、もテキストとして使用

《参考文献》

- 『系統看護学講座専門分野 小児臨床看護各論』  
以上、～ は医学書院
- 『ナースが役立つ30 母性看護実践の基本』メヂカ出版  
参考図書  
看護のための最新医学講座 14 新生児・小児科疾患（第2版）  
2005 中山書店

《授業時間外学習》

各講義の前にその日の講義内容についてあらかじめ教科書を読んで予習しておくこと。  
講義の際には可能な限りプリント配布を行うが、講義中に説明できなかった部分については読んで復習しておくこと。

《備考》

講義中にまたは予習、復習時に理解できないことがあれば、必ず質問して疑問を残さないようにしてください。配布資料の丸暗記ではなく、テキストを必ず読むことと、

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論（生活技術援助）				
担当者氏名	小林 廣美・道廣 睦子・森崎 由佳・竹内 美樹				
授業方法	講演	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

看護の対象者に看護を提供するために必要な看護援助技術と健康的な日常生活を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。看護実践に必要な基本的看護技術、特に生活援助について学習していきます。

《テキスト》

系統的看護学基礎講座 基礎看護学2・3「基礎看護技術」有田清子「基礎看護技術」藤崎郁

《参考文献》

必要時その都度提示する

《授業の到達目標》

1. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な知識がわかる。
2. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な技術が実施できる。
3. 看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

《授業時間外学習》

1. 授業計画にそって教科書を読み、提示図書による事前学習をする。
2. 授業終了後、必ず復習をして理解を深める。
3. 演習後は練習を繰り返し技術の習得に努める。

《成績評価の方法》

講義や演習への出席、グループにおける討議の参加の程度や、試験、レポートなどによって総合的に評価する。試験80%、レポート10%、演習への能動的態度10%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境 ポディメカニクス	環境の概念を理解することができる。ポディメカニクスの目的を理解することができる。
2	ベットメイキング（講義・演習）	クローズドベッド、オープンベッド技術の習得ができる。
3	バイタルサイン（講義）	バイタルサインのメカニズムから理解することができる。
4	バイタルサイン（講義・演習）	バイタルサインの測定方法を原理や根拠から理解することができる。
5	バイタルサイン（演習）	体温・脈拍・血圧・呼吸を正確に測定することができる。
6	安全を守る技術（講義・演習）	感染防止、手洗い、ガウンテクニックの目的・方法を説明することができる。
7	安全を守る技術（講義・演習）	無菌操作についての原理・方法を理解することができる。
8	中間まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。
9	身体の移動に関する援助技術（講義・演習）	体位変換・車椅子への移乗や移送の目的・方法を理解し実施することができる。
10	栄養や食事に関する援助技術（講義・演習）	食事の意義がわかる。基本的な食事の援助方法を実施することができる。
11	身体の清潔と衣生活援助技術（講義）	身体を清潔に保つことの意義・目的を理解することができる。
12	身体の清潔と衣生活援助技術（講義・演習）	全身清拭・足浴の目的を理解して実施することができる。
13	身体の清潔と衣生活援助技術（講義・演習）	洗髪・口腔ケアの目的を理解して実施することができる。
14	排泄に関する援助技術（講義・演習）	尿器・便器を使用して、排泄援助をすることができる。
15	援助技術総まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。



《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論（診療技術援助）				
担当者氏名	道廣 睦子・小林 廣美・竹内 美樹・森崎 由佳				
授業方法	講演	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけ、安全かつ正確に与薬および検査が提供できる能力を身につける。特に、対象者の身体侵襲を伴う技術について、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。さらに、臨床判断を行うとともに看護を展開するための技術について修得する。

《授業の到達目標》

1. 検査・治療における看護技術について、目的、原理・原則、安全・安楽・自立、個性への配慮など基本的な知識を説明できる。
2. 検査・治療における看護技術の基本的な技術を修得できる。
3. 看護技術についてエビデンスを考慮しクリティカルに思考できる。
4. 看護過程展開の技術を修得できる。

《成績評価の方法》

定期試験（60％） 実技試験（20％） 演習での学習態度・意欲（10％） レポート課題（10％）

《テキスト》

系統看護学講座専門分野 基礎看護技術：医学書院 茂野香おる 系統看護学講座専門分野 基礎看護技術：医学書院 藤崎 郁

《参考文献》

写真でわかる実習で使える看護技術：インターメディカ 吉田みつ子 考える基礎看護技術 看護技術の実際：ヌーヴェルヒロカワ 坪井良子 なぜ？わかる看護技術LESSON：学研 大岡良枝  
他講義の中で提示

《授業時間外学習》

- (1) 事前にテキストの講義内容部分を予習しておくこと
- (2) 予習時には、既習学習の形態機能論や臨床病理病態学、薬理学 など講義に必要な知識を復習しておくこと
- (3) 講義・演習・その後の課題レポートと学習を統合できるよう、復習を必ず行うこと

《備考》

実習室は病室と同じと考え、服装など整えた上で清潔感があるように入室してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	検査時の技術（講義）	検査に伴う看護の方法
2	検査時の技術（講義・演習）	検査に伴う看護の方法（採血）
3	与薬の技術（講義）	与薬の基礎知識 看護の方法（経口与薬・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬）
4	与薬の技術（講義）	看護の方法（筋肉内注射・皮下注射）
5	与薬の技術（演習）	看護の方法（筋肉内注射・皮下注射）
6	与薬の技術（講義・演習）	看護の方法（静脈内注射）
7	排泄援助、呼吸・循環を整える技術（講義）	導尿、浣腸、経管栄養、酸素吸入
8	排泄援助技術（演習）	導尿、浣腸
9	呼吸・循環を整える技術（講義・演習）	ネブライザ-、吸引、酸素吸入、経管栄養
10	創傷管理技術（講義・演習）	包帯法
11	学習のまとめ	学習内容の確認
12	看護を展開する技術（講義・演習）	看護過程・情報収集・アセスメント
13	看護を展開する技術（講義・演習）	情報の統合と問題抽出
14	看護を展開する技術（講義・演習）	アウトカム設定（看護目標）と計画
15	看護を展開する技術（講義）	実施・評価

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習				
担当者氏名	道廣 睦子・小林 廣美・竹内 美樹・森崎 由佳				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力				

《授業の概要》

基礎看護学実習を踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活援助ができる。また、看護過程の展開を通じて対象者に応じた援助的關係を形成し、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。

《授業の到達目標》

1. 対象者とのかかわりを通じて、人間關係の成立・発展を図る。
2. 対象者に応じた看護過程（問題解決過程）を展開する。
3. 看護学生として倫理的に行動する。
4. 自己の看護実践を言語化し評価することができる。

《成績評価の方法》

実習目標達成度（80%） 学習態度（10%） レポート（10%）  
 基礎看護学実習 評価表を用いて評価する。

《テキスト》

既習科目で使用したテキスト・参考文献および配布資料

《参考文献》

看護のための病態ハンドブック：医学芸術社 山田 幸宏  
 疾患別看護過程の展開：学研 山口 瑞穂子  
 看護に役立つ検査値の読み方・考え方：総合医学社 西崎 統  
 他随時紹介

《授業時間外学習》

1. 事前に、看護過程の展開について復習し理解しておくこと
2. 事前に、日常生活援助の実施が安全に行えるよう看護技術の復習を行い実技の練習も行っておくこと
3. 実習中には、既習の学習内容を使用し、問題解決に向けた看護の展開が行えるよう記録すること

《備考》

患者様に直接接することができる機会です。予防接種を行うなど体調管理をしておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		内容の詳細は実習要項で提示する
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	成人看護学概論				
担当者氏名	白神 佐知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

成人期は人生で最も長く、心身の機能の成熟期でまた社会的役割の大きい時期である。成人期にある人々は生産活動に従事する中で社会的責任や様々なストレスを抱えつつ生活を送っている。こうした成人期にある人の健康と、健康障害の特徴、健康障害を起こす誘因を理解し、健康上の問題の予防と回復に向けての看護援助を考えていく。また、成人を対象とした保健医療の動向と対策、保健活動を理解する。

《授業の到達目標》

- (1)成人期にある対象のライフサイクルの特徴が理解できる。
- (2)成人期にある人の健康と特異な健康問題の特徴が理解できる。
- (3)健康保持・増進・疾病の予防にむけた援助内容が理解できる。
- (4)成人看護に有用な概念を理解する。

《成績評価の方法》

(1)(2)(3)については筆記試験とレポート(提出遅れは減点する)で評価する。(4)についてはレポートで評価する。評価割合は筆記試験60%、レポート40%、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	成人期にある人の特徴と理解	成人であること、ライフサイクルにおける成長、発達からみた成人を理解する。また身体機能の特徴と看護が説明できる。
2	成人期にある人の特徴と理解	労働者、生活者としての成人を理解し、現代の生活状況が説明できる。また成人の生活を理解する視点や方法を理解する。
3	成人に特有な健康問題の特徴	成人である大人の生活状況から健康問題を考える。また健康問題の現状や課題を学習するために、成人期における保健の動向を説明できる。
4	保健、医療、福祉システム	成人期の人々の生活を支え、健康を守るためのシステムの概要、連携が説明できる。
5	保健、医療、福祉システム	成人期の人々の生活を支え、健康を守るためのシステムの概要、連携が説明できる。
6	生活行動からみた健康問題	就業、労働形態の変化がもたらす職業に関する健康問題を取り上げ、発生状況やその課題を理解する。
7	生活行動からみた健康問題	生活習慣に関する健康問題を取り上げ、発生状況や課題を理解する。
8	生活行動からみた健康問題	身体問題やストレスに関する健康問題を取り上げ、発生状況や課題を理解する。
9	成人期の健康生活への基本的看護	健康行動を促進する看護や危機的状況への対処を促す看護が説明できる。
10	成人期の健康生活への基本的看護	成人期にある人々の健康生活を育む看護の要点、健康行動を促進する支援や活動の場が説明できる。
11	成人看護に有用な概念	ストレスコーピング、セルフケア論、病みの軌跡、自己効力の理論がどのような状況で使用されるか理解できる。
12	成人看護に有用な概念	理論についてのグループワーク
13	成人看護に有用な概念	理論についてのグループワーク
14	成人看護に有用な概念	理論についての発表
15	看護における倫理	看護倫理、医療における倫理的問題をとりあげ、倫理的アプローチを考える。

《テキスト》

- ・系統看護学講座 成人看護学概論, 小松弘子, 医学書院, 2010
- ・国民衛生の動向2011/2012, 厚生労働統計協会

《参考文献》

- ・成人看護学概論, 大西和子・岡部聡子編, ヌーヴェルヒロカワ, 2011

《授業時間外学習》

自己学習ノートを作成し、参考書等を用いて单元ごとに復習をすること。また次回の授業範囲の教科書を読んで予習をしておくこと。

《備考》

成人看護学の基礎となる授業であり、まず成人である自分を理解することが重要です。成人期の健康問題に関心を持ち、自主的、積極的に学んでください。

科目名	老年看護学概論				
担当者氏名	齋藤 智江				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

老年期にある患者について理解を深め、高齢社会へ適応できるだけの知識を得て、対応できる基礎的能力を培うことができる。

加齢変化・高齢者のQOLなどを考えた看護展開ができるための土台となる知識を得て、老年看護の専門性を理解できるようにする。

老年看護における倫理的責務について考えることができる。

《授業の到達目標》

老年看護の概念、加齢現象、高齢者のQOL，老年看護の専門性について理解できる。

老年看護における看護職者の倫理的責務について考えることができる。

高齢社会における現状と課題が理解できる。

高齢者に対する保健・福祉・医療について理解できる。

《成績評価の方法》

グループワークでの参加態度や内容20%

課題提出20%

筆記試験60%

《テキスト》

「老年看護学 概論と看護の実践」、「老年看護技術」ヌーベルヒロカワ、「国民衛生の動向」厚生統計協会

《参考文献》

「系統看護学講座 老年看護学」、「系統看護学講座 老年看護 病態疾病論」医学書院、「厚生労働白書」厚生労働省等

《授業時間外学習》

課題をグループワークにてまとめる

選択課題図書を提示するのでそれを読んだレポート提出

《備考》

「老い」について色々な角度から考えてもらいます。周囲の高齢者の方々との交流を心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学序説	老年看護の概念・高齢者のQOL・グループ学習の課題と計画
2	高齢者の理解	老化とは（身体的・生理的・心理・社会的・スピリチュアル的・発達段階の側面から）
3	高齢者の理解	老化とは（身体的・生理的・心理・社会的・スピリチュアル的・発達段階の側面から）
4	高齢社会への対応	人口の高齢化現象とその課題、高齢者保健・福祉政策の動向
5	高齢者疑似体験	高齢者疑似体験
6	高齢者看護に用いられる理論	ニード論・セルフケア理論 1.2グループ発表
7	高齢者看護に用いられる理論	危機と適応・役割理論 3.4グループ発表
8	高齢者看護に用いられる理論	自己効力感・エンパワーメント 5.6グループ発表
9	高齢者看護に用いられる理論	コンプライアンスとアドヒアランス・自尊感情 7.8グループ発表
10	老年看護に関するキーワード	高齢者の尊厳・意思決定・権利擁護 9グループ発表
11	老年看護に関するキーワード	高齢者の虐待・身体拘束について 10グループ発表
12	老年看護に関するキーワード	高齢者の生きがい感・サクセスフルエイジング・高齢者の就労・雇用 11.12グループ発表
13	老年看護に関するキーワード	高齢者によく見られる身体症状（肺炎・熱中症・脱水・廃用症候群） 13.14グループ発表
14	老年看護に関するキーワード	高齢者の転倒・交通事故 グループ15発表
15	まとめ	まとめ・筆記試験

科目名	母性看護学概論				
担当者氏名	若井 和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

女性のライフステージにおける社会的・身体的・心理的特性を学ぶことにより、母性看護の必要性と意義について考える。さらに母性看護の役割をふまえ、保健医療福祉における看護の実践者として、必要な基礎的知識を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 女性のライフステージおよび新生児の生理的变化について学び、対象の各期における必要な看護を説明することができる。
2. 女性がおかれている社会的状況，生活・家族に関する事象を多角的に考察することができる。

《成績評価の方法》

定期試験（100%）で評価する。  
講義回数の3分の1を欠席した場合は、単位認定しない。

《テキスト》

- ・『ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本』 メディカ出版
- ・『系統看護学講座専門分野 母性看護学概論』医学書院

《参考文献》

- ・『新体系看護学32 母性看護学概論・母性保健』新道幸恵他メヂカルフレンド
- ・『女性のライフサイクルとナーシング』ヌーヴェルヒロカワ
- ・『ウイメンズヘルスナーシング概論』ヌーヴェルヒロカワ
- ・『国民衛生の動向』

《授業時間外学習》

- ・受講後、必ずテキストを読んで復習すること。
- ・国家試験問題集を活用して自己の学習成果を確認するとともに、誤って回答した箇所についてテキストを開いて調べ、理解を深めること。

《備考》

配布資料の丸暗記ではなく、テキストを必ず読むことと、国家試験問題の誤りを学習し、ノートに整理していくことが確実な理解につながる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	母性看護の概念	母性看護の概念について学び、母性看護で用いられる理論について説明することができる。
2	女性の健康とヘルスプロモーション	女性の健康を決定する要因を知り、女性のライフステージにおけるヘルスプロモーションの意義を踏まえた具体的活動を考えることができる。
3	女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ	女性を取り巻く社会環境，人口動態，母子保健を学び、リプロダクティブヘルス/ライツについて説明することができる。
4	母性看護における倫理的問題	母性看護職者の法的責任と倫理について学び、自己の倫理観を深めると共に、対象の意思決定をサポートするための倫理的看護活動を考えることができる。
5	母性看護職者の法的責任	母性看護における事故事例から学び、安全対策の必要性を説明することができる。
6	女性の健康と遺伝	ヒトの発生，性周期，ライフサイクル別の遺伝の現状について学び、リプロダクティブヘルス/ライツに基づいた母性看護の役割を考えることができる。
7	女性の健康とセクシュアリティ	性の価値観，あり方の多様性を理解し、対象の性の健康リスクに対するアセスメントおよび問題解決のための具体的な支援を考えることができる。
8	妊娠期にある女性の健康と課題	妊娠初期～中期の妊娠経過を学び、妊婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
9	妊娠期にある女性の健康と課題	妊娠中期～後期の妊娠経過，起こりやすい異常について学び、妊婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
10	分娩期にある女性の健康と課題	分娩第 期の経過，起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
11	分娩期にある女性の健康と課題	分娩第 ～ 期の経過，起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
12	産褥期にある女性の健康と課題	産褥期の進行性変化・退行性変化，起こりやすい異常について学び、褥婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
13	新生児の健康と課題	新生児の生理的变化，起こりやすい異常について学び、新生児の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
14	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児	妊婦・産婦・褥婦・新生児のハイリスクについて学び、異常を予防するための看護および異常が起こった場合の看護を説明することができる。
15	虐待，DVを受けた子どもと女性の健康と課題	子どもへの虐待，DVの現状と社会の取り組みを知り，予防の必要性について考えることができる。

科目名	小児看護学概論				
担当者氏名	川上 あずさ				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

小児看護は、小児と家族の発達段階を理解し、小児と家族がもっている力が最大限に発揮できるよう援助を行っていくことが大切である。小児看護学概論では、そのための基礎知識として、小児を援助するために必要な理論、倫理、小児の発達、家族の発達、社会制度などを学ぶ。

《テキスト》

小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

《参考文献》

小児看護学概論 南江堂  
看護のための人間発達学 医学書院

《授業の到達目標》

小児と家族の発達段階を理解し、看護を実践するための基礎的知識を習得することを目標とする。小児とは、子どもの権利、小児看護における倫理について理解する。小児にとっての家族、家族の発達と課題について理解する。小児各期の成長・発達と看護について理解する。小児をとりまく社会の状況について理解する。

《授業時間外学習》

授業計画で示された内容について、予習・復習をして臨むことを期待する。

《成績評価の方法》

定期試験90%、レポート等の提出物10%で評価する。

《備考》

日常で出会う子どもや、子どもをとりまく環境、情報についての関心を高めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	小児看護とは	子どもとは、小児看護の目標・特徴、小児看護の変遷や課題について理解する。
2	子どもの権利と小児看護における倫理	子どもの権利、小児看護における倫理について、事例を活用して具体的に学ぶ。
3	小児看護で用いられる理論	小児看護で用いられる基本的な理論について理解する。
4	子どもと家族	子どもと家族の発達と課題について理解する。
5	子どもの成長・発達の原則	子どもの発達の原則、発達の評価の方法について理解する。
6	乳児期の子どもの成長・発達と看護 1	乳児期の子どもの成長・発達と看護について、身体的変化をとおして具体的に理解する。
7	乳児期の子どもの成長・発達と看護 2	乳児期の子どもの成長・発達と看護について、DVD等を活用し子どもの活動をとおして具体的に理解する。
8	乳児期の子どもの成長・発達と看護 3	乳児期の子どもの成長・発達と看護について、離乳食をとおして具体的に理解する。
9	幼児期の子どもの成長・発達と看護 1	幼児期の子どもの成長・発達と看護について、遊びをとおして具体的に理解する。
10	幼児期の子どもの成長・発達と看護 2	幼児期の子どもの成長・発達と看護について、基本的生活習慣の獲得をとおして具体的に理解する。
11	幼児期の子どもの成長・発達と看護 3	幼児期の子どもの成長・発達と看護について、基本的生活習慣の獲得をとおして具体的に理解する。
12	学童期の子どもの成長・発達と看護	学童期の子どもの成長・発達と看護について、学童期におこりやすい課題をとおして理解する。
13	思春期の子どもの成長・発達と看護	思春期の子どもの成長・発達と看護について、思春期におこりやすい課題をとおして理解する。
14	現代の子どもがおかれている状況や問題	現代の子どもがおかれている状況や問題について、事例や現象を活用し、具体的理解する。
15	子どもと家族の健康を支える社会制度	子どもと家族の健康を支える社会制度について、変遷をふまえ具体的に理解する。

《専門教育科目 専門実践科目 群（母性・小児看護学）》

科目名	小児看護援助論				
担当者氏名	川上 あずさ				
授業方法	講演	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

小児看護援助論では、小児看護学概論で理解した小児と家族の発達段階をふまえ、さまざまな健康の状況にある小児と家族への援助について学ぶ。小児におこりやすい症状や各健康の状況に応じた援助が根拠に基づいて実践できるよう既習の知識を活用、統合して学びを進める。また、事例を活用して援助の必要性や内容を具体的にし、演習と関連させて小児の看護技術を学ぶ。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院  
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院  
 小児看護技術 南江堂

《参考文献》

こどものフィジカルアセスメント 金原出版

《授業の到達目標》

さまざまな健康の状況にある小児と家族の看護を実践するための知識や思考過程、技術を習得できることを目標とする。

看護の必要性、援助方法の判断につながる思考過程を習得できる。小児におこりやすい症状の特徴と看護が理解できる。

健康の状況に即した小児と家族への看護が理解できる。

《授業時間外学習》

効果的な授業、演習ができるよう授業計画を参考に事前学習をして授業に臨むことを期待する。

《成績評価の方法》

定期試験70%、課題レポート・演習レポート30%で評価する。

《備考》

演習や事例検討が多くなります。学習者、援助者としての自覚をもった姿勢を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもが病気になるということ	子どもの病気の理解、病気が子どもへ与える影響について、身体、心理、生活の側面から理解する。
2	小児のフィジカルアセスメント	小児のフィジカルアセスメントについて、モデルを活用しながら演習し、技術を習得する。
3	検査や処置を受ける小児と家族の看護	検査や処置を受ける小児と家族の看護について、事例やDVDを活用し理解する。
4	症状別にみる小児の看護1	発熱、痛みのある小児とその家族への看護について事例を活用し理解する。
5	症状別にみる小児の看護2	脱水、下痢のある小児とその家族への看護について事例を活用し理解する。
6	急性期における小児と家族の看護1	急性期にある幼児期の事例をもとに、看護の必要性と援助方法の判断ができる思考過程を学ぶ。
7	急性期における小児と家族の看護2	急性期にある幼児期の事例をもとに、看護の必要性と援助方法の判断ができる思考過程を学ぶ。
8	急性期における小児と家族の看護3	事例をふまえて判断した援助方法を、演習をとおして具体的にするとともに、小児に対する看護技術を習得する。
9	慢性期における小児と家族の看護1	慢性期にある学童期の事例をもとに、看護の必要性と援助方法の判断ができる思考過程を学ぶ。
10	慢性期における小児と家族の看護2	事例をふまえて判断した援助方法を、演習をとおして具体的にするとともに、小児に対する看護技術を習得する。
11	救急における、手術を受ける、小児と家族の看護	救急における小児と家族の看護、手術を受ける小児と家族の看護について事例を活用しながら理解する。
12	障がいのある小児と家族の看護	障がいのある小児と家族の看護について、事例やDVDを活用しながら理解する。
13	在宅で療養する小児と家族の看護	在宅で療養する小児と家族の看護について、事例を活用しながら理解する。
14	終末期にある小児と家族の看護	子どもの死の理解や、終末期における小児と家族の看護について理解する。
15	小児看護のこれからの方向性	小児看護におけるこれからの方向性や課題について理解する。

科目名	精神看護学概論				
担当者氏名	加藤 知可子・南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

精神看護学の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況およびそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健康な精神発達への援助を思考するために必要な知識や概念を理解することを目的とする。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）  
 「精神看護学 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考文献》

「精神看護学ノート」第2版 武井麻子 著（医学書院）  
 「精神科医療看護の歩」宮内充著（医学書院）

《授業の到達目標》

心の健康を保持・増進するために必要な基礎知識を説明できる。精神看護学や精神医療に関連する基本的な概念を説明できる。精神看護学の役割について説明できる。精神障がい者の人権に関連する法律について説明できる。心の障がいを持つ対象者への看護に関する基本的な概念について説明できる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。
- (2) 復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は自分で資料や図書を用いて調べたり、質問する。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上の出席者を単位認定対象とする。基準の出席回数を満たさない場合、定期試験を受ける資格はない。また、特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより、授業計画や成績評価法には変更を加えることがある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、減点の上、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健・精神看護学の定義	精神保健・精神看護学の定義について基本的な概念を説明できる。
2	精神保健医療の歴史	精神保健医療の歴史について、基本的な知見を説明できる。
3	臨床における心の健康と不健康	臨床における心の健康と不健康について、基本的な概念を説明できる。
4	患者・家族のこころ	精神障がいを持つ患者・家族の背景について説明できる。
5	精神神経医学各論1 統合失調症	統合失調症に関する基本的な概念を説明できる。
6	精神神経医学各論2 感情障害	感情障害に関する基本的な概念を説明できる。
7	ライフサイクルと精神保健 危機的状況	ライフサイクルと精神保健について、危機的状況の視点から説明できる。
8	看護師のメンタルヘルス	看護師のメンタルヘルスに関する基本的な概念を説明できる。
9	精神障がい者に関する法と関連事件	精神障がいに関する法の変遷について説明できる。
10	精神神経医学各論3 神経症性障害	神経症性障害に関する基本的な概念を説明できる。
11	精神神経医学各論4 癲癇 器質性障害	癲癇や器質性障害に関する基本的な概念を説明できる。
12	精神神経医学各論5 物質障害	物質障害、パーソナリティ障害等に関する基本的な概念を説明できる。
13	精神神経医学各論6 リエゾン精神医学	リエゾン精神医学に関する基本的な概念を説明できる。
14	ストレスと危機	ストレスと危機に関する基本的な概念を説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する基本的な概念を説明できる。



科目名	在宅看護概論				
担当者氏名	新田 幸子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

講義では、何故今、在宅看護なのか。在宅看護の動向についてや在宅で社会保障制度がどのように使われているか、それに関連する法律や社会資源の活用についてなどわかりやすく伝えていきます。そして、在宅で療養する人々や病気や障害を持ちながら社会で暮らす人とその家族・生活環境を理解してほしいです。質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基礎的知識・技術・態度を考えていきます。

《授業の到達目標》

- ・ 地域の特徴とサービスの役割・特徴を述べるができる
- ・ 医療・看護の決定権は療養者・家族にあることが説明できる
- ・ 訪問看護の役割を看護活動を通して説明できる
- ・ 病院と家庭環境の違いによる工夫について説明できる
- ・ 緊急時の対応と知識、連絡方法について説明できる
- ・ 在宅看護に関連するケアシステムが説明できる
- ・ 社会資源の活用状況と効果をアセスメントできる

《成績評価の方法》

定期試験による評価（80%）  
 課題等の提出（20% 提出遅れについては、減点する）  
 レポート課題「あなたの考える・家族・」

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2012

《参考文献》

「在宅看護論」実践をことばに 杉本正子 眞船拓子 第5版  
 ヌーベルヒロカワ 2011

「国民衛生の動向」

《授業時間外学習》

在宅看護は、広く地域に暮らす生活者を対象に、あらゆる健康レベルへの看護を提供します。居住地域の地域の特徴と保健医療福祉活動とサービス（在宅支援、介護保険）の内容、訪問看護に関する法規や訪問看護師の役割と訪問看護の内容を調べておくこと。在宅看護は、家族が身近でかつ重要な部分を占めます。あなたにとっての家族とはなにかを考えておくこと。

《備考》

身近にいる高齢者はどのように生活をされているのだろうか。また、どのような社会資源があるのだろうかなど興味を持って下さい。テレビや新聞からもたくさんの情報が得られます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅看護とは 在宅看護の対象者	何故、在宅看護が注目されて来たのか？ 疾患から・障害からみた対象者 訪問看護制度の経緯からみた対象者
2	在宅看護における看護師の倫理	療養者・家族のパートナーとしての看護職のあり方 患者と家族が納得できる看護とは
3	在宅看護における看護師の倫理	在宅看護援助を提供する場面 家族介護者が発した言葉、訪問看護師の本音の言葉から考える
4	在宅療養者とその家族	システム理論を用いた家族のとらえ方
5	在宅療養者とその家族	事例を用いて家族をシステムを考える
6	在宅看護の制度	社会保障制度が在宅でどのように使われているか。憲法第25条の条文を柱に具体的に説明。国民皆保険、社会保険、医療保険制度と介護保険制度
7	介護保険制度とは	介護サービスの利用
8	介護保険制度	介護予防の実際
9	介護保険制度	介護保険制度での訪問看護制度
10	在宅看護過程の展開方法	在宅看護過程の特徴
11	在宅看護過程の展開方法	医療機関からの退院調整と訪問看護との連携について 在宅ケアにおけるケアマネジメント、他職種との連携方法
12	在宅看護過程の展開方法	要介護状態にある高齢者の事例から、365日24時間安心して生活していくためのマネジメントの過程を理解する
13	在宅看護における安全性の確保	感染防止 医療事故防止 災害時の在宅看護
14	対象者（家族も含む）の権利保障	在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源
15	まとめ	生活の場でその人らしい生活を支える看護は、広い視野をもつこと、自身を高めることが重要

科目名	地域看護学概論				
担当者氏名	杉原 トヨ子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

地域看護の基礎となる地域看護の理念と活動を学習し、地域看護に求められる基本的な考え方や理論を理解し、保健師としての基本的な視座を身につける。

《テキスト》

標準保健師講座1「地域看護学編概論」  
奥山則子・松田正巳・斎藤恵美子他著 医学書院

《参考文献》

国民衛生の動向 厚生統計協会

《授業の到達目標》

- ・生活および生活者について関心を持てるようになる
- ・地域看護学の理念について理解できる
- ・地域看護が行われる場と活動内容の概要が理解できる

《授業時間外学習》

テキストを用いて復習を行行うことで理解を深めるだけでなく、新聞やニュースなどの時事問題にも関心をもつように努める。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、出席状況・態度等（15%）、小テスト・レポート等提出物（15%）で総合評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域看護と公衆衛生看護	地域看護の特徴・理念・目的・機能、公衆衛生看護学について理解する。
2	地域看護の歴史	地域看護・公衆衛生看護の歴史について理解する
3	地域看護の理念と理論	健康の概念（プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション パートナーシップ ノーマライゼーション アドボカシー）について理解する
4	地域看護に関する法令	地域看護活動における法令を学ぶ意義とその活動根拠を理解する
5	地域看護活動の展開	地域看護活動の展開について地域診断から保健計画策定までのプロセスを理解する。
6	ライフスタイルと健康管理	生活・生活者の視点、現在社会の状況について理解する
7	地域看護活動の展開	地域看護活動の展開について理解する
8	地域の人々と健康（対象としての個人）	個人の健康について、発達段階・性・生活の視点から理解する
9	地域の人々と健康（対象としての家族）	家族の構造、家族看護理論などについて理解する
10	地域の人々と健康（対象とし集団・社会）	集団・組織の特性について理解し、ケア技術としてのグループダイナミクスについて理解する
11	地域看護活動の場	行政看護の特徴と活動、関連法規について理解する
12	地域看護活動の場	在宅看護、産業保健、学校保健の特徴と活動について理解する
13	地域看護活動の場	国際看護に関する理論、国際の特徴と活動について理解する
14	地域看護管理	地域看護管理の目的と内容について理解する
15	地域看護の展望	地域看護の現状と課題について考えることができる

科目名	学校保健概論				
担当者氏名	杉原 トヨ子				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

地域看護領域の一分野である学校分野では、教育を受ける権利を保証するため心身ともに健康な国民の育成することにより人格の完成を目指している。そのため対象である園児、児童、生徒、学生及び教職員の健康の保持増進を図るための健康管理の必要性を理解するためには、既習の看護学を体系的に概観する。そして、子どもの発達課題に応じた健康の保持増進支援に必要な職種、法規、関係機関とそれらの連携について学ぶ。

《授業の到達目標》

学校保健の理念が理解できる。  
 学校保健の目的・役割・機能が理解できる。  
 学校保健の対象である園児、児童生徒、学生及び教職員の発達段階に応じた健康管理の支援について、既習科目を踏まえて考えることができる。  
 学校保健の目的を達成するために養護教諭、他の教職員、関係職種、関係機関の役割と関連する法規について説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート課題等の提出物30%
- (2) 定期試験70%（テキスト、資料等は持ち込み不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健の理念と目的	学校保健の理念を、法的根拠の基づき理解し、学校保健の目的が説明できる。
2	学校保健の歴史と学校保健の制度とシステム	学校保健の歴史的から現在に至る学校保健の制度やシステムの変遷を学ぶことにより、学校保健に関係する人々の仕事や関連する法律が理解できる。
3	学校保健の現状	学校保健対象者の発達段階、疫学統計、学校環境等から対象者の健康管理の重要性が理解できる。
4	学校保健における健康課題	学校における健康管理から対象者の健康課題が理解でき、それぞれのニーズに応じた支援が理解できる。
5	学校保健での保健室の機能と養護教諭の職務	学校保健での健康管理の拠点である保健室の機能と健康管理の中心的役割を担う養護教諭の職務について理解する。
6	学校環境管理と学校安全の取り組み	学校保健安全法への改正の要点である、子どもを取り巻く環境の安全性について学ぶ。
7	学校保健における特別支援学校の役割	学校教育法改正により、新たな校種となった特別支援学校について学ぶ。
8	学校保健に必要な地域連携と社会資源	学校保健では地域の連携が重要であり、社会資源の活用は子ども健康管理の視点で必要であることを学ぶ。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《テキスト》

標準保健師講座3『地域看護学活動論』松田正巳他編、医学書院、2011  
 必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》

『国民衛生の動向』 厚生統計協会、2011  
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編2010  
 『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011

《授業時間外学習》

- (1) 対象者を理解するために既習科目で学んだ発達課題を理解しておくこと。
- (2) 講義終了時に「学校保健におけるこれからの課題」についてレポートを提出してまいりますので、関連図書をそれまでに読んでおいてください。

《備考》

地域看護学概論で対象範囲について理解を深めるよう心がけてください。

《専門教育科目 関連科目 群（関連）》

科目名	養護概説				
担当者氏名	杉原 トヨ子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

園児・児童・生徒・学生の心身の健康の保持増進させるために、求められる養護教諭の専門性と役割及び職務について学習する。学校保健活動には学校内外の連携が重要であることから、学校保健関係教職員の職務を理解する。その学びから、養護教諭の職務の専門性と資質の向上と園児・児童・生徒・学生の多様な問題に対して即応できるために研究的視野を培うことを目的とす。

《授業の到達目標》

園児・児童・生徒・学生の心身の健康の保持増進の必要性について理解できる。学校保健における養護教諭の専門役割及び職務について説明できる。学校での健康管理と安全管理での養護教諭の具体的活動が説明できる。学校保健における多様な問題に対応できる研究的視野を持つ。

《成績評価の方法》

- (1) レポート課題等の提出物40%
- (2) 定期試験60% (テキスト、資料等は持ち込み不可)

《テキスト》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編、東山書房、2011  
 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編、第一法規、2011  
 『別支援学校学習指導要領自立活動編 文部科学省、2011

《参考文献》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010  
 『国民衛生の動向』厚生統計協会、2011  
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編2010  
 『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011  
 『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監、東山書房、2011

《授業時間外学習》

- (1) 養護教諭の職務を理解するために既習科目を復習、予習してください。
- (2) 講義終了時に「養護教諭に必要な知識・技術・態度」についてレポートを提出してもらいますので、関連図書をそれまでに読んでおいてください(最終授業日の1週後)。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養護の概念と教育行政	学校教育での養護教諭の位置付けと学校保健分野での対象者の成長発達段階が理解できる。
2	養護教諭の職務と専門性	学校保健の養護教諭の職務の内容とその専門性が説明できる。
3	保健室経営と機能	学校保健活動の拠点である保健室経営とその特性、機能が理解できる。
4	養護教諭の実践活動過程	学校保健分野における養護活動の健康管理に必要なプロセスとその実践記録の重要性が理解できる。
5	養護実践のための技術・方法1：健康相談他	学校保健での健康管理のための健康相談のプロセスが理解できる。
6	養護実践のための技術・方法2：健康診断他	学校保健での健康管理で重要な健康診断のプロセスが理解できる。
7	養護実践のための技術・方法3：保健教育	学校保健での保健教育として必要な指導案が立案できる(最終日に提出)。
8	養護実践のための技術・方法4：安全・環境	学校保健における安全の考え方、環境のあり方そして、そのために必要な関係者との連携、組織の必要性について理解できる。
9	健康課題に応じた養護活動1：内科的課題	学校保健分野における内科的訴えを持つ対象者への養護教諭の職責と役割が理解できる。
10	健康課題に応じた養護活動2：外科的課題	学校保健分野における外科的訴えを持つ対象者への養護教諭の職責と役割が理解できる。
11	健康課題に応じた養護活動3：精神的課題	学校保健分野における精神的訴えを持つ対象者への養護教諭の職責と役割が理解できる。
12	校種の特性に応じた養護活動の展開1：一般校	校種(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学)の特性に応じた養護活動が理解できる。
13	校種の特性に応じた養護活動の展開2：一般校	学校の規模、地域の特性に応じた養護活動の違いが理解できる。
14	特別支援学校での養護活動の展開	特別支援学校の特性に応じた養護活動が理解できる。
15	養護教諭と研究	学校保健分野における多様な問題に対応するために研究的視野が所要であることが理解できる。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。

自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。

教育効果の検証（評価）ができる。

教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

授業実施回数分の3分の1以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》

配布プリントを使用する。

《参考文献》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
授業中の課題について参考文献等に目を通して、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。  
「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。 教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念、
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示、
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ、
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論（道徳、特別研究を含む）				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育の目的達成のために学習指導要領に沿ってどのような教育内容をどのような手順で展開するかということを探査する授業である。教育課程は、広くは教育方法論において展開される領域であるが、教育内容の充実と選択の必要性から、教育課程の独立が成立した。以下のことを中心に授業は実施される。わが国の教育改革の歴史的展開と教育課程、教育課程の意義と目的、道徳教育及び特別活動の内容について。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教育課程論』  
ミネルヴァ書房 2010年

《参考文献》

文部科学省 『学習指導論 小学校 中学校 高等学校』  
文部科学省 2012年

《授業の到達目標》

教育課程は何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態をしているのか、学習指導要領における教育課程の意義と特徴との理解等を到達目標とする。また、これらの到達目標を主体的に探究することも到達目標ということができる。

《授業時間外学習》

課題が不定期に提示されるので、その課題に取り組む必要がある。授業中の小課題には、現代の教育的課題と関わることが予想されるので、平日頃新聞を読んだり、多くの読書をする必要がある。講義後のノート整理は欠かさず実施することが求められる。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加(討議、プレゼンテーション、質疑応答など)30%、小課題10%、定期試験60%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育課程論オリエンテーション	教育課程論の授業に必要な基本的な視点、学習動機づけ、学習方法、評価などについて説明して、履修学生に履修決意をさせる。
2	教育課程の意義	教育課程の語源や歴史的発展を示し、教育課程成立時のその時代、その社会などについて考察し、教育課程の意義を考察し理解する。
3	学習指導要領と教育課程論	教育課程は、学習指導要領において展開されているので、両者の親密な関係をしっかり理解する。
4	学習指導要領の変遷とそれぞれの特徴	学習指導要領の変遷は、教育課程にどのような変化と特徴をもたせているか、整理していく過程で学習指導要領が教育課程にいかにかかわるか把握させる。
5	教育課程編成の教育目的・目標	教育基本法・学校教育法・学習指導論などにある教育の目的や目標を考えた得腕、教育課程編成の教育目的・目標について探究する。
6	保育・教育課程の構成	現在求められている保育課程・教育課程を明確にして、編成において何が求められるのかまた、具体的な形態としてどのようなものが考えられ実施されているか理解する。
7	小学校教育課程の構成	小学校教育課程において、どのようなカリキュラムが生まれどのような内容が教授され、何が課題かなどを具体的に探究する。
8	中学校教育課程の編成	中学校教育課程において、カリキュラムの特徴、教育内容、テキストの採択などに関して解説することを通して、何が現在の課題であるか考察する。
9	高等学校教育課程の編成	高等学校教育課程において、どのような目的でどのような内容をどのような手順で実施されているかを客観的に考え、現代の課題を考える力を身につけさせる。
10	教育課程と教育行政(教科書の作成から採択まで)	教育課程は、教育行政と深くかかわっていることを教科書採択などの具体的事例を挙げながら、教育課程の本質を探る能力を養う。
11	総合的学習の時間と教育課程論	総合的な学習の導入のいきさつと発展について、学習指導要領とのかかわりから探究する力をつける。
12	学習指導要領改訂の要点	学習指導要領の改訂に伴ってそれぞれの改訂の特徴が教育課程にどのように反映されているか理解する能力を養成する。
13	教育課程の歴史的展開と教育方法	教育課程の語源や歴史的発展を提示し、教育課程をさらに深く理解する。
14	教育課程における教育方法の諸課題	教育課程と教育方法との関わりから教育課程をより明確に位置付けることを試みる。教育学の成立から教育課程が独立するまでを明確に理解できるようにする。
15	教育課程の現代的課題	教育課程が現代の教職課程において高く評価されることを基本に、今後の教育課程の進むべき方向を探究することを履修学生が主体的に考察できるようにする。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計のシステムの的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。  
 授業設計のシステムの的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。  
 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にもシステムの的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）  
 小テストの結果（30%：3回実施予定）  
 ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）  
 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えない。

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房。

《参考文献》

稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。  
 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書  
 その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。  
 復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明 / 教材をイメージする / キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	システムの的教材設計・開発の手順 / キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイデア交換 / 教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト（第3、4章） / 学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類 / 教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成 / 教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト（第5～7章） / 教材企画書の提出 / 課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施 / 教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順 / 教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材 / まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材 / 教材作成報告書の提出 / 学習の振り返り

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

『生徒指導の手引』書、『生徒指導提要』と生徒指導に関するテキスト『新しい生徒指導・進路指導』における理論に基づいて、事例研究を分析し、生徒指導の課題を認識し、課題の解決のための探究を展開する。進路指導に関して、必要な資質を持った教員養成が、現在社会に求められていることを十分に意識して、キャリア教育との関わりを明確にしていく。成長と発達との関係から生徒指導について考察する。

《授業の到達目標》

生徒指導を、生徒指導の原理、生徒指導の方法論、学校教育における位置づけなどの理解をする。生徒指導が学校教育にどのような影響を与えることができるか解明する。進路指導の意味と方法論、進路指導に必要な資質を身につける。生徒指導がどのような過程で重視されることになったか、理解できるような能力を身につける。実際に、生徒を指導できる基本的な能力を身につける。

《成績評価の方法》

講義には積極的に参加(20%)し、課題が出てきたときに必ず探究してレポート提出ないし発表をするよう(20%)に心がけてほしい。定期試験(30%)は必ず受けること、また60%以上の成績を取ることが求められる。グループディスカッションには、積極的な参加が求められる。

《テキスト》

加澤恒雄・広岡義之編著 『新しい生徒指導・進路指導』  
ミネルヴァ書房 2007年

《参考文献》

文部科学省著 『生徒指導提要』 文部科学省 2011年

《授業時間外学習》

生徒指導に関わる事例研究に関する著書を収集し、または大学図書館で見つけ、重要と思われる本を読書することが必要である。また、事例研究の機会があればそれらに触れることは言うまでもなく、新聞をはじめマスコミが報道する記事は必ず目を通して、他の履修学生や教職を取っている先輩と生徒指導について話し合うことが必要である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導に関するオリエンテーション	生徒指導の授業について説明、生徒指導の重要性を解明して教育課程における生徒指導の重要性について考える。
2	生徒指導の原理と目的について	生徒指導の領域の説明と生徒指導の原理と目的について解明する。
3	生徒指導の内容（内容を主として説明）	生徒指導において何をどのような手順で展開するか考える。
4	生徒指導の内容（内容の関わりを解明する）	生徒指導の内容それぞれがどのように関わっているか、有効な関わり方はどうあるべきか考察する。
5	生徒指導の方法	生徒指導の内容にふさわしい方法を考察し、方法をより有効に展開することを考えてみる。
6	生徒指導と新学習指導	生徒指導が新学習指導要領において活用されているか考える。
7	生徒指導と進路指導	生徒指導の中で進路指導がどのように位置づけられているか解釈することを試みる。
8	これからの進路指導	現在求められている生徒指導の現実とこれからの進路指導に求められるであろう者を考えてみる。
9	進路指導とガイダンス	進路指導におけるガイダンスの意義と機能について解明する。
10	青年期と生徒指導	青年期の心理とその発達と生徒指導の意義について考える。
11	青年期の心理的発達論と生徒指導	青年期の心理的発達論を歴史的観点から解明し、それらの理論が生徒指導にどのように生かされているか探究する。
12	生徒理解のさまざまな方法と技術	生徒理解にとって必要な方法と技術について、出来る限り新しいものを紹介する。
13	生徒指導と教育課程	教育課程と生徒指導の関係について明確にし、理解する。
14	進路相談	学校におけるカウンセリングと進路指導について明確にし、教育相談の意義をカウンセリングとの違いを明確にして生徒指導に生かすことを考える。
15	生徒指導の課題とキャリア教育	生徒指導の課題を取り上げ、キャリア教育を展開する際にどのように関わるか考える。





平成 22（2010）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	看護教諭一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専門教育科目	I群(健康支援と社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2										
		家族関係論	講義	2					2									
		精神保健	講義	2				○	2									
		環境衛生学	講義	2				○				2				(多田 章夫)・久井 志保	164	
		保健福祉行政論	講義	2		◇	□				2							
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2		◇	□	○			2							
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2							
		基礎生物学	講義	2					2									
	II群(人体の構造と機能)	形態機能論	講義	4		◇	□	○	4									
		生化学	講義	2					2									
		栄養学(食品学を含む)	講義	2				○	2									
		薬理学	講義	2		◇	□	○		2								
		免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○	2									
		臨床病理病態学Ⅰ(内科系)	講義	4		◇	□				4							
	III群(疾病の成立及び回復の促進)	臨床病理病態学Ⅱ(外科系)	講義	2		◇	□				2							
		臨床病理病態学Ⅲ(周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2							
	IV群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2									
		看護理論	講義	1		◇	□	○	1									
		ヘルスアセスメント	講演	1		◇	□	○	2									
		看護技術論Ⅰ(生活技術援助)	講演	2		◇	□	○		4								
		看護技術論Ⅱ(診療技術援助)	講演	2		◇	□	○		4								
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□	○	3									
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□	○		6								
		看護教育学	講義	1		◇	□				1					道廣 睦子	165	
		看護管理学	講義	1		◇	□				1					小林 廣美	166	
		V群(成人・老年看護学)	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
	成人看護援助論Ⅰ(生命危機状態にある人)		演習	2		◇	□	○			4				島田・白神・高橋・廣田	167		
	成人看護援助論Ⅱ(常態の維持・増進が困難な人)		演習	2		◇	□	○			4				島田・高橋・廣田	168		
成人看護学実習Ⅰ	実習		3		◇	□					9			高橋・白神・島田・廣田	169			
成人看護学実習Ⅱ	実習		3		◇	□					9			高橋・島田・白神・廣田	170			
老年看護学概論	講義		2		◇	□				2								
老年看護援助論	演習		2		◇	□				4				齋藤・瀧本・大植	171			
老年看護学実習Ⅰ	実習		2		◇	□					6			齋藤・瀧本・大植	172			
老年看護学実習Ⅱ	実習		2		◇	□					6			齋藤・瀧本・大植	173			
VI群(母性・小児看護学)	母性看護学概論		講義	2		◇	□	○			2							
	母性看護援助論	講演	2		◇	□	○			4				秦 久美子・若井 和子	174			
	母性看護学実習	実習	2		◇	□					6			若井 和子・秦 久美子	175			
	小児看護学概論	講義	2		◇	□	○			2								
	小児看護援助論	講演	2		◇	□	○			4								
	小児看護学実習	実習	2		◇	□	○				6			川上 あずさ・渋谷 洋子	176			

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ					
			必修	選択				1年		2年		3年		4年								
								I	II	I	II	I	II	I	II							
専門 教育 科目	VII群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○				2											
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○					2									加藤 知可子 177	
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○							6							加藤 知可子 178	
		在宅看護概論	講義	2	◇	□					2											
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□						2										新田 幸子・東 久子 179
		在宅看護実習	実習	2	◇	□									6							
		地域看護学概論	講義	2	◇	□					2											
		地域看護活動論	演習	2	◇	□						4										久井 志保・藤本 優子 180
		産業保健論	講義	1	◇	□						1										久井 志保 181
		学校保健概論	講義	1	◇	□			○			1										
		国際看護学	講義	1	◇	□																1
		災害看護学	講義	1	◇	□																1
		地域看護学実習	実習	3	◇	□																9
		専門 教育 科目	VIII群 (統合と実践の看護)	看護研究Ⅰ(基礎編)	演習	2	◇	□					2									全教員 182
看護研究Ⅱ(応用編)	演習			2	◇	□									2							
リスクマネジメント論	講義			1								1									[山田 鈴子] 183	
看護の統合と実践実習	実習			2	◇	□								6							*1 184	
専門 教育 科目	IX群 (関連)	学校保健活動論	講義	2							2										杉原 トヨ子 185	
		学校保健演習	演習	2								2									杉原 トヨ子 186	
		養護概説	講義	2							2											
		健康相談活動の理論と実践	講義	2											2							
基礎 科目	X群 (基礎)	基礎ゼミ	演習	2																	○ 2	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

\*1 小林・川上・齋藤・白神・島田・瀧本・秦・久井・高橋・大植・東・渋谷・藤本・廣田

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ				
			必修	選択				1年		2年		3年		4年							
								I	II	I	II	I	II	I	II						
教職 に 関 する 科 目	教職概論	講義	2				○	2													
	教育原理	講義	2				○	2													
	教育心理学	講義	2				○		2												
	教育制度論	講義	2				○	2													
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	講義	2				○		2												
	教育方法・技術論	講義	2				○		2												
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2				○		2												
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2				○		2												
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5				○								5						杉原 トヨ子
	教職実践演習(養護教諭)	演習	2				○														2

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

科目名	環境衛生学				
担当者氏名	多田 章夫、久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

大気汚染や水質汚濁などの身近な生活環境の汚染問題や我が国において深刻な健康影響をもたらした公害問題などから健康を阻害しない環境のあり方を考える。また、地球規模での環境問題や生態系の中での人の健康についての認識を深める。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2011」 鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）  
各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 環境の概念を理解する
- 2 生活環境の汚染問題について説明できる
- 3 地球環境問題を理解する

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること
- 4 課題レポートを計画的に実施して期限までに提出すること

《成績評価の方法》

- 1 多田担当分：小テスト100%、久井担当分：課題レポート50%、小テスト50%
- 2 遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の30%以上の場合）は定期試験の受験資格を失う

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境の概念、環境の把握とその評価	生態系、非確率的影響と確率的影響、環境の評価、環境基準と許容濃度について説明できる。
2	物理的環境要因、化学的環境要因	温熱の4要素（気温、湿度、気流、放射熱）、温熱・放射線・騒音等物理的因子による健康影響、化学物質の量・反応関係、毒性試験について説明できる。
3	生物的環境要因	ウイルスや細菌等病原微生物による健康影響、最近の国内における感染症について説明できる。
4	空気・水の衛生と大気汚染	大気汚染を引き起こす成分とその健康被害、上水道・下水道・環境中の水質基準と水質汚染について説明できる。
5	廃棄物、食食品衛生、住居の衛生	廃棄物処理とリサイクル、食中毒、食品安全性確保のための政策（ポジティブリスク、HACCP、食品安全委員会等）、シックハウス症候群について説明できる。
6	公害と環境問題	日本で過去に発生した代表的な公害（水俣病等）、現在、地球規模で問題となっている環境問題（地球温暖化等）についてそれぞれ、原因や健康問題を説明できる。
7	環境管理	モニタリングとサーベイランスの相違、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションについて説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	快適職場環境	快適職場環境づくりに関する法規について理解する
10	環境測定	環境測定（音、照明、粉じん、水質、化学物質等）の実際と評価について理解する
11	環境による健康影響と保健	禁煙対策の実際や課題について理解する
12	環境による健康影響と保健	熱中症、難聴について機序や健康管理について理解する
13	環境に関する健康課題	小テスト、課題に関する文献等を検索し現状について整理する
14	環境に関する健康課題	課題について考察しレポートを作成する
15	環境に関する健康課題	レポートの結果を発表し各自の学習を深める

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護教育学				
担当者氏名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護教育学とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学的視座から研究する学問です。看護学生を含む看護職者個人々の発達を支援し、それを通して質の高い看護の提供を目指すものです。看護教育制度の歴史の変遷と現在の看護教育制度の現状と課題、学生自身がどのような発達課題を持ち、教育実践や研究から生まれた看護教育学の基盤となる概念を学び、自分自身について考える機会とする。

《授業の到達目標》

看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、今後の看護教育の方向性を述べるができる。看護専門教育の教授＝学習過程を具体的に述べるができる。看護学教育における臨地実習の位置づけを説明できる。看護学教育の向上が、看護の質保証に関連していることを説明することができると共に、看護が果たす社会的責任及び社会的貢献について述べるができる。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション20%、レポートの提出20%、筆記試験60%

《テキスト》

グレッグ美鈴編集：看護教育学、南江堂

《参考文献》

参考文献は、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

基礎看護学実習の体験、特に「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」について前もってまとめて置くこと。（40文字×40行、2枚程度）

《備考》

各時の教育体験・実習体験をフィードバックしながら参加して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護教育学とは何か	関連する用語の理解、看護教育、看護学教育、看護教育学の違い、看護教育学における教育・研究、エビデンスに基づく看護学教育
2	専門職としての看護	専門職とは何か、専門職の特質・基準、専門職の特徴から見た日本の看護、スペシャリスト、
3	看護教育制度	看護教育制度の歴史の変遷、看護制度の原点とその成立過程、保健師助産師看護師法の成立
4	看護学教育の基礎	アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネジメント
5	カリキュラム	カリキュラム、カリキュラム開発の意味、カリキュラムデザイン、科目の構成、科目間の関連付け、教授＝学習過程、学習過程の進め方と学習の支援
6	学習理論と学習方法	学びの本質、学習理論、主体的関わり、共同学習、PBL学習
7	臨地実習における教育と学習	教育的ケアリングモデル、経験型実習教育、経験型実習教育の基盤となる理論
8	教育評価	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護管理学				
担当者氏名	小林 廣美				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護管理は、看護システムをつくり患者に質の高いサービスを提供するしくみや、他部門との協働・連携や、看護を見えるものとして評価されるようにすること等が基礎となっている。保健医療システムの中での看護管理の位置づけ、看護管理関係法規、看護管理の基礎知識、看護管理の実際と看護の責務等について理解することができる。

《テキスト》

看護管理 看護の統合と実践 医学書院

《参考文献》

看護業務基準集 日本看護協会出版会 私たちの拠りどころ  
保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会

《授業の到達目標》

1.看護管理とは何か、なぜ学ぶのか、サービスとしての医療について理解できる。2.リーダーシップとマネジメントについて理解できる。3.看護管理と倫理について理解できる。4.看護の質の保証について理解できる。5.他部門との協働・連携の必要性について理解できる。6.専門職としての展望について理解を深めることができる。

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護管理とは何か	1.看護管理とは何か定義がわかる。2.マネジメントプロセスが説明できる。3.看護におけるマネジメントが説明できる。
2	看護ケアのマネジメント	1.看護職が協働するための看護ケア提供システムが説明できる。2.他職種がわかる。3.情報の管理がわかる。4.研究の成果の活用がわかる。
3	看護管理のマネジメント	1.ケアのマネジメントがわかる。2.ケアのマネジメントにおける看護職の機能・役割がわかる。
4	看護サービスのマネジメント	1.看護サービスのマネジメントの対象がわかる。2.組織目標のマネジメントがわかる。3.協働のためのマネジメントがわかる。
5	看護サービスのマネジメント	1.勤務体制について理解できる。2.看護職の安全について理解できる。3.質の高い看護を提供するための方法について理解できる。
6	看護を取り巻く諸制度	1.保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保促進の法律について理解することができる。
7	マネジメントに必要な知識と技術	1.組織の原則が理解できる。2.マネジメントの対象と機能が理解できる。3.リーダーシップとマネジメントについて理解できる。
8	専門職としての展望	専門職の展望について理解を深めることができる。まとめと試験。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	成人看護援助論（生命危機状態にある人）				
担当者氏名	佐知子・高橋 直美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

急性期は急激な健康状態の変化が起こり、身体的侵襲や心理的動揺が大きい時期である。急性期にある成人期の患者、家族の特徴と課題を中心に、看護の役割を学ぶ。また生命の危機的状況にある患者を理解するための理論を学んでいく。さらに周手術期各期の患者の身体的、心理的、社会的影響や外科看護の特徴について理解し、回復過程への援助を考えていく。

《授業の到達目標》

- (1)急性状態にある患者、家族の特徴と看護が説明できる。
- (2)外科患者とその看護の特徴が説明できる。
- (3)周手術期各期の特徴と必要な援助内容が説明できる。
- (4)外科的治療を受ける患者の看護過程の展開ができる。

《成績評価の方法》

(1)(2)(3)については試験とレポート提出(提出遅れについては、減点する)(4)についてはレポート提出(提出遅れについては、減点する)とする。評価の割合は試験70%、レポート課題30%とし、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	急性期看護の特徴	急性期の概念と特徴を理解し、生命の危機状態にある患者とその家族の看護の特徴が説明できる。また急性期看護に必要な理論について学ぶ。
2	外科患者の病態の基礎	外科的治療を受ける患者の身体侵襲や生体反応、手術によって起こる炎症や感染症の病態について学ぶ。
3	救急看護の実際	急激に健康破綻をきたした患者の緊急性と原因のアセスメントができ、救命救急に必要な心肺蘇生法の実践が理解し、説明できる。
4	周手術期看護の概論	周手術期各期の看護を学ぶに先立ち、外科的治療を受ける患者、家族への看護師の役割、インフォームドコンセント、周手術期における安全、感染予防について説明できる。
5	手術期の看護：手術前	手術前の患者の身体・心理的アセスメントと手術にむけた身体準備が説明できる。また術後の合併症予防への予防や、指導、心理的援助内容が理解できる。
6	手術期の看護：手術中	安全な手術を行なうための手術室の環境管理や麻酔導入時の看護、手術室における直接介助、間接介助について説明できる。
7	手術期の看護：手術後	麻酔、手術の影響による循環、呼吸状態のアセスメント、疼痛管理、また急性期から回復期へ順調に経過できるように、術後合併症の予防への看護が説明できる。
8	集中治療における看護	生命の危機的状況にある患者の特徴、集中治療室の環境、集中治療室における看護師の役割が説明できる。
9	生殖器機能の障害のある患者の看護展開	乳房切除術を受ける乳がん患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
10	循環器機能の障害のある患者の看護展開	バイパス手術を受ける心筋梗塞患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
11	消化器機能の障害のある患者の看護展開	胃全摘手術を受ける胃がん患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
12	消化器機能の障害のある患者の看護過程	胃がん患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。 情報の整理：重要な情報を導き出し、分類できる。
13	消化器機能の障害のある患者の看護過程	胃がん患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。 情報の解釈・分析統合：情報をアセスメントし、看護診断へのプロセスができる。
14	消化器機能の障害のある患者の看護過程	胃がん患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。 関連図：患者の情報間の関連性が理解でき、全体像が描写できる。
15	消化器機能の障害のある患者の看護過程	胃がん患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。 看護計画：事例に沿った看護計画を立案することができる。

《テキスト》

- (1)系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、矢永勝彦他著、医学書院 2011、
- (2)成人看護学 3,5,9、医学書院

《参考文献》

- (1)『周手術期看護論』雄西智恵美・秋元典子編、ヒロカワ、2010、
- (2)看護観察のキーポイントシリーズ 急性期・周手術期、富田幾枝 著、中央法規、2011
- (3)クリティカルケア看護学、道又元裕著、医学書院、2008

《授業時間外学習》

- ・毎回授業の復習をし、小テストに備えておくこと
- ・次回の授業範囲を予習し、専門用語や疑問点など、調べてノートに整理しておくこと
- ・看護過程の演習では、次回の授業までに指定範囲は自己学習してこること

《備考》

成人看護援助論の学習は、急性期実習に直接反映される内容です。予習、復習に心がけ、知識を深めていくことを望みます。



科目名	成人看護援助論（常態の維持・増進が困難な人）				
担当者氏名	島田 美鈴・				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

慢性的な健康問題を持つ人々を理解するための基礎的な概念や理論を学習し、対象がセルフケア能力を高め、病気と折り合いをつけながら、その人らしい生活が営めるような看護援助の考え方と方法を習得する。

《テキスト》

成人看護学 慢性期看護論 ニューヴェルヒロカワ  
成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 ニューヴェルヒロカワ  
その他は適宜紹介する。

《参考文献》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

- (1) 慢性的な健康障害をもつ人・家族の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。
- (2) 慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護援助を具体的に述べるができる。
- (3) 様々な問題を有する慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護を立案できる。

《授業時間外学習》

ケーススタディでは、解剖学、生理学、病態治療学、看護援助論等の自己学習が重要になります。

《成績評価の方法》

授業への参加20%、課題レポート20%、試験60%により、総合的に評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	慢性期看護の考え方	ガイダンス、慢性期とは、慢性疾患・治療の特徴、生活習慣病の予防とヘルスプロモーション、慢性的な健康問題をもつ人の治療・療養環境
2	慢性的な健康問題をもつ人の特徴と理解	慢性的な健康問題をもつ人の体験（心理・社会的特徴）、病みの軌跡、慢性的な健康問題がライフサイクルに及ぼす影響
3	慢性的な健康問題をもつ人の特徴と理解	慢性的な健康問題の受入れ過程とその過程における体験、慢性的な健康問題をもつ人とその家族
4	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	慢性的な健康問題をもつ人のQOL、慢性的な健康問題をもつ人を支援するための基盤となる理論・諸概念、慢性的な健康問題とともに生きる生活の支援
5	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	セルフケア能力を高めるための教育的支援と看護援助、慢性的な健康問題をもつ人の家族への支援、慢性的な健康問題をもつ人を支える社会資源の活用
6	ケーススタディ	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：ケーススタディ（呼吸機能障害）
7	ケーススタディ	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：ケーススタディ（呼吸機能障害）
8	ケーススタディ	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：ケーススタディ（脳・神経機能障害）
9	ケーススタディ	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：ケーススタディ（脳・神経機能障害）
10	ケーススタディ	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：ケーススタディ（栄養摂取・代謝機能障害）
11	ケーススタディ	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：ケーススタディ（栄養摂取・代謝機能障害）
12	ケーススタディ(まとめ)	慢性的な疾病をもちながら生活する人の看護：演習
13	慢性的な健康問題をもつ人への看護	がんとともに生きている人・家族、化学療法看護、放射線治療看護、疼痛コントロール
14	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	ターミナルケア・緩和ケアとは、ターミナル期にある人の特徴と理解（トータルペイン、身体的特徴）、死と死にゆくプロセス、家族・遺族への看護援助
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護学実習				
担当者氏名					
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

詳細は成人看護学実習 実習要項を参照

《テキスト》

別途

《参考文献》

実習内容，実習進度に応じて別途指示

《授業の到達目標》

健康生活の突然の破綻や侵襲的な治療を体験する成人の対象者・家族の心理・社会的側面を理解し，その状況や変化に応じて援助ができる基本的な知識・技術・態度を養う。

《授業時間外学習》

急性期看護に関連する予習  
看護技術の修得  
疾患の理解

《成績評価の方法》

成人看護学実習 実習要項の評価表（100％）に基づいて評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		実習要項(成人看護学実習 )を参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	成人看護学実習				
担当者氏名					
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

詳細は成人看護学実習 実習要項を参照

《テキスト》

別途

《参考文献》

実習内容，実習進度に応じて別途指示

《授業の到達目標》

慢性的な健康障害を持つ成人に対する看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を習得する。

《授業時間外学習》

健康に関する行動の変容と維持に対してはいくつかの理論があります。応用できるよう学習しておくこと。  
 成人看護学概論で学んだ理論を復習し、患者の看護に応用できるよう学習しておくこと。  
 根拠に基づいた援助技術が実践できるよう復習しておくこと。

《成績評価の方法》

成人看護学実習 実習要項の評価表（100％）に基づいて評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		実習要項(成人看護学実習 )を参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護援助論				
担当者氏名	齋藤 智江				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程について教授する。加齢に伴う身体的・精神的に起こりうる様々な加齢現象について教授し、そのことが生活機能に及ぼす影響、またそれらに必要な援助方法について教授する。

《テキスト》

「老年看護学 概論と看護の実践」、「老年看護技術」ヌーベルヒロカワ、「看護ケアのための病態関連図」医学芸術社

《参考文献》

「系統看護学講座 老年看護学」、「系統看護学講座 老年看護 病態疾病論」医学書院、「看護過程に沿って対症看護」学研、

《授業の到達目標》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程とともに援助方法を理解できる。  
疾患及び加齢現象からくる症状が生活機能に及ぼす影響について理解でき、必要な援助方法について考えることができる。

《授業時間外学習》

予習・復習  
課題DVD視聴と内容提出・課題図書講読とレポート提出  
演習事前学習と後評価レポート

《成績評価の方法》

授業内演習とその成果20%  
レポート課題提出10%  
筆記試験70%（試験はテキスト持ち込み不可とする）

《備考》

老年看護学領域の国家試験問題を授業終了までに一通り解いてみて、必ず覚えなくてはならないところをまとめる。1週2コマの授業形態。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義についてのオリエンテーション	本講義についてのオリエンテーションおよび老年看護学概論での内容の想起
2	高齢者への看護援助の特徴	高齢者の健康問題・高齢者に適用する看護技術の活用と特徴
3	高齢者のアセスメント	高齢者のアセスメントのための看護技術
4	特徴的な症状を持つ高齢者への看護	感覚機能の変調・循環機能の変調・感染に対する看護
5	特徴的な症状を持つ高齢者への看護	転倒転落・腰痛・尿失禁に対する看護
6	特徴的な症状を持つ高齢者への看護	認知症・うつ症状・寝たきりに対する看護
7	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護	高齢者の大腿骨頸部骨折・パーキンソン・脳梗塞患者の看護
8	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護	高齢者の糖尿病・心不全・呼吸不全患者の看護
9	地域高齢者との参加型授業	健康支援教室
10	生活機能を障害された高齢者の看護	経口摂取を促す看護援助（嚥下障害とその対応）
11	生活機能を障害された高齢者の看護	排泄の自立への援助・睡眠にかかわる看護援助
12	生活機能を障害された高齢者の看護	清潔・更衣セルフケアにかかわる看護援助
13	生活機能を障害された高齢者の看護	活動・コミュニケーション・リラクゼーションにかかわる看護援助
14	看護過程の展開	事例による看護過程の展開
15	まとめ	筆記試験

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学実習				
担当者氏名	齋藤 智江				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

病院で療養生活を送る老年期にある対象とその家族を総合的に理解し、疾患や機能障害を持つ対象の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、対象の生活機能を維持し、拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる

《参考文献》

適宜提示する

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項（老年看護学実習）参照

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。  
事例による看護過程演習課題を出します。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 の評価表（100％）に準じて評価する。

《備考》

実習前は事前調査（経験事例・自己の学習課題等）を提出してもらいます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		詳細内容や方法等は老年看護学実習要項を参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	老年看護学実習				
担当者氏名	齋藤 智江				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

介護老人保健施設又は特別養護老人ホームで生活する高齢者とその家族の健康および健康問題を理解し、その人がより健康的な生活を送ることができるような支援について考えることができる。また、高齢者を取り巻く家庭・病院・様々な介護サービスの中で継続的な支援体制について理解できる。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる

《参考文献》

適宜提示する

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項（老年看護学実習）参照

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。  
事例による看護過程演習課題を出します。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 の評価表（100％）に準じて評価する。

《備考》

実習前は事前調査（経験事例・自己の学習課題等）を提出してもらいます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		詳細内容や方法等は老年看護学実習要項を参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	母性看護援助論				
担当者氏名	秦 久美子、若井 和子				
授業方法	講演	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

次世代を担う全ての子どもが健やかに生まれ、かつ、育てられるように、母性自らが健康の保持、増進に務めることができるような援助について学ぶ。また、演習により、周産期における母子に必要な看護援助の原理・原則を理解し、安全に実施するための基礎的技術の習得を目的とする。

《授業の到達目標》

1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントができる。
2. 妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族を対象とした事例の看護過程を展開することができる。
3. 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護援助を科学的根拠に基づき、安全に実施できる。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験（50%）、実技試験（50%）として100点満点で60点以上を合格とする。
- ・講義回数3分の1以上の欠席をした場合は、単位認定しない。

《テキスト》

- ・ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本 メディカ出版
- ・ナーシンググラフィカ31 母性看護技術 メディカ出版
- ・系統看護学講座専門分野 母性看護学各論 医学書院

《参考文献》

- ・『ウエルネスからみた母性看護過程』佐世正勝他 医学書院
- ・『写真でわかる母性看護技術』平澤美恵子他 インターメディア
- ・『新体系看護学33 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護』新道幸恵 他 メヂカルフレンド

《授業時間外学習》

- (1) 安全で確実な看護技術を習得するため、自己の技術到達状況を確認しながら計画を立て学内演習を繰り返し行うこと。
- (2) 講義前後の予習と復習を行い、知識・技術を確実に身につけ、国家試験問題にも取り組むこと。
- (3) 沐浴の実際は、DVD教材を活用し、反復練習して実技試験に臨むこと。

《備考》

- ・新生児人形は実際の新生児として大切に扱うこと。
- ・演習は白衣着用で行うため、速やかに更衣し、講義開始時間を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊婦のヘルスアセスメント（講義）	妊婦のヘルスアセスメントに必要な情報を問診・視診・外診・計測診・触診・内診・臨床検査等から抽出し、アセスメントすることができる。
2	妊婦の観察に必要な看護技術（演習）	妊婦体験・妊婦健康診査（レオポルド触診法・子宮底長・腹囲測定・胎児心音聴取・浮腫の観察）内診時の介助を実施することができる。
3	産婦のヘルスアセスメント	分娩機転、応形機能について学び、分娩各期の産婦のヘルスアセスメントに必要な観察をあげ、アセスメントすることができる。
4	産婦の観察に必要な看護技術（演習）	陣痛測定・胎児心音最良聴取部位の変化・補助動作・呼吸法・外陰部洗浄・胎盤計測を実施することができる。
5	褥婦のヘルスアセスメント	産褥期の進行性変化と退行性変化を学び、ヘルスアセスメントに必要な観察および心理的側面をアセスメントするための情報をあげ、その根拠を説明することができる。
6	褥婦の観察に必要な看護技術（演習）	悪露交換・利尿後消毒・外陰部の観察・子宮底の観察・乳房の観察・乳房マッサージ・搾乳・授乳方法・哺乳瓶・乳首の取り扱いを実施することができる。
7	新生児のヘルスアセスメント	新生児の生理的变化を学びヘルスアセスメントに必要な観察、臨床検査および母子相互作用をアセスメントするための情報をあげ、その根拠を説明することができる。
8	新生児の観察に必要な技術（演習）	新生児の観察・沐浴・抱き方・保育器の取り扱い・光線療法中の看護を実施することができる。
9	保健指導（講義）	集団指導・個別指導の意義を学び、対象に適した指導計画立案、教材作成、指導原稿作成、実施および評価までの展開方法を説明することができる。
10	保健指導（演習）	事例に適した保健指導計画立案、教材、指導原稿をグループワークにより作成することができる。
11	保健指導（発表）	グループワークの成果をグループ別にロールプレイングにより発表し、助言し合うことで基本的な保健指導技術を習得することができる。
12	母性看護過程の展開	事例の情報収集・アセスメント・課題・問題点・計画立案・実施・評価を展開することができる。
13	実技試験 1	新生児の観察・観察結果の報告を的確に行い、安全に沐浴を実施することができる。
14	実技試験 2	新生児の観察・観察結果の報告を的確に行い、安全に沐浴を実施することができる。
15	学習のまとめ	妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントの要点を説明することができる。

科目名	母性看護学実習				
担当者氏名	若井 和子、秦 久美子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の特徴を理解し、実習を通して対象の健康回復への看護および、より健康な生活に向けて家族を含めた援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

妊娠・分娩・産褥各期の経過および新生児の生理的特徴や変化を理解することができる。対象の健康状態に応じた看護・保健指導を考えることができる。対象を取り巻く育児環境を理解し、支援の重要性を学ぶことができる。周産期の看護を通して倫理上の諸問題を考えることができる。周産期医療チームとしての看護の役割を学ぶことができる。

《成績評価の方法》

母性看護学実習の評価表に基づいて評価する（100%）。欠席日数が3分の1以上の場合、認定しない。

《テキスト》

『ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本』メイト出版  
 『ナーシンググラフィカ31 母性看護技術』メイト出版  
 『系統看護学講座専門分野 母性看護学概論』医学書院

《参考文献》

『新看護観察のキーワード』母性・母性』中央法規  
 『写真でわかる母性看護技術』平澤美恵子他 インターメディア  
 『ウエルネスからみた母性看護過程』佐世正勝他 医学書院  
 『母性看護学2 産褥・新生児』今津ひとみ他 医歯薬出版

《授業時間外学習》

産褥期の退行性繁華、進行性変化については、テキストと実際の比較を必ず行うこと。講義で学んだことを実際と結び付けてアセスメントすることが理解を深めることにつながる。講義終了後に取り組んだ国家試験問題を、実習中に取り組むこと。

《備考》

母性看護学実習要項を熟読して実習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地における看護実践	対象を理解するために必要な情報を抽出・ウエルネスの視点でアセスメントし、看護（保健指導）計画を立案することができる。看護計画に沿って実践・評価できる。
2	臨地における看護実践	2人目の対象を受持ち、1週目に準じた看護の実践を行うことができる。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



《専門教育科目 専門実践科目 群（母性・小児看護学）》

科目名	小児看護学実習				
担当者氏名	川上 あずさ・ 洋子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

小児看護学実習は、小児各期の特徴を理解し、健康のレベルや成長・発達段階に応じた看護を実践することを目的とする。小児看護学概論と小児援助論で学んだ、知識を統合して活用し、小児と家族がもっている力が最大限発揮できるよう看護するための基礎的能力を習得するための実習である。小児病棟と幼稚園で実習を行う。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院  
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院  
 小児看護技術 南江堂

《参考文献》

既習学習で活用した図書

《授業の到達目標》

小児病棟の実習では、小児各期の成長・発達の特徴や生活と、健康障害を関連してとらえ、個々の特性に応じた援助の必要性を判断する。小児の健康障害を理解し、適切な援助を行うことなどを目標とする。幼稚園の実習では、子どもの各期の成長・発達を理解する。子どもとの望ましい関わり方を学び、実践することなどを目標とする。詳細は実習要項で確認。

《授業時間外学習》

既習学習の復習、実習に関する事前学習、事前の技術の確認や演習が必須となる。

《成績評価の方法》

実習要項に記載している、評価表をもとに、学生と教員の面談によって評価する。

《備考》

子どものもっているパワーを感じ、出会えることを楽しんでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		小児看護学実習要項で詳細を説明します。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	精神看護援助論				
担当者氏名	加藤 知可子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

全体の授業計画に示す通りである。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ニューヴェルヒロカワ）  
 「精神看護学 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ニューヴェルヒロカワ）

《参考文献》

「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）  
 「オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版」宇佐美しおり（ニューヴェルヒロカワ）  
 「プロセスレコードを通して学ぶ 臨地実習ケーススタディ」吉田哲（看護の科学社）

《授業の到達目標》

患者－看護師関係の形成に必要なコミュニケーションを説明できる。

自己を洞察する方法を説明できる。

精神の健康に障がいや問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的な援助を説明できる。

事例を基に、ニードに沿った看護計画の展開方法を説明できる。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上の出席者を単位認定対象とする。基準の出席回数を満たさない場合、定期試験を受ける資格はない。また、特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。

(2)復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は自分で資料や図書を用いて調べたり、質問する。精神看護援助論に関する図書・資料を読み、学問的な視野を広げる。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより、授業計画や成績評価法には変更を加えることがある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、減点の上、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	患者－看護師関係	患者－看護師関係の発展過程を説明できる。
2	自己への振り返り プロセスレコード	自己への振り返りの方法について（プロセスレコード等）説明できる。
3	コミュニケーション技術	コミュニケーションの技術について、説明できる。
4	精神疾患の理解	精神疾患について説明できる。
5	精神障がいの回復過程	精神障がいの回復過程を説明できる。
6	日常生活援助	精神を病む人への日常生活援助を具体的に説明できる。
7	行動制限と看護	行動制限について、法と人権の擁護、看護の視点から何が必要なかを説明できる。保護室使用時の看護についての基本や注意事項、法との関連を説明できる。
8	検査を受ける人及び薬物療法を受ける人への看護	検査を受ける人及び薬物治療を受ける人への看護について何が必要かを具体的に説明できる。
9	SSTと心理教育	SSTと心理教育について基本的な概念と役割、応用について説明できる。
10	看護過程を展開するための理論	看護過程を展開するための理論の基本的な概念を説明できる。
11	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
12	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
13	家族支援	精神障がい者の家族支援について、家族のQOLを保持・増進できる具体的な援助を説明できる。
14	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源やその活用について説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する援助方法を具体的に説明できる。

科目名	精神看護学実習				
担当者氏名	加藤 知可子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

詳細は精神看護学実習要項を参照する。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）  
 「精神看護学 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考文献》

「精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）  
 「オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）

《授業の到達目標》

精神障がい者とその家族を理解し、日常生活の自立に向けて、精神障がい者の個性に応じた看護を実践できる基礎的な能力を身につける。

心を病む人々を支える看護活動および関連する社会資源の活用、チーム連携について学ぶ。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：精神看護学実習に関する図書・資料を読み、事前学習しておく。
- (2) 復習の方法：提出が必要な課題・記録物を作成し、指導を受け、修正・追加をしていく。

《成績評価の方法》

精神看護学実習の評価表に基づいて評価を行なう。

《備考》

- (1) 臨地実習要綱や精神看護学実習要項をよく読んでおく。
- (2) 事前学習・演習をしっかり行って実習に臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		内容の詳細は精神看護学実習要項で提示する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	在宅看護援助論				
担当者氏名	新田 幸子・東 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

在宅看護概論の学習内容を想起し、療養者とその家族に必要な知識・技術・マナーについて学習します。治療最優先の療養から生活上の工夫を優先しQOLの高い日常生活が送れるよう総合的に学習します。看護を実践するために科学的根拠に基づいた基礎的能力を身につけます。さまざまな事例を通して生活支援の方法と技術、在宅で医療管理を必要とする人とその看護を関連づけながら在宅看護の実際を理解することができます。

《授業の到達目標》

病棟看護師と訪問看護師の密な連携活動（退院調整を含む）を知り、一貫した継続ケアの必要性が説明できる。  
 病院の病床と在宅という「場」の違いを理解し、看護技術の応用による援助の工夫について主体的に考えることができる。  
 独居療養者やターミナル期を迎えている療養者、老々介護の問題など事例を通して、訪問看護の実際を理解することができます。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）  
 課題等の提出（提出遅れについては、減点する）  
 レポート課題「介護体験を読んで感じたこと」（20%）  
 生活の場で必要な介護用品の作成（30%）

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2012

《参考文献》

「地域療養を支えるケア」 櫻井尚子 渡部月子 藪有桂  
 ナーシング・グラフィカ21 2011

「在宅看護論」実践をこぼに 杉本正子 眞船拓子 第5版  
 ヌーベルヒロカワ 2011

《授業時間外学習》

難病をもつ生活者や、介護をしている生活者などの手記を読んで、理解を深めること。  
 自身や友人の祖父や祖母の姿をイメージし生活の場で介護に必要な用品は何かを考える。また、訪問看護師は何を援助しているかなど興味・関心をよせ看護に対する考えを深める。

《備考》

学習方法は、グループワークでのワークや演習が中心になります。メンバーと十分討議し、その中で看護に対する考えを深められることを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅で求められる技術の応用	在宅看護概論で学んだ学習内容を想起する。基礎看護技術から在宅看護技術へと発展できる内容とし、在宅の「生活援助技術の基本」すなわち基礎にはないその独自性を学ぶ
2	食生活・嚥下に関する在宅看護技術	在宅における食事摂取能力のアセスメントと援助の技術を学ぶ。脳血管疾患などで摂食・嚥下困難な療養者をイメージしながら経管栄養・胃瘻・在宅中心静脈栄養法など
3	排泄に関する在宅看護技術	在宅における排泄状態のアセスメントと援助の技術を学ぶ。排泄補助用具・尿道留置カテーテル・排泄障害への援助、摘便、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）など
4	移動・移乗に関する在宅看護技術	在宅における日常生活動作（ADL）のアセスメントと移動援助の技術を学ぶ。療養者をイメージしながら移動時に障害となるものの安全確保、補助用具など
5	呼吸機能に関する在宅看護技術	在宅における呼吸のアセスメントと援助の技術を学ぶ。姿勢の工夫、呼吸理学療法として、排たん法、スクイ-ジグ人工呼吸法と在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法など
6	ALSで人工呼吸器療法療養者の事例展開	呼吸機能に関する在宅看護技術と関連して、医療依存度の高いALS療養者に対する訪問看護の実際を通し、24時間ケアする家族の介護負担の軽減などについて考える
7	認知機能のアセスメント法と援助技術	認知症とは... アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症 レビー小体病 ピック病 パーキンソン病 自然な衰えによる「物忘れ」と病的な認知症の違いなど理解する
8	パーキンソン病の療養者の事例展開	パーキンソン病の療養者の訪問事例を通して、療養者をイメージしながら、排便コントロールや服薬管理、緊急時の連絡方法などを考える
9	脳卒中をおこした療養者の事例展開	脳卒中をおこした患者が在宅療養を開始するにあたり、療養者をイメージしながら、どのような準備やケアが必要なのか事例をイメージしながら考える
10	認知症の療養者の事例展開	認知機能のアセスメント法と援助技術と関連して、療養者をイメージしながらコミュニケーションの方法などについて学ぶ
11	在宅における褥瘡ケア	褥瘡管理の基礎を確認する。PPに示す褥瘡ケアを通して、在宅では、家族や介護者への支援と医療・福祉サービスとの連携の必要性を理解する
12	独居の療養者の事例展開	独居で高齢という状況下にあっても365日24時間、安心して住み慣れたわが家で過ごしたい療養者の希望をかなえるための社会資源の活用と看看連携について考える
13	在宅における終末期看護	病棟・訪問看護師との看看連携の重要性 医療保険と介護保険 疼痛管理における訪問看護師の役割（薬剤の処方医師の指示であるため医師との連携は重要）について学ぶ
14	終末期（がん）の療養者の事例展開	在宅における終末期看護と関連して、訪問看護師による家族への「みとり教育」の重要性や遺族訪問について考える
15	まとめ	急性期病院の入院日数の短縮化に伴い在宅療養者の多くは在宅に戻るところから始まる。病棟看護師と訪問看護師の密な看看連携活動の実際を理解する

科目名	地域看護活動論				
担当者氏名	久井 志保、藤本 優子				
授業方法		単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

地域で生活する個人、家族、集団全てを対象とし、地域の特性やあらゆる健康状態に応じた健康の保持・増進や疾病発生及び悪化を予防するための基礎的な看護活動の方法と実際を学ぶ。地域看護における保健師の役割とその責務を学習する。

《テキスト》

標準保健師講座2「地域看護学技術」  
 標準保健師講座3「地域看護活動論」  
 ~いずれも、編著：奥山則子他（医学書院）

《参考文献》

・国民衛生の動向 厚生統計協会  
 ・コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際(第2版)  
 編集：エリザベスT. アンダーソン・ジュディス・マクファーレン  
 監訳：金川克子・早川和生

《授業の到達目標》

- ・地域保健活動の対象の特性を理解する
- ・地域保健で用いられる活動方法や技術について理解する

《授業時間外学習》

個人やグループで実施する課題を期限内に実施して提出する。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）、出席状況・態度等（15%）、小テスト・レポート等提出物（15%）で総合評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域看護活動の概要、母子保健	地域における保健師活動の概要について理解する。 母子保健の動向、母子保健の健康問題と保健指導について理解する。
2	成人保健、高齢者保健	成人、高齢者保健の動向、成人・高齢者の健康問題と保健指導について理解する
3	障害者保健、難病保健	障害者保健福祉施策の動向・精神保健の現状と保健指導、難病支援対策について理解する
4	感染症、歯科保健	感染症保健、歯科保健の動向、感染症予防施策と保健師活動について理解する
5	災害看護、危機管理	災害の定義と目的、保健師活動、危機管理について理解する
6	保健指導の基本と理論	保健指導の考え方、理論、技術について理解する
7	健康診査、健康相談	健康診査、健康相談の目的や内容について理解する
8	健康相談	健康相談の目的や方法について理解する
9	地域保健活動	地域組織活動、セルフヘルプグループ等について理解する
10	地域診断の理論	地域診断の考え方、コミュニティアズパートナーズモデルについて理解する
11	地域診断の演習	コミュニティアズパートナーズモデルを演習を通して理解する
12	家庭訪問による援助方法	家庭訪問による援助方法について理解する
13	家庭訪問の演習	家庭訪問の実践方法について理解する
14	健康教育の演習	健康教育の演習を通して健康教育案を作成する
15	健康教育の演習・まとめ	健康教育の発表を行い、プレゼンテーションの実際を学ぶ

科目名	産業保健論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法		単位・必選	1・	開講年次・開講期	3年・ 期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

労働と健康が密接にかかわっていること、事業場で行われている安全衛生管理体制について理解する。  
 働く人の健康に関する現状やそれらに対して産業保健専門職がどのように産業保健活動を実施しているかを理解する。

《テキスト》

河野啓子著『産業保健・産業看護論』日本看護協会出版会、2008

《参考文献》

労働衛生のしおり（中央労働災害防止協会）  
 安全の指標（中央労働災害防止協会）  
 産業保健マニュアル改訂5 版（南山堂）

《授業の到達目標》

1. 労働に関する現状と課題について考えることができる
2. 事業場で行われている安全衛生管理体制について理解する
3. 働く人の健康課題に対して、産業保健専門職が連携して産業保健活動を実施していることを理解する
4. 将来、自分自身が労働者となった時に知っておくべき最低限の法規について理解する

《授業時間外学習》

事前に示された課題レポートを計画的に実施して期限までに提出すること。

《成績評価の方法》

課題レポート（30%）期限までに提出しない場合は減点する  
 テスト（70%）

《備考》

産業保健論は「公衆衛生看護学」「健康教育」等の科目と関連が深いため、履修しておくことが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業保健の目的	産業保健の目的や歴史について理解する
2	産業保健の対象者の理解	産業保健の対象者の特徴について理解する
3	労働衛生の5分野	労働安全衛生管理体制、作業管理、作業環境管理について理解する
4	産業保健活動の実際	産業保健における健康管理システムについて理解する
5	産業保健の現状	女性労働者の健康管理について理解する
6	産業保健の現状	過重労働対策について理解する
7	産業保健の現状	産業保健における健康相談、保健指導、健康教育の特徴について理解する
8	産業保健の課題	ワーク・ライフ・バランスについて理解する
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究				
担当者氏名	道廣・加藤・若井・新田・川上・齋藤・小林・杉原・白神・瀧本・島田・竹内・森崎・秦・久井・大植・高橋・渋谷・東・藤本・廣田				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発につとめ、看護学の発展に寄与する責務があります。常に探求的視点を持って看護を思考することが重要です。過去の看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問・未解明な部分に対して、個人またはグループで研究課題を設定し、担当教員から指導・助言を受けながら研究（実験研究、調査研究、質的研究）を行うための基本的知識と方法論を修得する。

《授業の到達目標》

- ・看護学の研究とは何か、その目的や理論との関係、看護実践への応用について理解できる。
- ・研究目的の明確化とそのために不可欠な文献検索・文献検討について理解できる。
- ・看護研究における倫理的配慮(研究対象者の権利擁護)について理解できる。
- ・看護計画書が作成できる。

《成績評価の方法》

筆記試験80%，研究計画書作成のプロセス、研究計画書の提出をもって評価する。20%

《テキスト》

南 裕子：看護のための研究、日本看護協会出版会

《参考文献》

大木秀一著：良的な看護研究の基本，医歯薬出版株式会社  
近藤潤子監修：看護研究、医学書院

《授業時間外学習》

自らのテーマを見つけるため図書館利用し、学術論文等を読むこと  
学生の主体性（問題意識、関心、やる気、持ち味）を尊重するので、研究のプロセスを丁寧に学習すること。

《備考》

研究計画書を提出後、研究を引き続いて実施すること。看護研究の履修届けは4年生 期に提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護における研究の役割	研究授業の全体的オリエンテーション、研究とは、看護研究とは、研究の道のりを概観する。研究倫理
2	看護研究の概観	研究の構成要素とプロセス、研究課題と概念枠組み、研究データの収集、研究データの分析、
3	文献検索・文献検討	文献検索と文献検討はなぜ必要か。一次文献，二次文献
4	研究デザイン：質的研究	研究課題の認識、文献検討、研究（介入）方法の選択、データ収集、データ分析、結果の解釈、新概念の発見、考察、一般化への提言
5	研究デザイン：質的研究	概念枠組み・仮説の創造、考察（結果と対話）、学術論文の紹介例（質的研究）
6	研究デザイン：量的研究	研究課題の認識、文献検討、概念枠組みの明確化、仮説の設定、研究方法の選択、データ収集（質問紙法）データの入力・分析、仮説の検証、結果の解釈、
7	研究デザイン：量的研究	一般化への提言、考察（結果と対話）、結論、学術論文の紹介例（量的研究）
8	研究計画書の作成	研究テーマ、研究の動機と目的、研究の背景、研究の意義、研究方法、研究のタイムテーブル
9	筆記試験	1-8回までの講義内容について筆記試験を行う。終了後、研究テーマについてオリエンテーション
10	自らのテーマを見つける	図書館において文献検索、教員の意見を聞くなど自律的に活動する。
11	自らのテーマを見つける	研究テーマ・指導要領希望調査票の提出：11回目の日時12時締切
12	研究計画書の作成	担当教員別に研究計画書の作成
13	研究計画書の作成	担当教員別に研究計画書の作成
14	研究計画書の作成	担当教員別に研究計画書の作成
15	研究計画書の作成	担当教員別に研究計画書の作成、平成24年8月5日研究計画書の提出

《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	リスクマネジメント論				
担当者氏名	山田 鈴子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

過去の事故事例、わが国の取組み経緯、K病院の事故防止対策などを紹介し、医療安全とセーフティーマネジメントの考え方を説明する。  
 事故予知訓練の演習や事故事例をグループ討議する中で、事故の分析、予防対策、倫理と法的問題、看護師に求められる能力と責任について討議する。

《授業の到達目標》

医療事故防止の基本理念を認識し、安全で良質な医療を提供するための看護師の責任や必要な態度、知識、技術が考えられ、危険の予知や防止するための行動が考えられる。

《成績評価の方法》

筆記試験（100％）

《テキスト》

『医療安全とリスクマネジメント』 嶋森良子・和子編集, 2008.10.1ヌーベルヒロカワ発行  
 その他

《参考文献》

- ・別冊『看護教育』「安全管理」の授業看護事故防止を中心に、看護教育編集室編集, 医学書院
- ・看護管理基本資料集
- ・看護管理学習テキスト第3巻 看護マネジメント論

《授業時間外学習》

今回の授業までに指示した内容の予習  
 グループワークの目的が時間内に達成できなかった場合は、放課後グループメンバーで話し合い、次回までに目標を達成しておく。

《備考》

K病院の医療安全管理者の支援あり

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	医療事故とは	過去の事故事例から、防止対策の重要性を知る
2	医療事故は何故おこる	医療事故のメカニズムと人間工学的対策
3	医療事故を防止するには1	発生した事故の分析方法、SHELモデル
4	医療事故を防止するには2	事故の分析、看護業務と医療事故の関係 医療事故と看護の法的責任、
5	K病院の医療安全とリスクマネジメントの実際	リスクの把握（ひやりハットメモ） リスクの分析 防止対策 実施（マニュアル改正と職員への周知） 評価 事故の危険予知訓練
6	グループワーク	事故事例についてグループ討議 発生要因、防止対策、注意義務、刑法上の責任（図書、インターネット利用可）
7	グループワーク	事故事例についてグループ討議 発表と意見交換 グループ討議の内容を整理し、発表する（先輩看護師の助言）
8	学習のまとめ	授業の振り返り 用語の確認、事故防止のための知識、技術、態度
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護の統合と実践実習				
担当者氏名	小林・川上・齋藤・白神・島田・瀧本・秦・久井・高橋・大植・東・渋谷・藤本・廣田				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

保健医療専門職のチームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づく総合的かつ継続的な看護実践能力を養うことができる。

《テキスト》

既習科目で使用した全てのテキストと参考書 看護管理 看護の統合と実践

《参考文献》

《授業の到達目標》

1.複数の患者を受け持ち、必要なケアを提供する実践能力を養うことができる。2.看護チームにおける役割遂行、フォローシップのあり方について学ぶことができる。3.患者の生活を支えるために継続的に提供される看護を学ぶことができる。4.他職種との連携・協働を通して保健医療専門職チームの統合的ケア提供のあり方と看護職の役割について学ぶことができる。5.マネジメント活動や管理者の役割を理解できる。

《授業時間外学習》

1.事前に看護管理(看護の統合と実践実習)の講義内容を復習しておくこと。  
2.実習中には既習の学習内容を活用し、複数の患者の問題解決にむけた看護展開ができるようにする。

《成績評価の方法》

実習指導要項の実習評価に基づいて評価する。 1.目標達成度 70点 2.実習態度 10点 3.最終レポート 20点

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内容の詳細は実習指導要項に提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	学校保健活動論				
担当者氏名	杉原 トヨ子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

地域看護学及関連する既習科目をもとに学校保健対象者の理解を深め、学校保健の果たす役割を理解し専門職としての実践能力を習得することを目的とする。そのために、学校保健分野で必要な情報収集・処理能力・情報発信能力、看護能力、カウンセリング能力、教育力・指導力、企画力・実行力、連携能力・調整能力、研究能力を学ぶ。

《授業の到達目標》

学校保健分野の対象者の特性が理解できる。  
 学校保健分野での対象者のニーズに対応ができる。  
 学校保健における養護教諭の専門性を述べるができる。  
 学校保健分野で必要な情報収集・処理能力・情報発信能力、看護能力、カウンセリング能力、教育力・指導力、企画力・実行力、連携能力・調整能力、研究能力を習得できる。

《成績評価の方法》

- (1)レポート課題、演習等の提出物50%
- (2)定期試50%（テキスト、資料等は持ち込み不可）

《テキスト》

『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監, 東山書房, 2011  
 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編, 第一法規, 2011  
 『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』

《参考文献》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編, 東山書房, 2011  
 『国民衛生の動向』厚生統計協会, 2011  
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編, 2010  
 『養護概説』杉浦守邦監, 東山書房, 2011  
 『学校救急処置マニュアル』杉浦守邦, 東山書房, 1998

《授業時間外学習》

学校保健に近接する領域の復習と領域実習では看護技術の向上に努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健計画の必要性	学校の理念、教育目標を踏まえ、当該年度の学校保健目標を基に年間計画を立案することは、教育基本法による「心身ともに健康な国民」の育成のためことが理解できる。
2	学校保健関係職員及び関係者の任務の理解	学校保健運営に必要な関係者の役割を理解することは、学校保健活動を円滑に行うために重要であることが理解できる。
3	1. 養護教諭の職務・学校保健計画立案・準備	学校保健計画立案のためには学内外の必要な情報を収集と処理そして企画・実行の威力及び連携能力・調整能力が必要であることが理解できる。
4	2. 養護教諭の職務 (1)健康診断の立案	学校保健で健康管理の視点で「人」「物」「金」を統合的にも活用し、適切で迅速な健康診断の実践が、教育カリキュラムとの関連から重要であることが理解できる。
5	(2)健康診断の実施	学校教職員の全面的協力により実施するため、適材適所の人配配置により、適切なフローチャートでスムーズな運営ができることが理解できる。
6	(3)健康診断の事後指導	健康管理の上で健康診断後の適切な事後指導を行うことは、対象者の健康の保持増進を図るためことが、教育の場を保証する学校の役割であることが理解できる。
7	3. 養護教諭の職務・保健室経営	保健室経営とは、対象者の健康の保持増進を図ることを目的として養護教諭の専門性を十分に生かしながら、保健室の機能を計画的に推進することであることが理解できる。
8	4. 養護教諭の職務・健康相談	学校保健の保健管理のうち対人管理の中の心身の管理に位置付けられており、学校の教育目標を受け学校保健計画のもとに具体的対応に対応できる知識・技術・態度を学ぶ。
9	5. 養護教諭の職務・健康教育	学校保健計画に基づき、年間、月間、日々の健康教育を行う。実践活動として「保健だより」の必要性を学び、情報発信能力を習得する。
10	6. 養護教諭の職務・保健教育の背景	年間授業計画においてカリキュラムの中で保健教育の中で「保健」の科目で授業案が作成するために必要な学習指導要領を学ぶ。
11	・保健教育の授業案の作成	テキストから実際の「保健」の授業案をを引用し、保健教育作成の視点について学ぶ。
12	7. 養護教諭の職務・応急処置	既習の看護学講義、実習から学んだ技術を、学校における応急処置のための看護能力を説明できる。
13	8. 養護教諭の職務・特別教育活動	特別教育活動として薬物・飲酒・喫煙・性感染症の現代的健康課題も背景とそ対応に必要な知識を学ぶ。
14	障害や慢性疾患を持ち対象者の健康管理	障害の程度、慢性疾患に対するアセスメント能力を有し、既習看護学の履修を踏まえ適切に対応できる能力の習得する。
15	学校保健活動と社会資源	地域にある学校であることを念頭に、地域者樹、関係機関および関係者との連携の必要性が理解できる。

《専門教育科目 関連科目 群（関連）》

科目名	学校保健演習				
担当者氏名	杉原 トヨ子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

既習の看護学や養護に関する専門科目を基に、学校保健を推進するための知識技術態度を習得する。学校保健安全法による学校保健計画、健康診断、健康相談、保健指導、事後措置、地域の関係機関との連携などの具体的活動について養護教諭の専門的技術に関する技術を演習のより習得する。その他に、応急処置、学校環境衛生管理のための簡易検査も実習する。

《授業の到達目標》

学校保健分野の対象者の特性が説明できる。  
 学校保健分野での対象者のニーズに対応ができる。  
 学校保健における養護教諭の専門性を述べるができる。  
 学校保健分野で必要な知識・技術・態度が実践できる。

《テキスト》

『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編,第一法規,2011  
 『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』  
 『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監,東山書房,2011

《参考文献》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編,東山書房,2011  
 『国民衛生の動向』厚生統計協会,2011  
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編,2010  
 『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監,東山書房,2011  
 『学校における応急処置マニュアル』出雲市学校保健会編,2008

《授業時間外学習》

演習が主体ですので、知識・技術・態度を学校保健関連既習の科目履修結果から学びを深めてください。

《成績評価の方法》

レポート課題20%、演習等の提出物20%、授業案作成20%、保健だより作成20%、プレゼンテーション20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健に必要な専門技術	情報集の重要性を学ぶため保健調査と健康観察の視点を実際の用紙を用いて演習する。
2	学校保健計画作成	テキストからの学校保健計画を引用し、学校保健活動論の学びを踏まえ学校保健計画を作成する。
3	健康診断実施に必要な計画案作成：健診項目	養護教諭の主な職務であることを踏まえ、対象によって異なる健診項目の確認を行い、学内外人的活用と学内の施設を活用しての具体的健康診断計画を作成する。
4	健康診断の事後指導の必要な事後措置：身体	対象者の健康の保持増進の目的のためは健康診断後の事後指導の重要性であることから、事後指導が必要な対象者に身体面での適切な保健指導の知識・技術を習得する。
5	健康診断の事後指導の必要な事後措置：精神	対象者の健康の保持増進の目的のためは健康診断後の事後指導の重要性であることから、事後指導が必要な対象者に精神面での適切な保健指導の知識・技術を習得する。
6	健康診断の事後指導の必要な事後措置：健康教育	対象者の健康の保持増進の目的のためは健康診断後の事後指導の重要性であることから、事後指導の必要な対象者に健康教育を実施する必要性が理解できる。
7	健康診断の事後指導の必要な事後措置：健康教育	前述の技術の一つとして「歯の健康」の保健だよりを作成する。
8	学校保健に必要な専門技術	内科的訴えのある事例から、適切な応急処置の技術を演習により習得する。
9	学校保健に必要な専門技術	外科的訴えのある事例から、適切な応急処置の技術を演習により習得する。
10	学校保健に必要な専門技術	精神的訴えのある事例から、適切なメンタルサポートの技術を演習により習得する。
11	学校保健に必要な専門技術	1. 養護実習では保健学習として「保健」の授業を担当するため、小学校、中学校、高等学校の3グループで「男女の体の違い」に関する指導案を作成する。
12	学校保健に必要な専門技術	2. 養護実習では保健学習として「保健」の授業を担当するため、小学校、中学校、高等学校の3グループで「男女の体の違い」に関する指導案を作成する。
13	学校保健に必要な専門技術	3. 養護実習では保健学習として「保健」の授業を担当するため、小学校、中学校、高等学校の3グループで「男女の体の違い」に関する指導案を発表する。
14	特別支援学校に必要な専門技術	学校保健の見地から特別支援学校に必要な養護教諭の専門性についてグループ討議により深める。
15	学校環境安全管理の実践	学校保健の安全保持の見地から校内巡視を行い、併せて照度検査、空気検査、騒音検査、水質検査を適宜行い環境安全について理解を深める。

平成 21（2009）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象  
 （ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成24年度の担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専門教育科目	I群(健康支援と社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2										
		家族関係論	講義	2					2									
		精神保健	講義	2				○	2									
		環境衛生学	講義	2				○			2							
		保健福祉行政論	講義	2		◇	□				2							
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2		◇	□	○			2							
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2							
	II群(人体の構造と機能)	基礎生物学	講義	2					2									
		形態機能論	講義	4		◇	□	○	4									
		生化学	講義	2					2									
		栄養学(食品学を含む)	講義	2		◇	□	○	2									
		薬理学	講義	2		◇	□	○		2								
		免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○	2									
	III群(疾病の成立及び回復の促進)	臨床病理病態学Ⅰ(内科系)	講義	4		◇	□				4							
		臨床病理病態学Ⅱ(外科系)	講義	2		◇	□				2							
		臨床病理病態学Ⅲ(周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2							
	IV群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2									
		看護理論	講義	1		◇	□	○	1									
		ヘルスアセスメント	講演	1				○	2									
		看護技術論Ⅰ(生活技術援助)	講演	2		◇	□	○		4								
		看護技術論Ⅱ(診療技術援助)	講演	2		◇	□	○		4								
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇	□	○	3									
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇	□	○		6								
		看護教育学	講義	1		◇	□				1							
		看護管理学	講義	1		◇	□				1							
		V群(成人・老年看護学)	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○			2						
	成人看護援助論Ⅰ(生命危機状態にある人)		講義	2		◇	□	○			2							
	成人看護援助論Ⅱ(常態の維持・増進が困難な人)		講義	2		◇	□	○			2							
成人看護学実習Ⅰ	実習		3		◇	□					9							
成人看護学実習Ⅱ	実習		3		◇	□					9							
老年看護学概論	講義		2		◇	□			2									
老年看護援助論	講義		2		◇	□				2								
老年看護学実習Ⅰ	実習		2		◇	□					6							
老年看護学実習Ⅱ	実習		2		◇	□					6							
小VI群(母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義	2		◇	□	○			2								
	母性看護援助論	講演	2		◇	□	○				4							
	母性看護学実習	実習	2		◇	□					2							
	小児看護学概論	講義	2		◇	□	○		2									
	小児看護援助論	講演	2		◇	□	○			4								
	小児看護学実習	実習	2		◇	□	○				6							

# カリキュラム年次配当表

看護学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年		2年		3年		4年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専門 教育	VII群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○						2					
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○							2				
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○								6			
		在宅看護概論	講義	2	◇	□								2				
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□								2				
		在宅看護実習	実習	2	◇	□									6			
		地域看護学概論	講義	2	◇	□								2				
		地域看護学活動論	講義	2	◇	□								2				
		産業保健論	講義	1	◇	□								1				
		学校保健概論	講義	1	◇	□	○							1				
		国際看護学	講義	1	◇	□										1		新田 幸子・他
		災害看護学	講義	1	◇	□										1		[畑 吉節未]
		地域看護学実習	実習	3	◇	□										9		久井 志保・藤本 優子
		育 科目	VIII群 (統合と実践の 看護)	看護研究Ⅰ(基礎編)	演習	2	◇	□							2			
看護研究Ⅱ(応用編)	演習			2	◇	□									2		*1	
リスクマネジメント論	講義			1										1				
看護の統合と実践実習	実習			2	◇	□									6			
関 連 科 目	IX群 (関連)	学校保健活動論	講義	2			○							2				
		学校保健演習	演習	2			○							2				
		養護概説	講義	2										2				
		健康相談活動の理論と実践	講義	2										2		(大平 曜子)	194	
基 礎 科 目	X群 (基礎)	基礎ゼミ	演習	2														

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

\*1 川上・道廣・加藤・新田・若井・齋藤・小林・杉原・白神・瀧本・島田・秦・久井・森崎・竹内・高橋・大植・東・  
渋谷・藤本・廣田

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成24年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教 職 に 関 連 す る 科 目	教職概論	講義	2				○	2									
	教育原理	講義	2				○	2									
	教育心理学	講義	2				○			2							
	教育制度論	講義	2				○	2									
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	講義	2				○			2							
	教育方法・技術論	講義	2				○			2							
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2				○			2							
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2				○	2									
	総合演習	演習	2				○							2			
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5				○								5		杉原 トヨ子

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、  
日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、  
指定の科目を修得すること。

科目名	国際看護学				
担当者氏名	新田 幸子、外部講師				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

私たちは、いま外国の社会、生活、文化、経済等に関心を向けなければよりよい生活することができない。感染の問題をとっても遠い国の出来事が即地球規模でその防止に当たらなければならない。私たちの住む地域でも多くの外国人が住み、日本で子供を産み、育て、教育し、より健康な生活を維持するための多くの情報を求めている。こうした国内外における国際看護について学びを深めていく。

《テキスト》

プリント配布

《参考文献》

国際看護入門：国際看護研究会：医学書院

《授業の到達目標》

1. グローバル化の中での健康問題とその背景、課題と各国の看護事情等を関連づけて考えることができる。
2. 実践的な看護活動をとおして、「国際協力」や「医療援助」について考えることができる。

《授業時間外学習》

国際協力用語について調べておくこと  
看護職が国際的に看護活動を実践している現状について図書・インターネット等で調査しておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験（課題）	80 %
授業態度	10 %
授業出席	10 %

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際看護学の概念	総論：国際協力と国際看護、国際協力の目指すもの、世界の中での看護職の果たす役割、国際看護に必要な視点、国際看護と異文化看護
2	なぜ国際看護が必要とされるのか	世界の中の様々な格差：開発途上国への人口の集中、経済格差、保健指標の格差、疾病構造の格差、栄養不良、国際協力と開発の思想
3	国際的な地域支援における医療看護活動 1	対象論：世界の人々の健康にかかわる諸問題：国際看護における対象の捉え方、人口学的要因、生物学的要因、文化的要因、社会的要因
4	国際的な地域支援における医療看護活動 2	開発途上国への技術協力、研修員受け入れ、専門家の派遣、機材供与、技術協力センター設置
5	途上国における健康問題と医療活動の連携	方法論：今できること、貧困への取り組み～より自然な分娩と母子の健康～看護職のフィリピンでの活動の実際
6	途上国における医療・看護活動の実際	診療所での診察、巡回診療、安全な分娩の介助、産後飢餓家庭及び栄養失調児への緊急支援
7	途上国における医療・看護活動の実際	母乳育児支援、手術が必要な子供への支援、食品添加物への注意喚起
8	途上国における医療・看護活動の実際	日本の学生と共に途上国における医療・看護活動を考える
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	災害看護学				
担当者氏名					
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。この授業では、災害が社会や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護を果たす役割を学ぶ。

《テキスト》

災害看護 - 心得ておきたい基本的な知識  
 小原真理子、酒井明子：南山堂,2007

《参考文献》

参考図書は、随時紹介します

《授業の到達目標》

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。
3. 個人の備えと地域防災を理解する。
4. 災害サイクルに応じた看護支援活動を理解する。
5. こころのケア、トリアージ等については体験的に理解する。

《授業時間外学習》

準備学習の内容  
 初講にて説明します。(各自の被災体験の確認から開始します)

《成績評価の方法》

「定期試験」：筆記試験60% 「平常点」：授業参加、受講態度20% 「その他」：課題レポートの内容20%

《備考》

阪神淡路大震災から17年後経過した。被災地・被災者及び災害時に活動した看護者から学ぶ真摯な姿勢を持って授業に臨んでほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	導入：私たちは災害から何を学んだのか。	今、災害看護を学ぶ意味。災害および災害看護に関する基礎的知識、災害、災害看護の定義・
2	災害発生時における社会の対応や仕組み、	備前の備え、組織の備え、災害に関する情報と伝達、災害時の地域アセスメント、国内外における災害関係機関の支援体制、災害ボランティア活動、他
3	災害時に看護が果たす役割、災害各期の看護活動	災害時に期待される能力と災害看護の基本姿勢、災害サイクル各期の看護活動、避難所・仮設住宅・復興住宅における看護・地域住民との連携、こころのケア、
4	災害時に必要な技術	トリアージの概念、トリアージの方法（演習）、応急処置：CRPとAEDの重要性と方法（演習）、AEDの配置状況の確認、搬送の手段、場所、順位
5	課題別演習	大学の備え・個人の備え・大学が避難所になった場合のレイアウト・被災地の心のケア・生活援助の工夫等
6	課題別演習	大学の備え・個人の備え・大学が避難所になった場合のレイアウト・被災地の心のケア・生活援助の工夫等
7	総括	発表・まとめ
8	総括	発表・まとめ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



《専門教育科目 専門実践科目 群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	地域看護学実習				
担当者氏名	久井 志保、藤本 優子、他				
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

地域保健活動の実際を理解し、地域における保健師の活動と保健・医療・福祉との協働活動、及び地域住民に対する健康支援のあり方について実践を通して理解する。さらに人々とのかかわりを通して人間とし成長し、生活を基盤とした地域看護活動の視座を培うことを目的とする。  
 詳細は実習要項に示す。

《授業の到達目標》

1. 地域の健康課題の明確化と計画・立案の必要性について理解できる。
2. 地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動について理解できる。
3. 地域の健康危機管理について知識としてわかる。
4. 地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化について知識としてわかる。
5. 専門的自律と継続的な質の向上について知識としてわか

《成績評価の方法》

出席・実習態度（30%）実習要項に示す  
 記録（50%）実習要項に示す  
 レポート（20%）期限までに提出する

《テキスト》

標準保健師講座1「地域看護学概論」、標準保健師講座2「地域看護学技術」、標準保健師講座3「地域看護活動論」 編著 / 奥山則子他 医学書院

《参考文献》

・国民衛生の動向 厚生統計協会  
 ・コミュニティ アズ パートナー地域看護学の理論と実際(第2版) 編集：エリザベス T. アンダーソン・ジュディス・マクファーレイン / 監訳：金川克子・早川和生

《授業時間外学習》

指定された課題（個人学習、グループ学習）を期限までに実施しておくこと。

《備考》

主体的に、意欲的に実習に取り組む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域看護学実習	地域看護学実習要項参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 総合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究				
担当者氏名	川上・道廣・加藤・新田・若井・齋藤・小林・杉原・白神・瀧本・島田・秦・久井・森崎・竹内・高橋・大植・東・渋谷・藤本・廣田				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導を受けながら研究を行う。看護研究に続いて、問題解決学習の集大成として、1年間かけて研究を行い、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学びつつ、看護観を育み豊かな人間性を培う。その結果をまとめて論文を作成し発表する。

《授業の到達目標》

1. 看護における研究の意義・必要性が理解できる。2. 看護研究を通して、論理的・科学的思考を修得することができる。3. 看護研究を通して、看護上の問題解決能力を養うとともに、看護実践の根拠を考えることができる。4. 看護研究における倫理的配慮の重要性を修得することができる。5. 看護研究を論文としてまとめ発表することができる。

《成績評価の方法》

看護研究計画書、論文は評価基準に基づいて内容を評価する。その他、研究や論文作成への積極的な取り組み等を総合的に評価する。

《テキスト》

看護研究 で使用した書籍及び資料、ノートなど。その他適宜指示する。

《参考文献》

看護における研究：南裕子編集 日本看護協会出版会  
 看護研究：近藤潤子監修 医学書院  
 看護研究 step by step 学研

《授業時間外学習》

看護研究 に関する図書・資料を読み、予習・復習を行うこと

《備考》

自ら選択した研究課題に積極的に取り組む態度が期待される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究 授業のオリエンテーション	研究 の進め方の説明、確認
2	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
3	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
4	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
5	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
6	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
7	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
8	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
9	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
10	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
11	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
12	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
13	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
14	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
15	研究発表	

《専門教育科目 関連科目 群（関連）》

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

学校教育における健康相談活動の概念や特質を踏まえて、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学びます。

《授業の到達目標》

健康相談活動の概念や役割について説明できる。健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。相談活動における連携を理解し、その中で自らの役割を説明できる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、課題の実践と提出 30%（実践参加せずに課題提出だけの場合、減点）、定期試験 60%とする。授業実施回数の3分の1以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談活動の養護教諭位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義、
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談活動に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際（1）	進め方の実際、保健室の機能、
9	健康相談活動の実際（2）	事例の学習、健康相談活動のプロセス 保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際（3）	ロールプレイの実際
11	健康相談活動の実際（4）	グループ学習（演習）
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談活動	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考文献》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房  
 『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房  
 『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい  
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。  
 課題レポートについては、文献にあたった上で作成する。  
 授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。  
 また、演習には必ずレポート課題の提出を義務づける。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	杉原トヨ子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では学校における養護教諭の実践活動から、教育者としての養護教諭の役割と職務の特質について学び、学校保健の意義を理解する。事前指導では、養護実習のための知識・技術を再確認するための機関である。事後指導は、実習の成果をまとめ発表することで他の学校での実習の学びを共有し、また、評価の視点を学ぶ。

《授業の到達目標》

事前指導では実習での心構えや実習に必要な準備事項について学習する。  
 実習中は学習した知識・技術を学校保健活動の中で体験することで、養護教諭の職務の専門性が理解できる。  
 一般校と特別支援学校での実習成果として養護教諭の役割が説明できる。  
 事後指導では実習成果の発表により学生間で共有できる。

《成績評価の方法》

事前学習資料の提出10%、実習成果発表会20%

実習での記録、保健だより、健康教育案、保健学習指導案、プレゼンテーション等の結果から70%

《テキスト》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編、東山書房、2011  
 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編、第一法規、2011  
 『特別支援学校学習指導要領自立活動編』文部科学省、2011

《参考文献》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010  
 『国民衛生の動向』厚生統計協会、2011  
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編2010  
 『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011

《授業時間外学習》

学校保健では特に近接領域である「小児看護学」「精神看護学」「心理学」「臨床病理形態学」及び「成人看護学」の復習をしてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導 養護実習の意義と目標	養護実習のために必要な養護実習の意義目標について学習する。
2	事前指導 養護実習の方法と内容	養護実習のために必要な知識を再確認する。
3	事前指導 養護実習の準備	養護実習のために必要な技術を再確認する。
4	事前指導 養護実習のためのガイド	養護実習要項により実習のガイダンスを行う
5	養護実習一般校	養護実習
6	養護実習一般校	養護実習
7	養護実習一般校	養護実習
8	養護実習一般校	養護実習
9	養護実習特別支援学校	養護実習
10	事後指導 実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
11	事後指導 実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
12	事後指導 実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
13		
14		
15		

